気象庁
Japan Meteorological Agency

報　道　発　表

いのちとくらしをまもる
防　災　減　災

令和８年11月９日
地　震　火　山　部

南海トラフ地震関連解説情報について

－最近の南海トラフ周辺の地殻活動－

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時（注）と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

（注）南海トラフ沿いの大規模地震（Ｍ８からＭ９クラス）は、「平常時」においても今後３０年以内に発生する確率は高い（詳細は「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）」参照）と評価されており、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約８０年が経過していることから切迫性の高い状態です。

１．地震の観測状況

（顕著な地震活動に関係する現象）

１０月２５日０８時５９分に日向灘を震源とするＭ５．２の地震が発生しました。この地震は、発震機構が北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生しました。

１１月８日０１時０４分に愛知県東部の深さ４１ｋｍを震源とするＭ５．７の地震が発生しました。この地震は、発震機構が東北東－西南西方向に張力軸を持つ型で、フィリピン海プレート内部で発生しました。

（ゆっくりすべりに関係する現象）

プレート境界付近を震源とする深部低周波地震（微動）のうち、主なものは以下のとおりです。

（１）四国西部：９月２７日から１０月１４日
（２）東海から紀伊半島北部：１０月２日から１０月１８日
（３）四国西部：１０月１９日から１１月１日

２．地殻変動の観測状況

（ゆっくりすべりに関係する現象）

上記（１）から（３）の深部低周波地震（微動）とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計でわずかな地殻変動を観測しました。周辺の傾斜データでも、わずかな変化が見られました。

ＧＮＳＳ観測によると、２０２２年初頭から、静岡県西部から愛知県東部にかけて、それまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されています。また、２０２６年夏頃から、四国西部でそれまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されています。

（長期的な地殻変動）

ＧＮＳＳ観測等によると、御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺では長期的な沈降傾向が継続しています。

３．地殻活動の評価

（顕著な地震活動に関係する現象）

１０月２５日に発生した日向灘の地震及び１１月８日に発生した愛知県東部の地震は、その規模から南海トラフ沿いのプレート間の固着状況の特段の変化を示すものではないと考えられます。

（ゆっくりすべりに関係する現象）

上記（１）から（３）の深部低周波地震（微動）と地殻変動は、想定震源域のプレート境界深部において発生した短期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。

２０２２年初頭からの静岡県西部から愛知県東部にかけての地殻変動及び２０２６年夏頃からの四国西部の地殻変動は、それぞれ渥美半島周辺から浜名湖周辺にかけて及び四国西部周辺のプレート境界深部における長期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。このうち、渥美半島周辺から浜名湖周辺にかけての長期的ゆっくりすべりは、すべりの中心が渥美半島周辺から、浜名湖の東側に移動しています。

これらの深部低周波地震（微動）、短期的ゆっくりすべり、及び長期的ゆっくりすべりは、それぞれ、従来からも繰り返し観測されてきた現象です。

（長期的な地殻変動）

御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺で見られる長期的な沈降傾向はフィリピン海プレートの沈み込みに伴うもので、その傾向に大きな変化はありません。

上記観測結果を総合的に判断すると、南海トラフ地震の想定震源域ではプレート境界の固着状況に特段の変化を示すようなデータは得られておらず、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

以上を内容とする「南海トラフ地震関連解説情報」を本日１７時００分に発表しました。

添付の説明資料は、気象庁、国土地理院、防災科学技術研究所及び産業技術総合研究所の資料から作成。
気象庁の資料には、防災科学技術研究所、産業技術総合研究所、東京大学、名古屋大学等のデータも使用。
産業技術総合研究所の資料には、防災科学技術研究所及び気象庁のデータも使用。

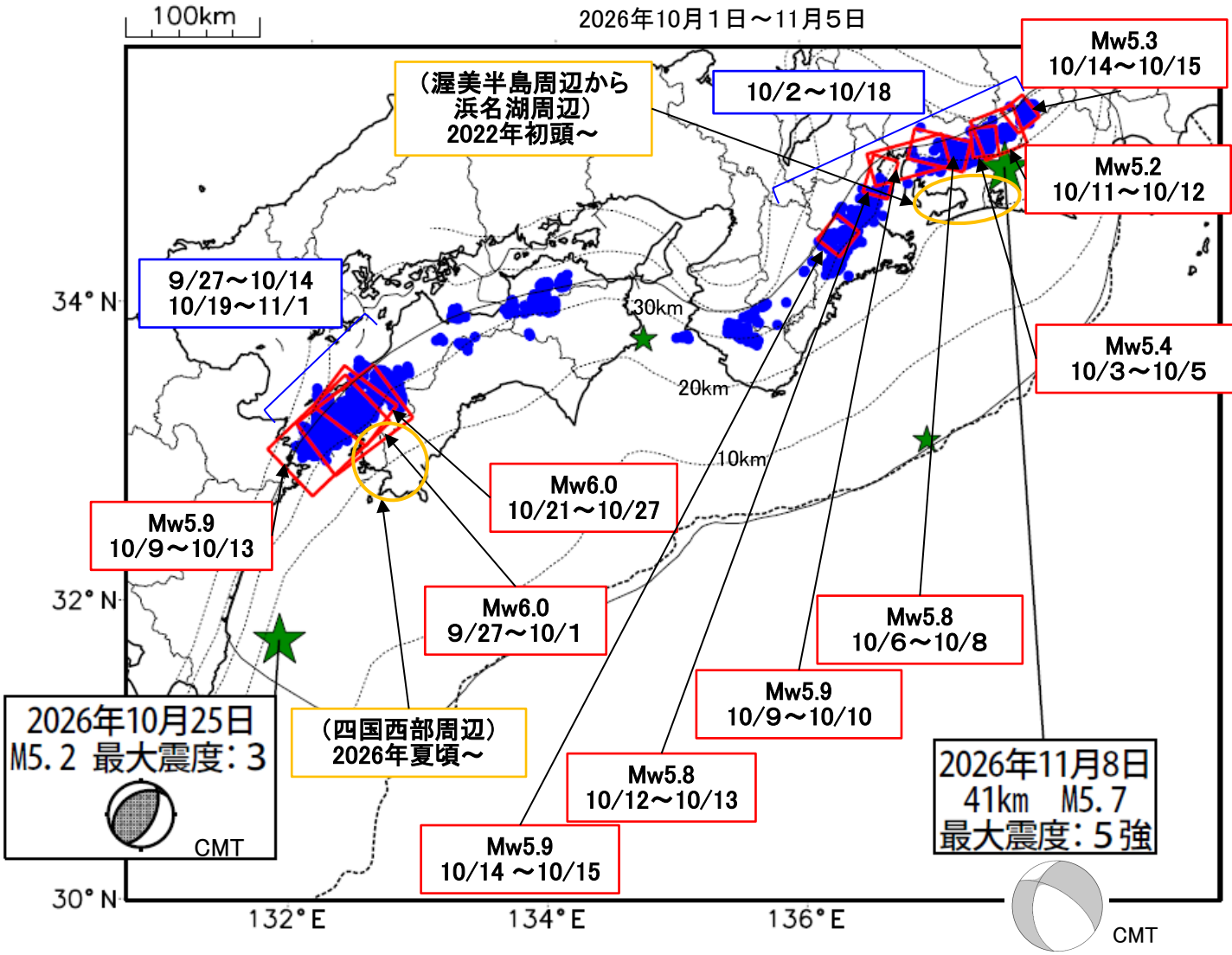
気象庁では、大規模地震の切迫性が高いと指摘されている南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会を毎月開催しています。本資料は本日開催した評価検討会で評価した、主に前回（令和８年９月７日）以降の調査結果を取りまとめたものです。

なお、日時のデータなど、精査後修正することがあります。

問合せ先：地震火山部　地震火山技術・調査課　大規模地震調査室　担当 上野
電話 03-6758-3900（内線 5244）

最近の南海トラフ周辺の地殻活動

2026年10月１日～11月５日



緑（★）
通常の地震（最大震度３以上もしくはM3.5以上の地震、大きさはMの大きさを示す）

青（●）
深部低周波地震（微動）

赤（□）
短期的ゆっくりすべり

黄（○）
長期的ゆっくりすべり

※地図中の点線は、Baba et al.(2002)、Hirose et al.(2008)、Nakajima and Hasegawa(2007)によるフィリピン海プレート上面の深さを示す。

※深部低周波地震（微動）及び短期的ゆっくりすべりは、９月26日以降のものを示す。

※通常の地震は、11月８日までのものを示す。

通常の地震（最大震度３以上もしくはM3.5以上）・・・・・・・・・気象庁の解析結果による。
深部低周波地震（微動）・・・・・・・・・（震源データ）気象庁の解析結果による。　（活動期間）気象庁及び防災科学技術研究所の解析結果による。
短期的ゆっくりすべり・・・・・・・・・・・【四国西部】産業技術総合研究所の解析結果を示す。
　　【東海から紀伊半島北部】気象庁の解析結果を示す。
長期的ゆっくりすべり・・・・・・・・・・・国土地理院の解析結果を元におおよその場所を表示している。

気象庁作成

令和８年 10 月１日～令和８年 11 月５日の主な地震活動

○南海トラフ巨大地震の想定震源域およびその周辺の地震活動：

【最大震度３以上を観測した地震もしくは M3.5 以上の地震及びその他の主な地震】

月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	最大震度	発生場所
10/13	20:44	徳島県南部	38	3.9	２	フィリピン海プレート内部
10/25	08:59	日向灘		5.2	３	フィリピン海プレートと陸のプレートの境界
11/２	12:25	三重県南東沖		3.7	－	
11/８	01:04	愛知県東部[注]	41	5.7	５強	フィリピン海プレート内部

※震源の深さは、精度がやや劣るものは表記していない。
※発生場所は、フィリピン海プレートの中で発生した地震のうち、沈み込むプレートの内部で発生したものは「フィリピン海プレート内部」、それ以外は「フィリピン海プレート内」と表記している。
※太平洋プレートの沈み込みに伴う震源が深い地震は除く。
※主な地震は、11 月８日までのものを示す。
注）情報発表に用いた震央地名は「静岡県西部」である。

○深部低周波地震（微動）活動期間

四国	紀伊半島	東海
■四国東部 10 月１日～２日 10 月６日 10 月 10 日～14 日 10 月 17 日 10 月 21 日～22 日 10 月 31 日 11 月５日 ■四国中部 10 月３日 10 月９日～10 日 10 月 20 日 10 月 27 日 11 月５日 ■四国西部 ９月 27 日～10 月 12 日[注1)]・・・（１） 10 月 14 日～16 日 10 月 19 日～11 月１日[注2)]・・・（３） 11 月３日～（継続中）	■紀伊半島北部 10 月 13 日～18 日[注3)]・・・（２） ■紀伊半島中部 10 月２日 10 月 18 日～19 日 ■紀伊半島西部 ９月 30 日～10 月１日 10 月 12 日 10 月 15 日	10 月２日～17 日[注3)]・・・（２） 10 月 23 日 10 月 31 日～11 月１日

※深部低周波地震（微動）活動は、気象庁一元化震源を用い、地域ごとの一連の活動（継続日数２日以上または活動日数１日の場合で複数個検知したもの）について、活動した場所ごとに記載している。
※ひずみ変化と同期して観測された深部低周波地震（微動）活動を赤字で示す。
※上の表中（１）、（２）、（３）を付した活動は、今期間、主な深部低周波地震（微動）活動として取り上げたもの。

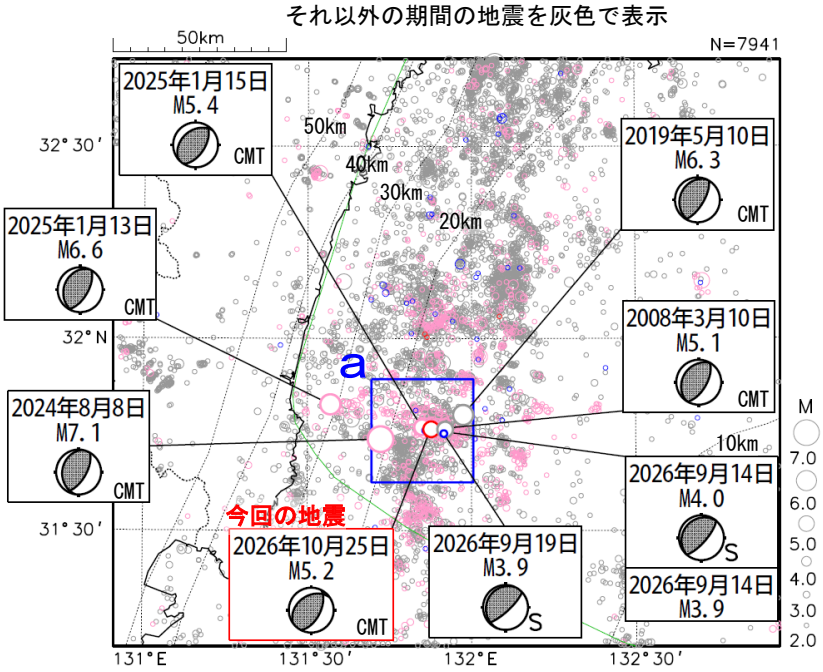
注１） 防災科学技術研究所による解析では、10 月９日から 14 日頃にかけて微動活動が見られた。
注２） 防災科学技術研究所による解析では、10 月 21 日から 26 日頃にかけて微動活動が見られた。
注３） 防災科学技術研究所による解析では、10 月３日から 17 日頃にかけて微動活動が見られた。

気象庁作成

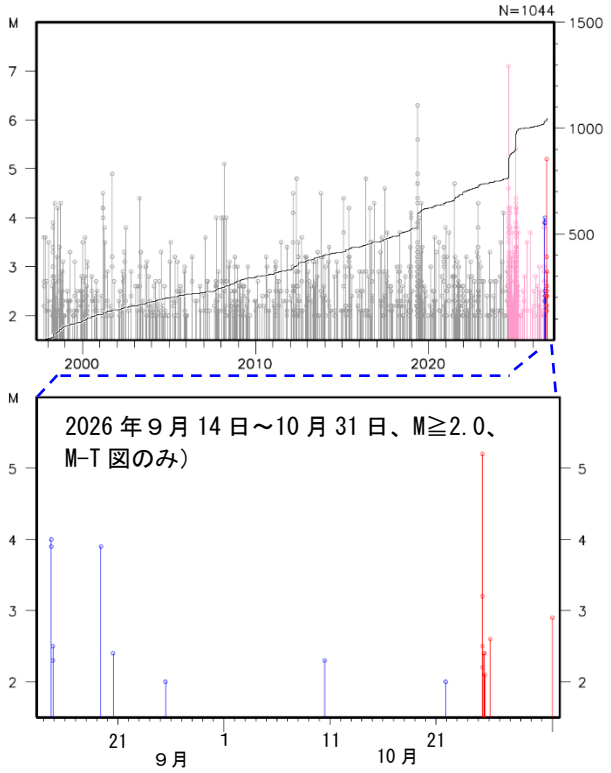
10 月 25 日　日向灘の地震

2026 年 10 月 25 日 08 時 59 分に日向灘で M5.2 の地震（Mw5.2、最大震度３）が発生した。この地震は、発震機構が北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

震央分布図
（1997 年 10 月１日～2026 年 10 月 31 日、深さ０～60km、M≧2.0）
2024 年８月８日～2026 年９月 13 日の地震を桃色で表示、
2026 年９月 14 日～10 月 24 日の地震を青色で表示、
2026 年 10 月 25 日以降の地震を赤色で表示、
それ以外の期間の地震を灰色で表示



領域ａ内の M-T 図及び回数積算図



※ 発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。
※ 震央分布図中の黒色の点線は、Baba et al. (2002)、Hirose et al. (2008)及び Nakajima and Hasegawa (2007)によるフィリピン海プレート上面のおおよその深さを示す。緑色線は南海トラフ巨大地震の監視領域を示す。

気象庁作成

2026年10月25日 日向灘の地震の3D CMT解析結果

2026/10/25 08:59:42

31.8°N 131.8°E Depth: 18 km / Mw 5.20

Strike [°]	Dip [°]	Rake [°]	V.R.
34/ 219	75/ 15	89/ 95	86.2 %

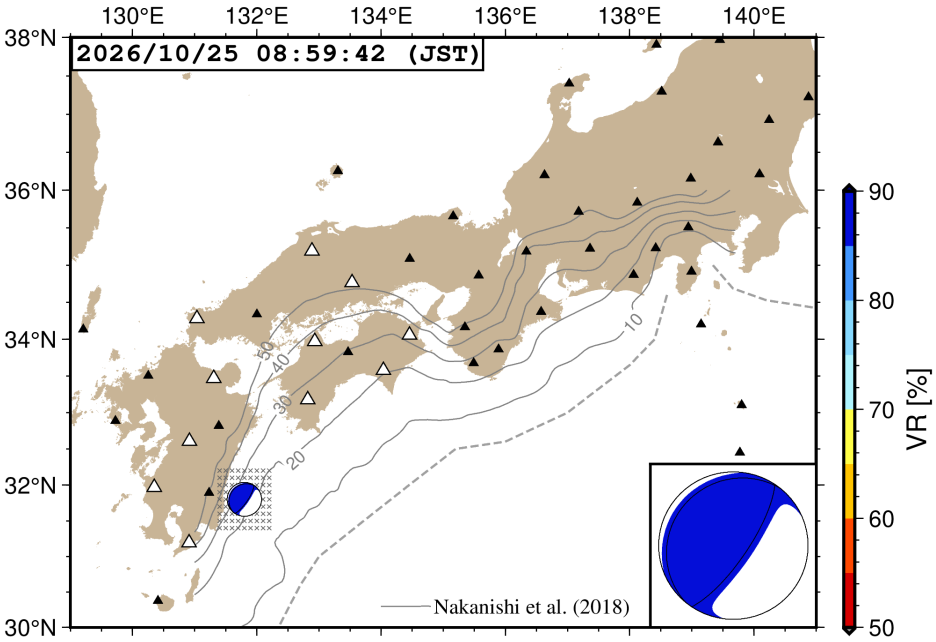


図1 三次元地震波速度構造を用いたCMT解析結果. Takemura et al. (2020) の解析方法を一部改良して用いた. 解析に用いたF-net観測点の位置を△で, それ以外のF-net観測点を▲で示す. 灰色線は, Nakanishi et al. (2018) によるフィリピン海プレート上面深度等深線を表す.

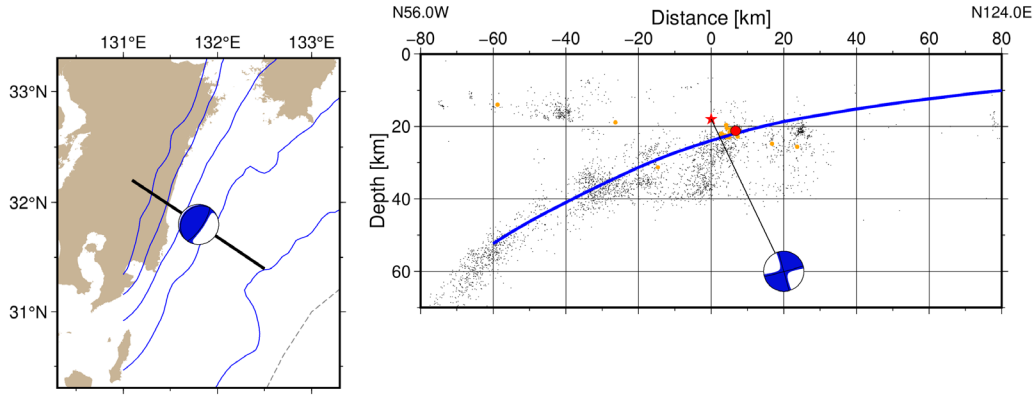


図2 鉛直断面におけるプレート上面モデル(青線:Nakanishi et al., 2018)との対比. 赤星はセントロイド位置を表す. Nakanishi et al.(2025)による三次元地震波速度構造を用いて求めたM≧1.0の地震(黒点:2003/01/01-2026/10/25 08:58, 橙丸:2026/10/25 08:59-2026/11/02 09:30)及びM≧5.0の地震(赤丸:2026/10/25 08:59-2026/11/02 09:30)の震源位置もあわせて示す.

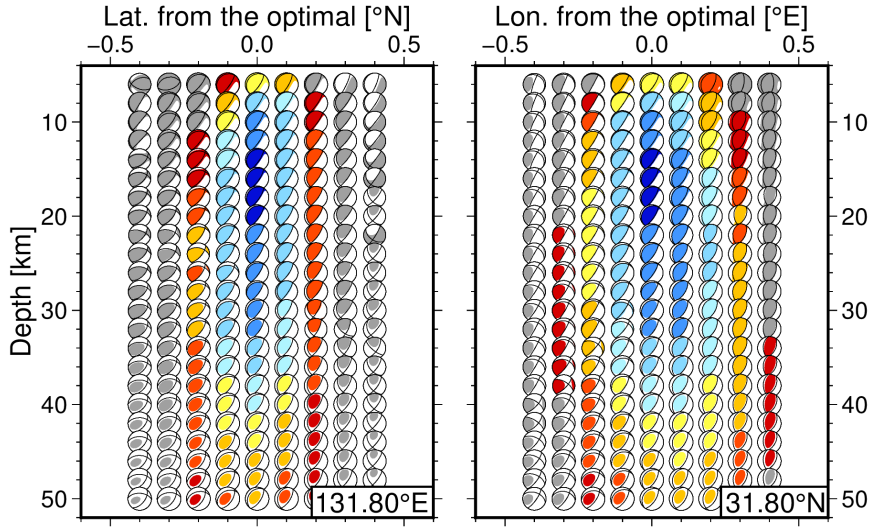


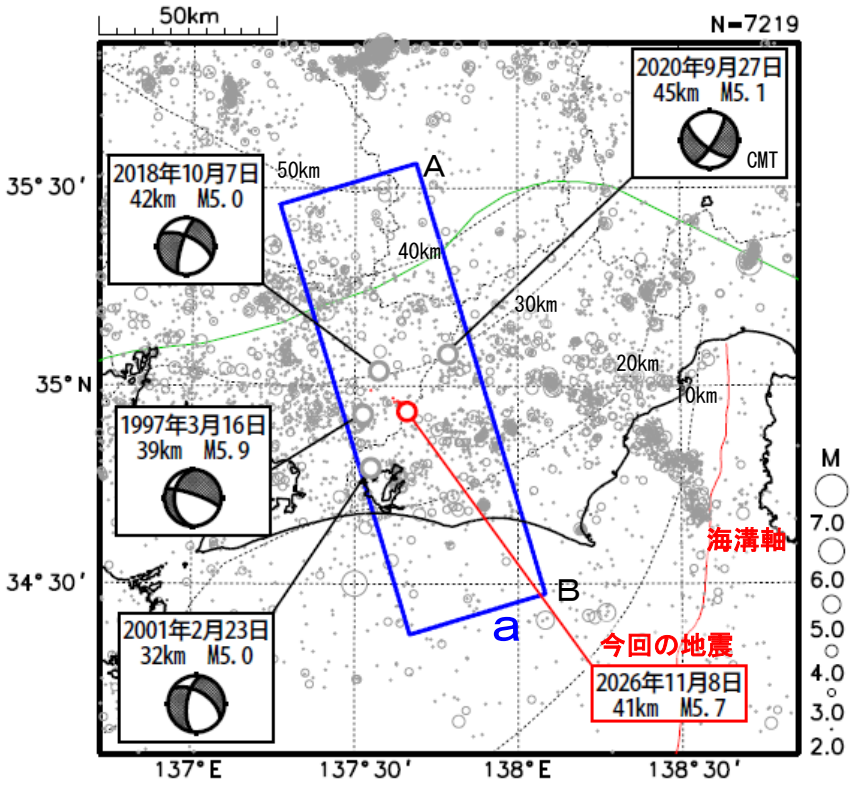
図3 最もV.R.が高かったセントロイド位置周辺のCMT解とそのV.R.. 配色は図1のカラーバーに同じ.

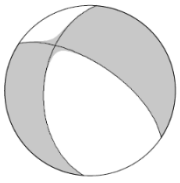
11 月８日　愛知県東部の地震

情報発表に用いた震央地名は「静岡県西部」である

2026 年 11 月８日 01 時 04 分に愛知県東部で M5.7 の地震（Mw5.6、最大震度５強）が発生した。この地震は、発震機構が東北東－西南西方向に張力軸を持つ型で、フィリピン海プレート内部で発生した。

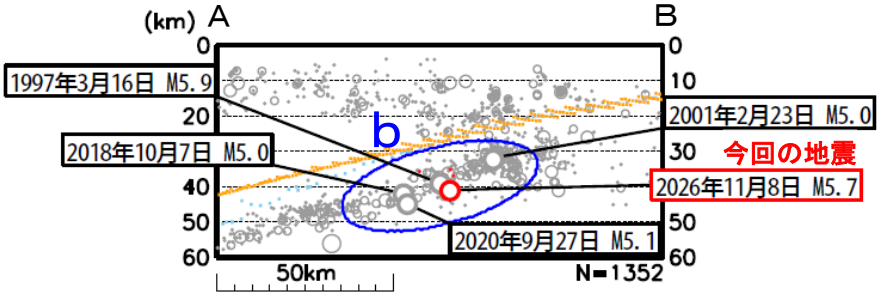
震央分布図
（1990 年１月１日～2026 年 11 月８日、深さ０～60km、M≧2.0）
2026 年 11 月８日の地震を赤色で表示



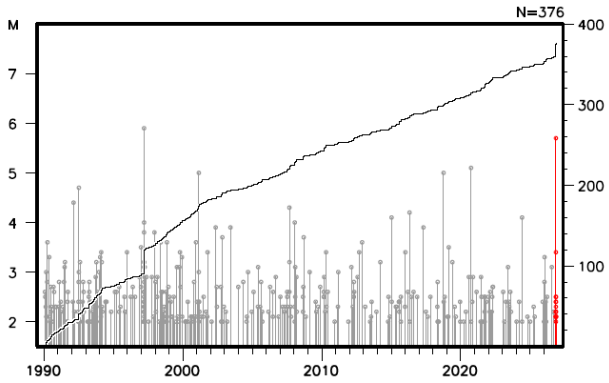


今回の地震の CMT 解
Mw5.6 セントロイドの深さ 34km

領域ａ内の断面図（Ａ－Ｂ投影）



領域ｂ内の M-T 図及び回数積算図



※ 震央分布図中の黒色の点線は、Baba et al. (2002)、Hirose et al. (2008)及び Nakajima and Hasegawa (2007)による フィリピン海プレート上面のおおよその深さを示す。緑色線は南海トラフ巨大地震の監視領域を示す。
※ 断面図中の水色の点線は Hirose et al. (2008)、Baba et al. (2002)、橙色の点線は内閣府 (2011) による フィリピン海プレート上面のおおよその深さを示す。
※ 2026 年 11 月８日の震源要素は、今後の精査で変更する場合がある。

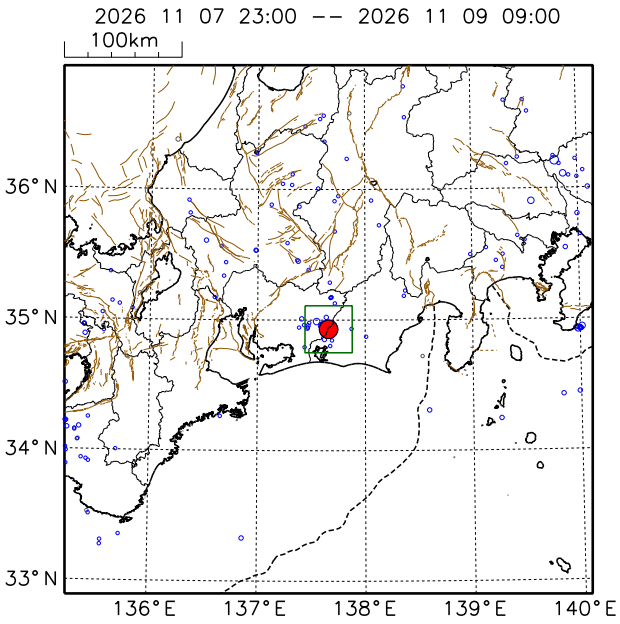
気象庁作成

今回の地震活動

震央分布図（詳細図）

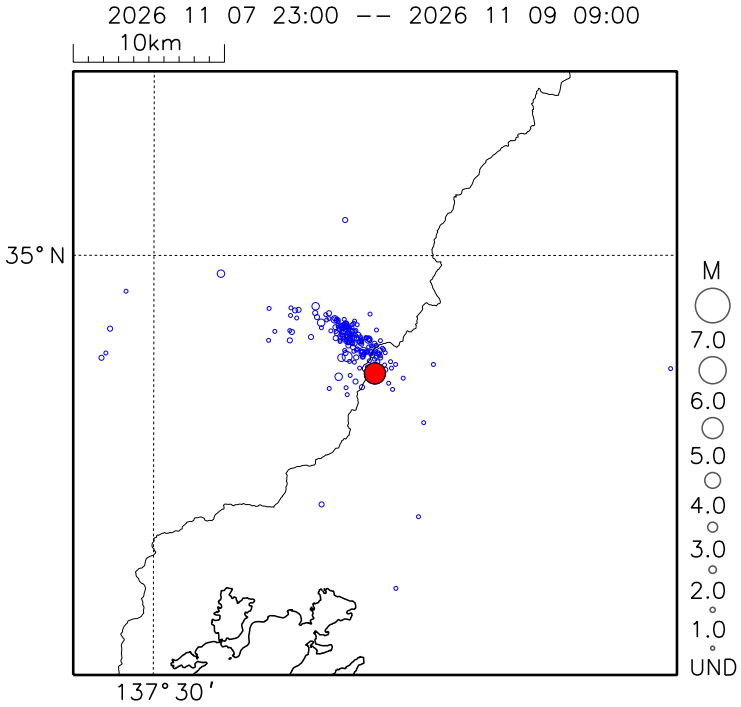
震央分布図（広域図）

深さ0 -- 100km、　M　全て

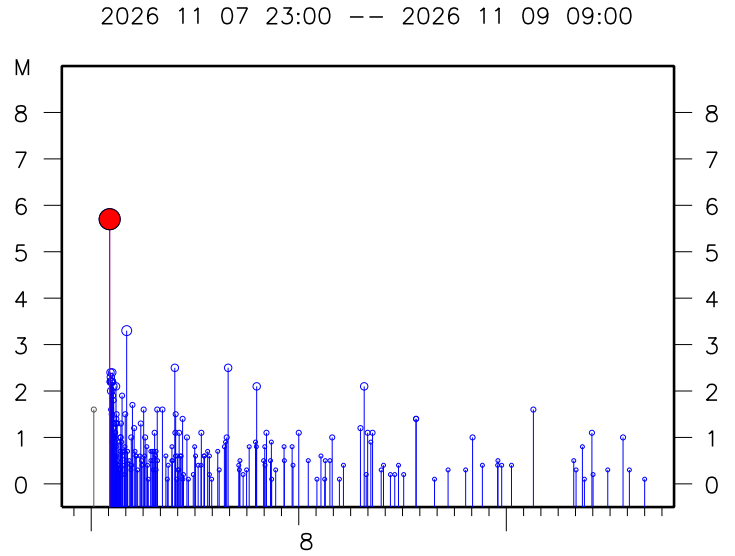


震央分布図（広域図）の四角形領域内の震央分布図

深さ0 -- 100km、　M　全て



震央分布図（詳細図）の地震活動経過図



(震源の色について)赤色：今回の地震、青色：今回の地震より後に発生した地震、灰色：今回の地震より前に発生した地震

- 震央分布図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。
- 震央分布図中の黒色の点線は、海溝軸を示す。

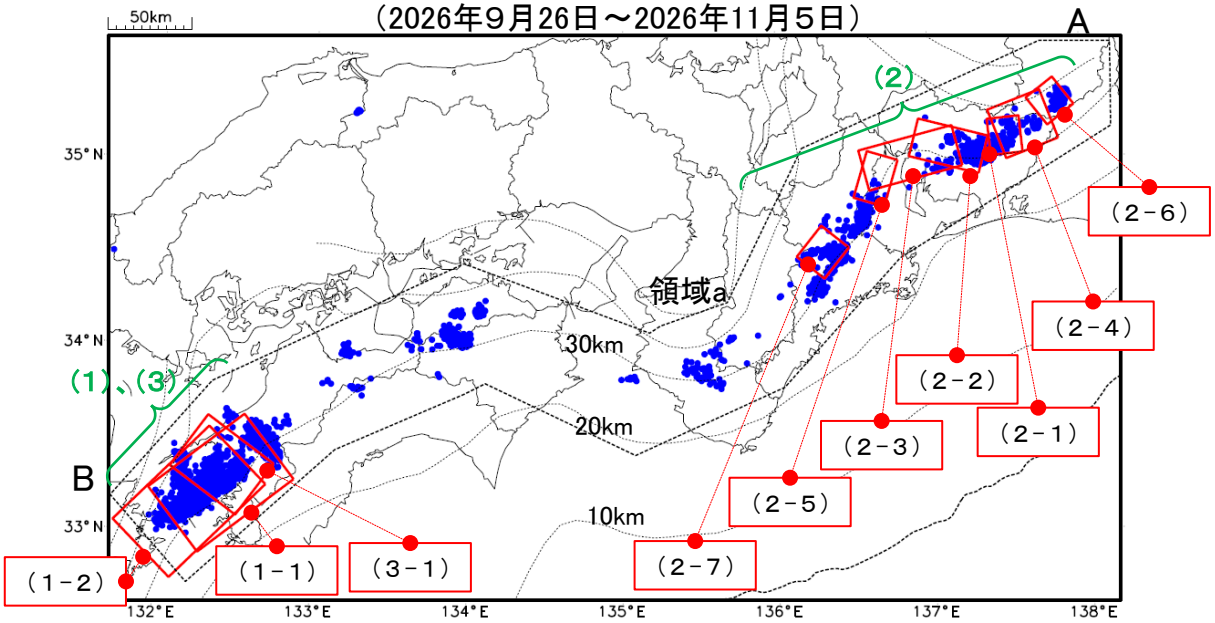
＜資料の利用上の留意点＞

- 表示している震源は、速報値を含みます。
- 速報値の震源には、発破等の地震以外のものや、誤差の大きなものが表示されることがあります。
- 個々の震源の位置や規模ではなく、震源の分布具合や活動の盛衰に着目して地震活動の把握にご利用ください。

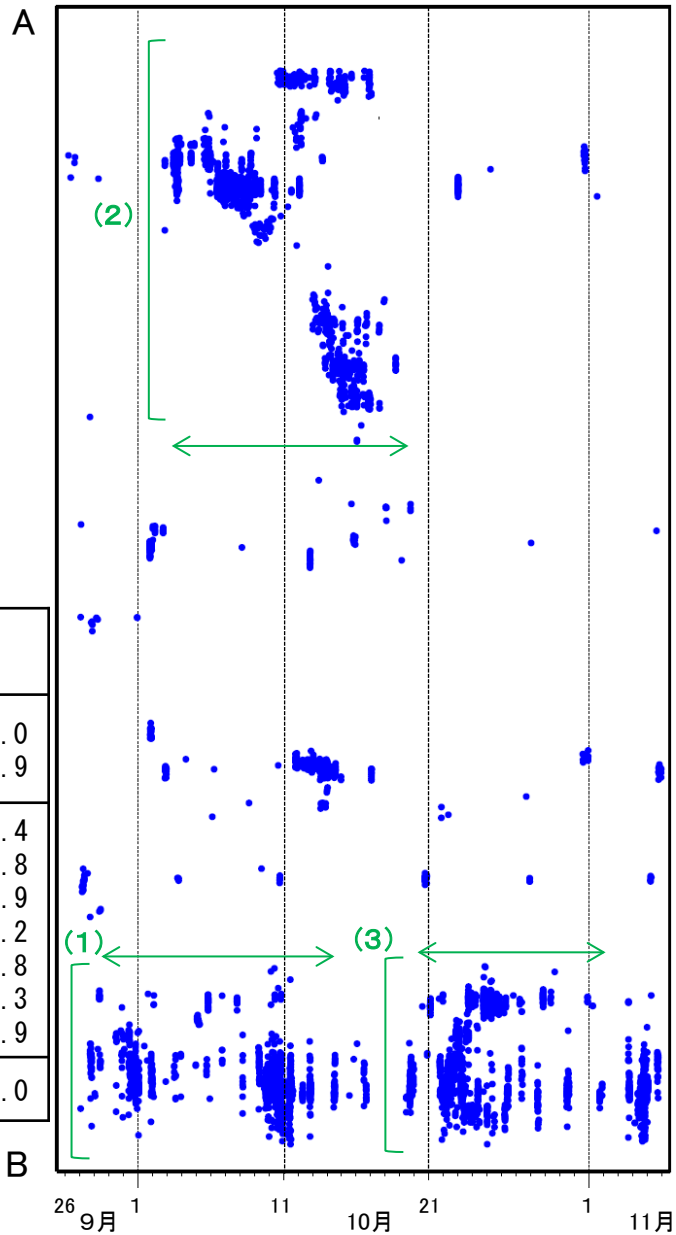
気象庁作成

深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべりの全体概要

深部低周波地震（微動）の震央分布図と短期的ゆっくりすべりの断層モデル
（2026年９月26日～2026年11月５日）



領域a（点線矩形）内の深部低周波地震（微動）の時空間分布図（A–B投影）



気象庁作成

主な深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり

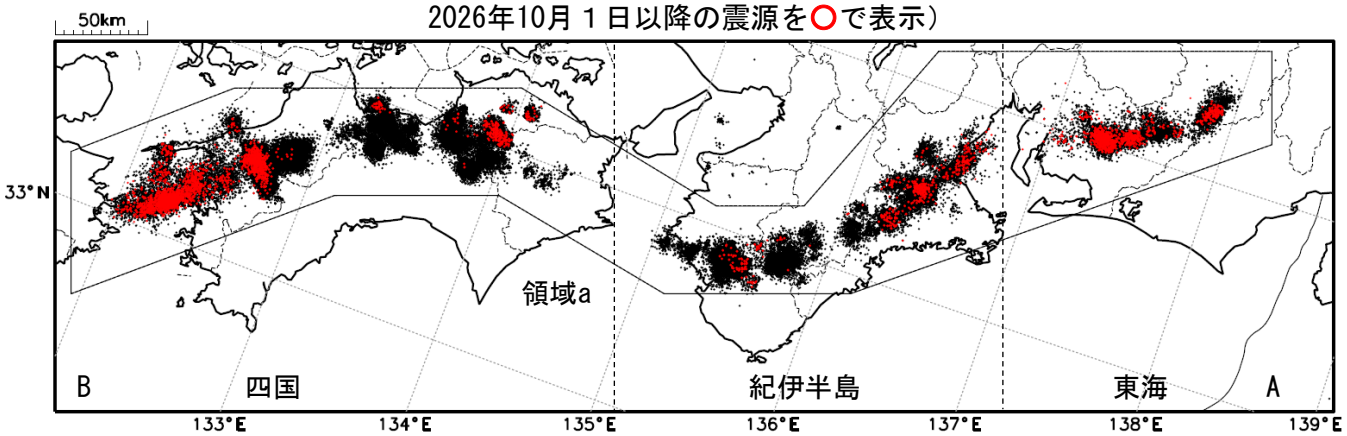
活動場所		深部低周波地震(微動)活動の期間	短期的ゆっくりすべりの期間と規模
(1)	四国西部	９月27日～10月14日	（１－１） ９月27日12時～10月１日24時：Mw6.0 （１－２） 10月９日12時～10月13日24時：Mw5.9
(2)	東海 から 紀伊半島北部	10月２日～18日	（２－１） 10月３日00時～10月５日24時：Mw5.4 （２－２） 10月６日00時～10月８日24時：Mw5.8 （２－３） 10月９日00時～10月10日24時：Mw5.9 （２－４） 10月11日12時～10月12日12時：Mw5.2 （２－５） 10月12日00時～10月13日24時：Mw5.8 （２－６） 10月14日00時～10月15日24時：Mw5.3 （２－７） 10月14日00時～10月15日24時：Mw5.9
(3)	四国西部	10月19日～11月１日	（３－１） 10月21日12時～10月27日24時：Mw6.0

●：深部低周波地震（微動）の震央（気象庁の解析結果を示す）期間（気象庁及び防災科学技術研究所の解析結果を示す）
□：短期的ゆっくりすべりの断層モデル（四国西部：産業技術総合研究所の解析結果を示す。
東海から紀伊半島北部：気象庁の解析結果を示す。）
点線は、Baba et al.(2002)、Hirose et al.(2008)、Nakajima and Hasegawa(2007)によるフィリピン海プレート上面の深さ（10kmごとの等深線）を示す。

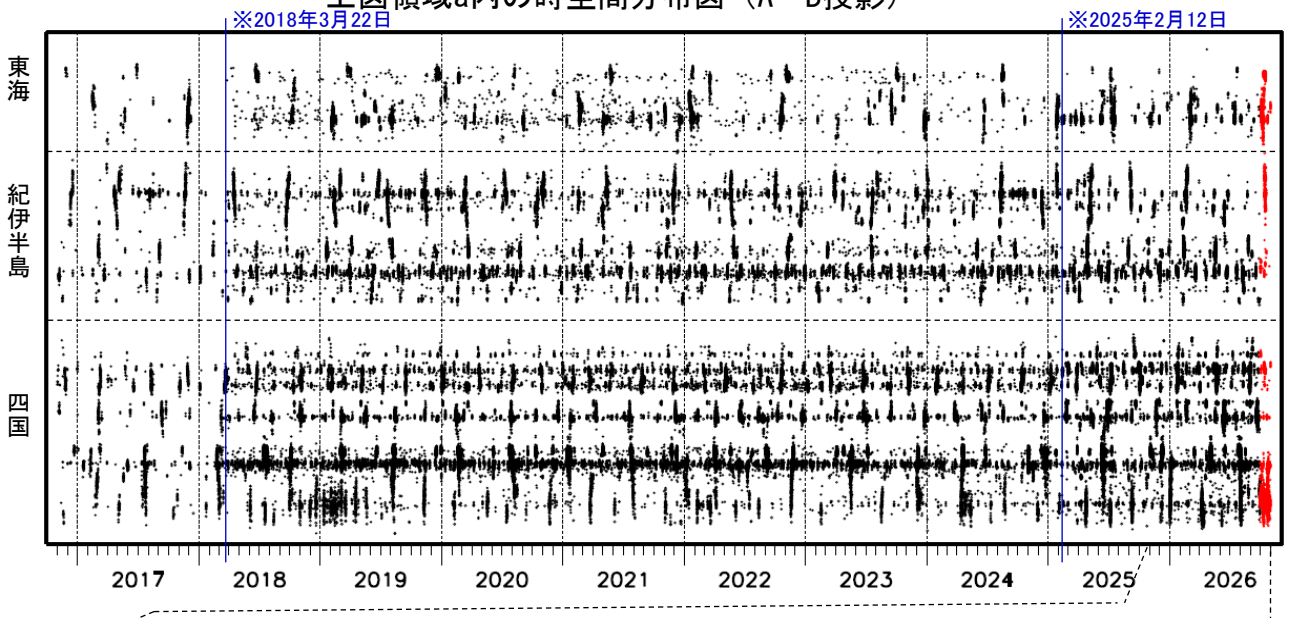
深部低周波地震（微動）活動（2016年11月１日～2026年10月31日）

深部低周波地震（微動）は、「短期的ゆっくりすべり」に密接に関連する現象とみられており、プレート境界の状態の変化を監視するために、その活動を監視している。

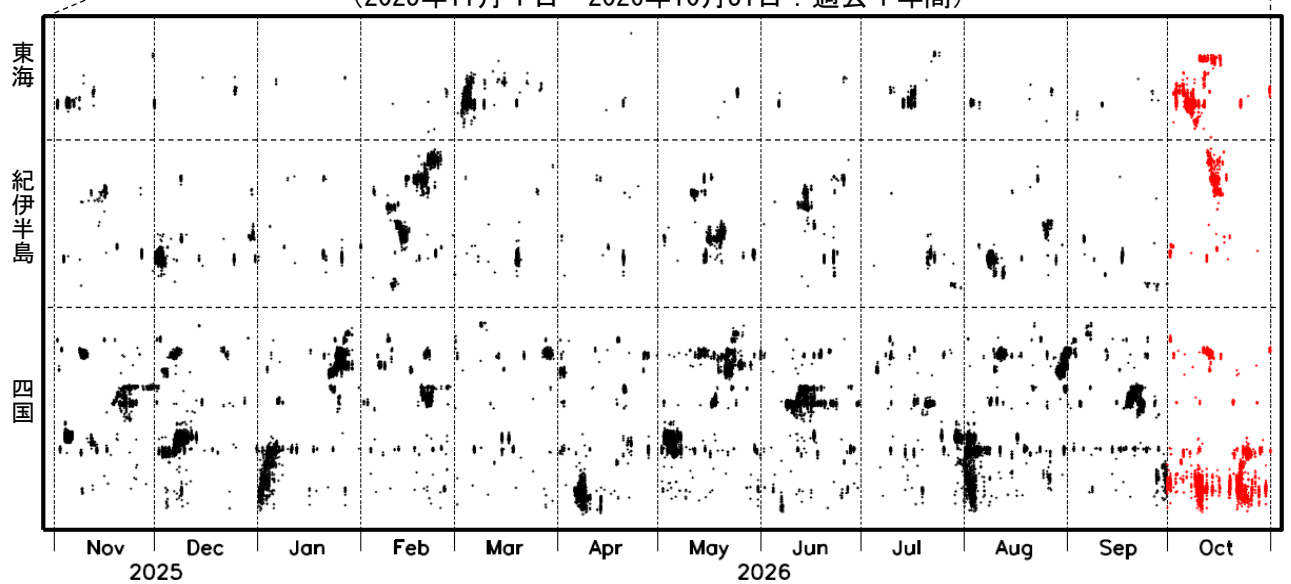
震央分布図（2016年11月１日～2026年10月31日：過去10年間
2026年10月１日以降の震源を○で表示）



上図領域a内の時空間分布図（A－B投影）



（2025年11月１日～2026年10月31日：過去１年間）



※2018年３月22日、および、2025年2月12日から、深部低周波地震（微動）の検知手法の改善により、
それ以前と比較して検知能力がそれぞれ変わっている。

気象庁作成

紀伊半島・東海地域の深部低周波微動活動状況
（2026 年 10 月）

防災科研 NIED　MOWLAS

● 10 月 3 ～ 17 日頃に東海地方から紀伊半島中部において，活発な微動活動.

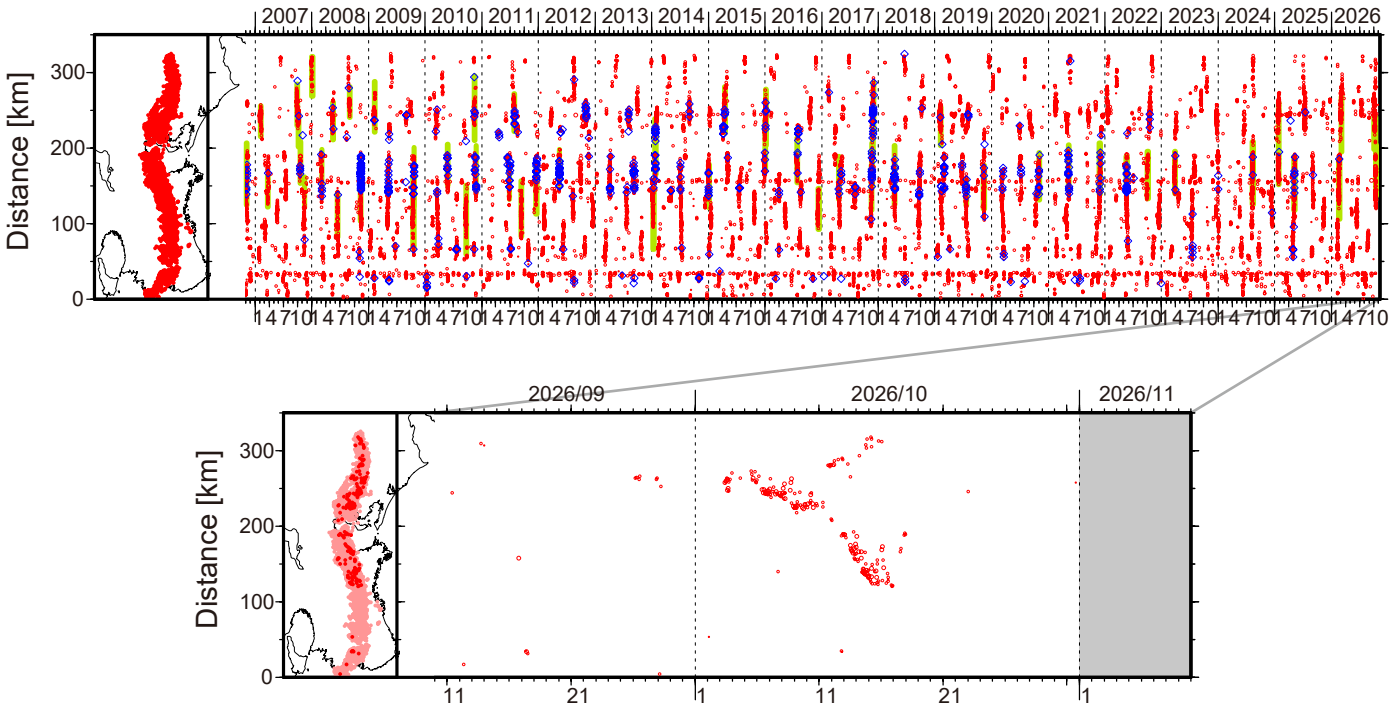


図 1．紀伊半島･東海地域における 2006 年 11 月～2026 年 10 月 31 日までの深部低周波微動の時空間分布（上図）．赤丸はエンベロープ相関・振幅ハイブリッド法 (Maeda and Obara, 2009) およびクラスタ処理 (Obara et al., 2010) によって 1 時間毎に自動処理された微動分布の重心である．青菱形は周期 20 秒に卓越する超低周波地震 (Ito et al., 2007) である．黄緑色の太線はこれまでに検出された短期的スロースリップイベント (SSE) を示す．下図は 2026 年 10 月を中心とした期間の拡大図である．10 月 3 ～ 17 日頃には，長野県南部から三重県中部において活発な微動活動がみられた．この活動は愛知県東部で開始し，5 日頃までやや東方向に活動域が拡大した後，6 日頃から西側で活動が開始し，11 日頃まで西方向への活動域の移動がみられた．11 日頃からは，愛知・長野県境付近でも活動が開始し，15 日頃まで北東方向への活動域の移動がみられ，16 日頃に終息した．三重県北部では 12 日頃から活動の活発化がみられ，14 日頃まで南東方向への活動域の拡大がみられた．この活動に際して，傾斜変動から短期的 SSE の断層モデルも推定されている．

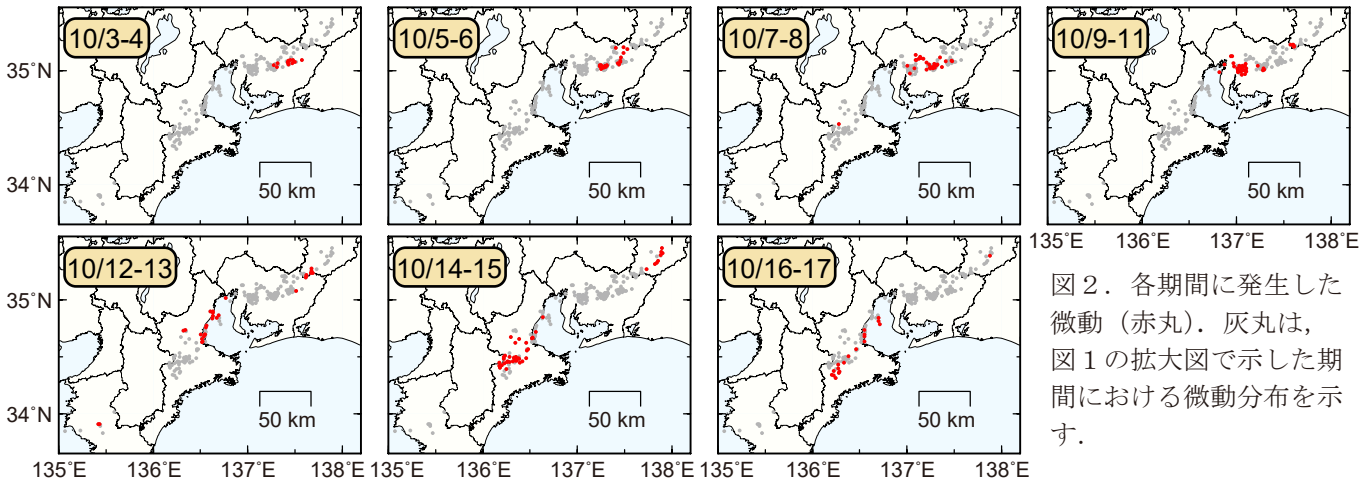


図 2．各期間に発生した微動（赤丸）．灰丸は，図 1 の拡大図で示した期間における微動分布を示す.

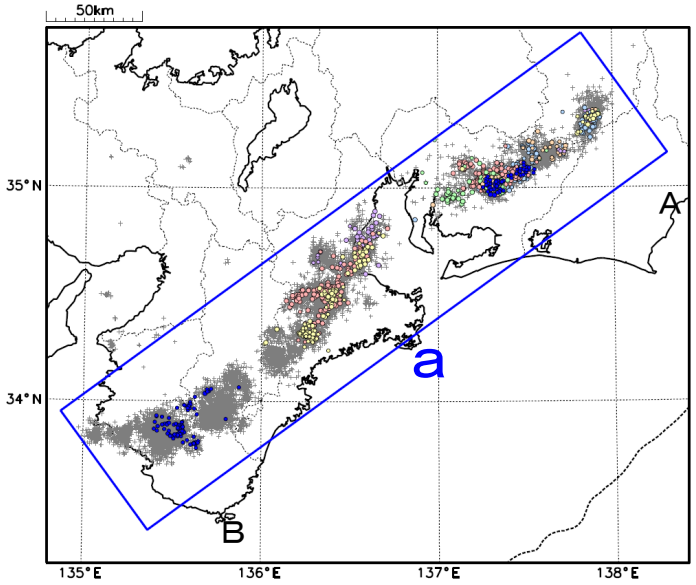
防災科学技術研究所資料

東海から紀伊半島北部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり

10月２日から18日にかけて東海から紀伊半島北部で深部低周波地震（微動）を観測した。
深部低周波地震（微動）活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計・傾斜計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

深部低周波地震（微動）活動

震央分布図
（2020年10月１日～2026年10月31日、
深さ０～60km、Mすべて）



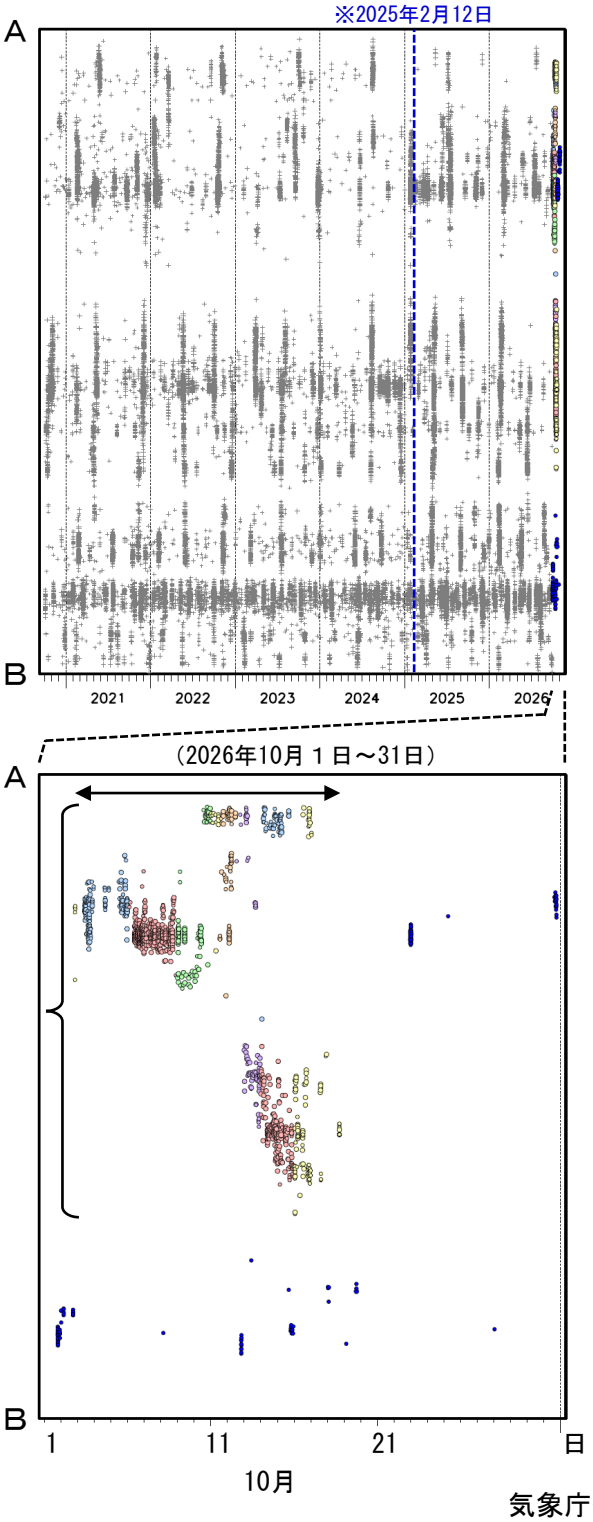
凡例
＋：2020年10月１日～2026年９月30日
●：2026年10月１日～

ただし、ひずみ変化と同期して観測された深部低周波地震（微動）活動の色分けは以下のとおり。

東海
●：10月２日00時～24時
●：10月３日00時～５日24時
●：10月６日00時～８日24時
●：10月９日00時～10日24時
●：10月11日00時～12時
●：10月11日12時～12日12時
●：10月12日12時～13日24時
●：10月14日00時～15日24時
●：10月16日00時～17日24時

紀伊半島北部
●：10月13日00時～13日24時
●：10月14日00時～15日24時
●：10月16日00時～18日24時

領域a内の時空間分布図
（Ａ－Ｂ投影）

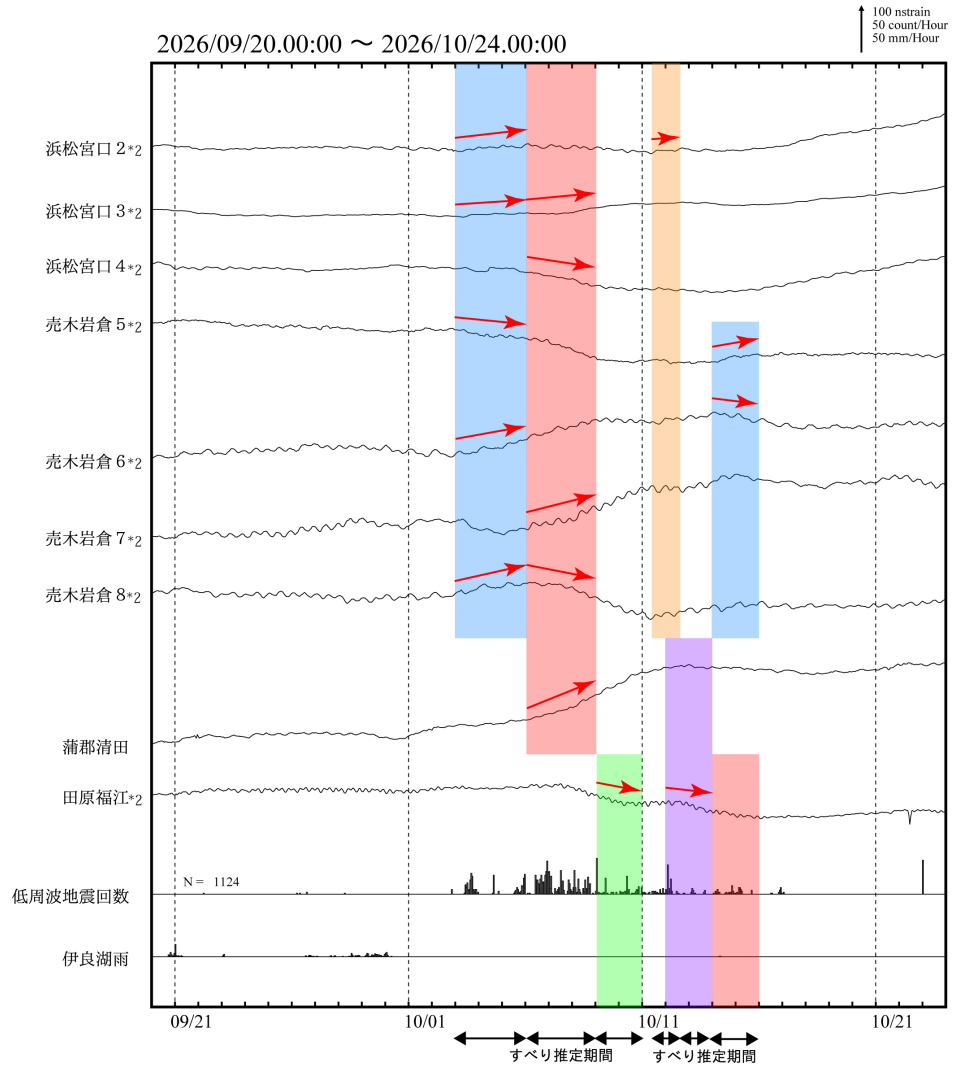


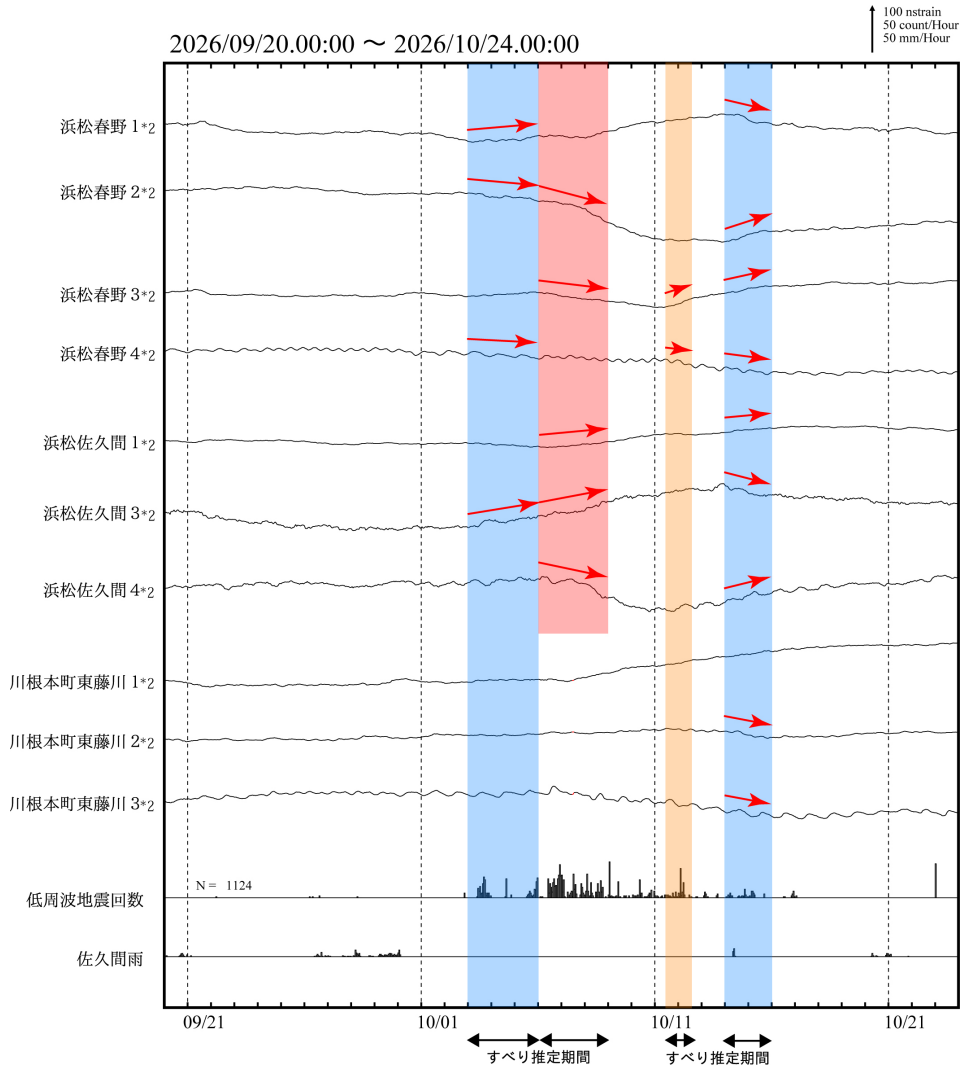
気象庁作成

※2025年2月12日から、深部低周波地震（微動）の検知手法の改善により、それ以前と比較して検知能力が変わっている。

東海から紀伊半島北部で観測した短期的ゆっくりすべり（10月3日～15日）

静岡県から愛知県で観測されたひずみ変化



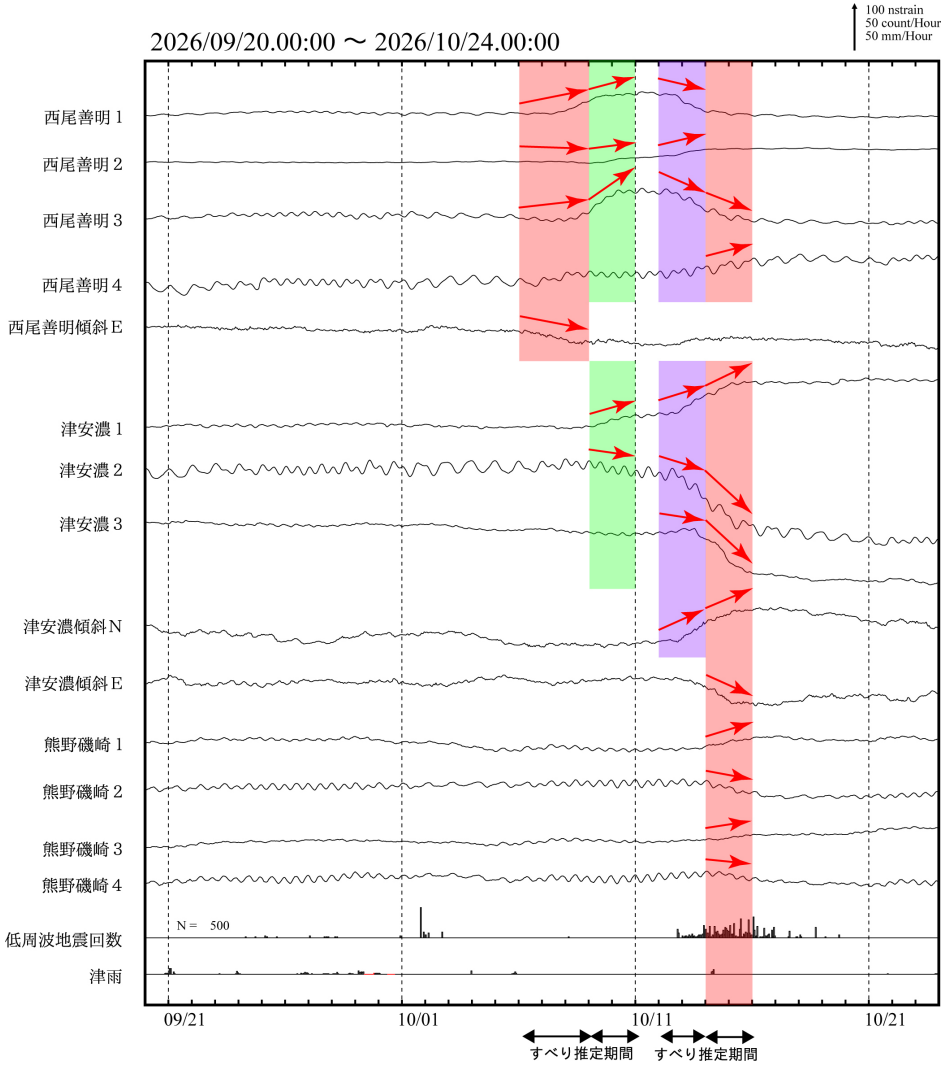


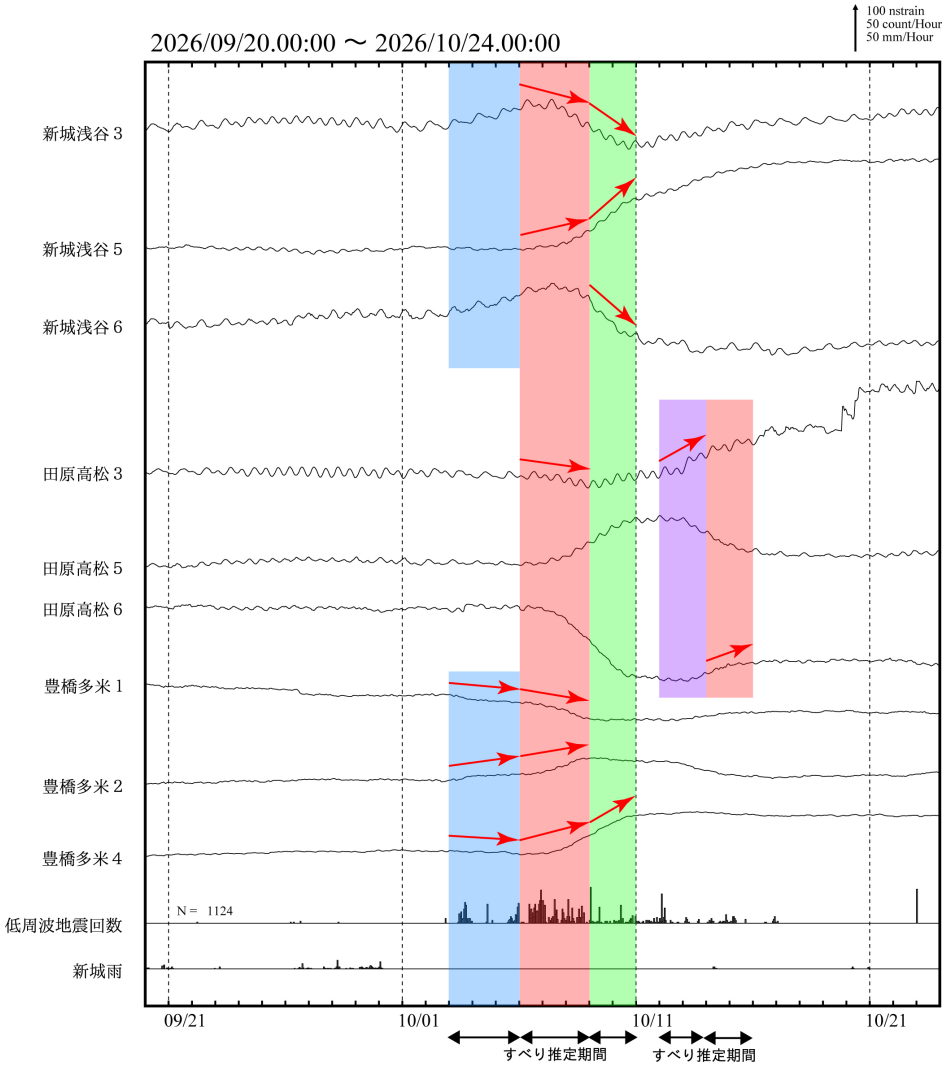
浜松春野及び川根本町東藤川は静岡県のひずみ計である。
解析に使用したチャネルについては背景色を塗り、そのうち有意な変化が見られたチャネルに赤矢印を描画している。
低周波地震回数はゆっくりすべりを示す断層モデル周辺で発生したものを積算している。

気象庁作成

東海から紀伊半島北部で観測した短期的ゆっくりすべり（10月3日～15日）

愛知県から三重県で観測されたひずみ・傾斜変化



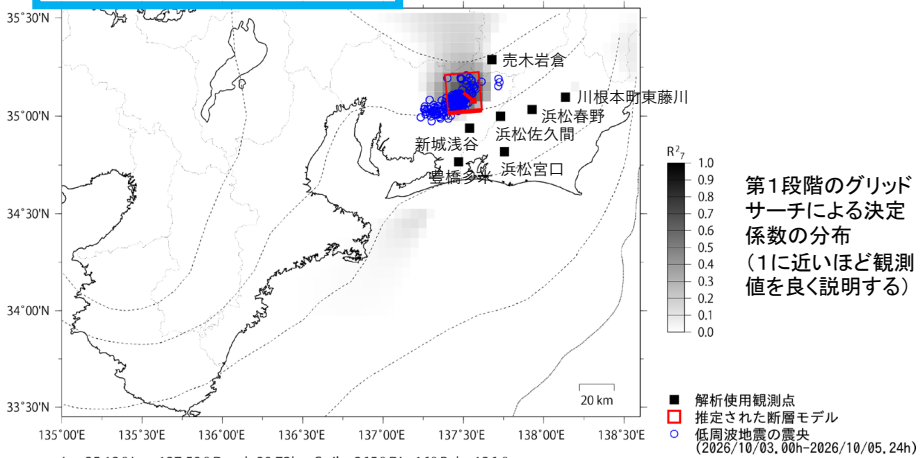


豊橋多米、西尾善明、津安濃及び熊野磯崎は産業技術総合研究所のひずみ・傾斜計である。
解析に使用したチャネルについては背景色を塗り、そのうち有意な変化が見られたチャネルに赤矢印を描画している。
低周波地震回数はゆっくりすべりを示す断層モデル周辺で発生したものを積算している。

気象庁作成

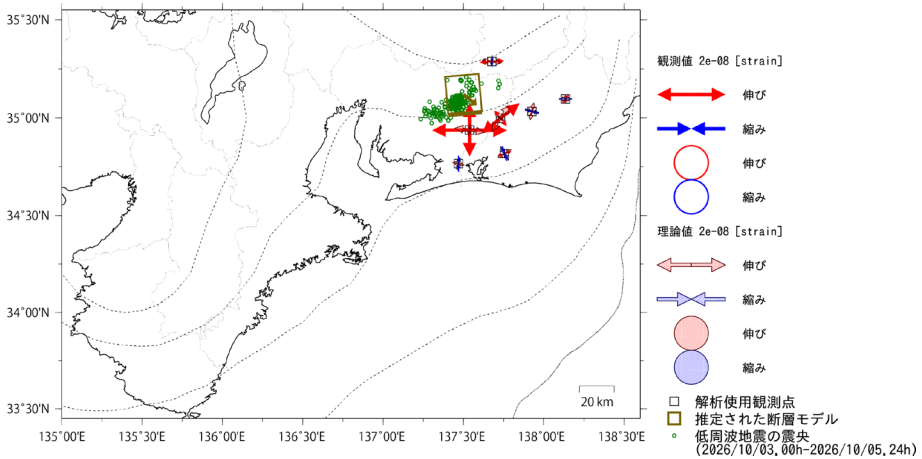
東海から紀伊半島北部で観測した短期的ゆっくりすべり（10月3日～15日）

2026年10月3日0時～5日24時　Mw5.4

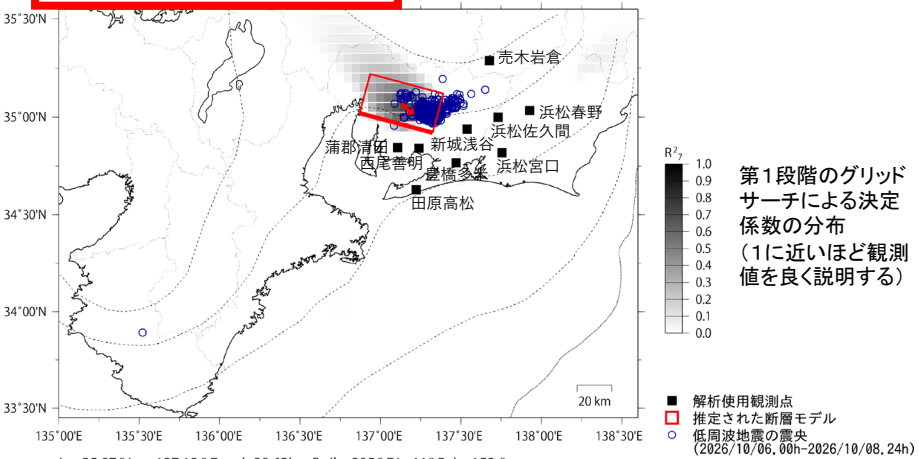


第1段階のグリッドサーチによる決定係数の分布（1に近いほど観測値を良く説明する）

Lat:35.12° Lon:137.50° Depth:38.72km Strike:265° Dip:16° Rake:136 °
Length:19.1km Width:22.6km Slip:9.40mm Mw:5.41 R^2_7:0.764

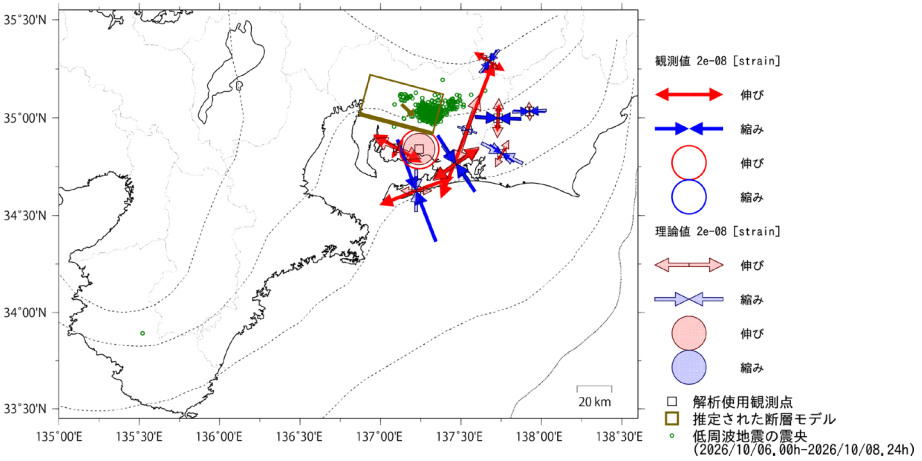


2026年10月6日0時～8日24時　Mw5.8



第1段階のグリッドサーチによる決定係数の分布（1に近いほど観測値を良く説明する）

Lat:35.07° Lon:137.13° Depth:38.62km Strike:285° Dip:11° Rake:152 °
Length:42.8km Width:23.5km Slip:16.90mm Mw:5.82 R^2_7:0.822



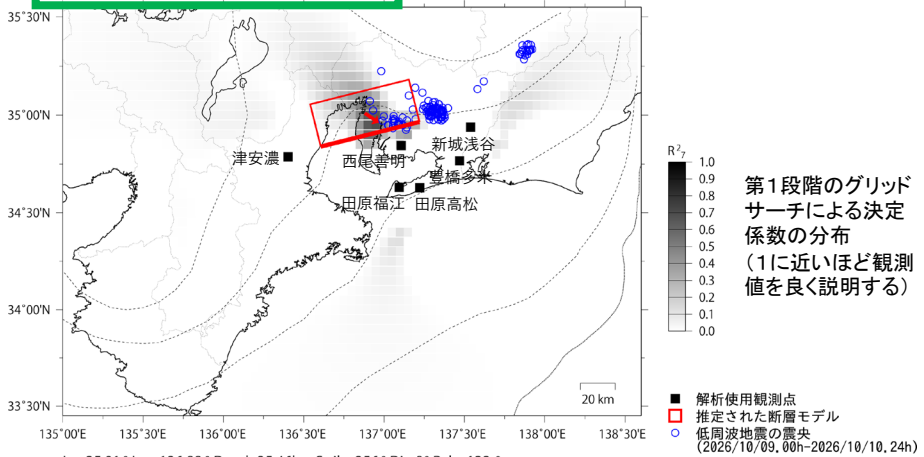
時系列図に示す観測点での変化量をもとにすべり推定を行ったところ、図の場所にゆっくりすべりを示す断層モデルが求まった。

断層モデルの推定は、産総研の解析方法（板場ほか，2012）を参考に以下の2段階で行う。
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

気象庁作成

東海から紀伊半島北部で観測した短期的ゆっくりすべり（10月3日～15日）

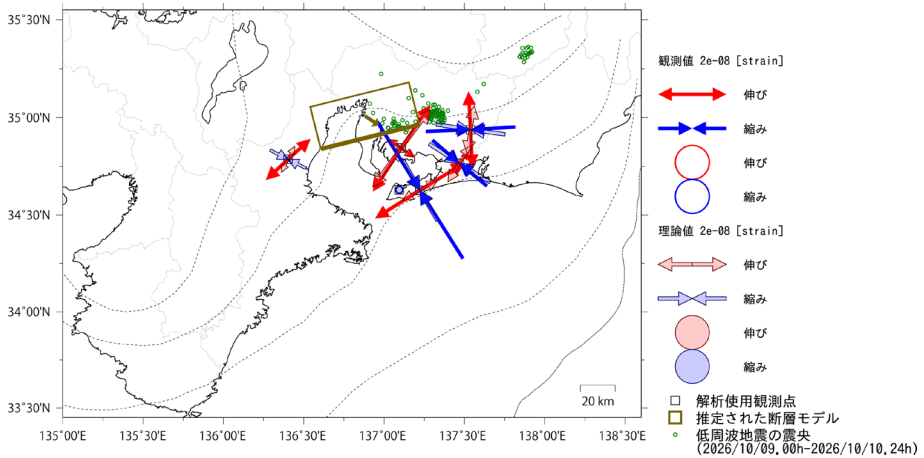
2026年10月9日0時～10日24時　Mw5.9



第１段階のグリッドサーチによる決定係数の分布（１に近いほど観測値を良く説明する）

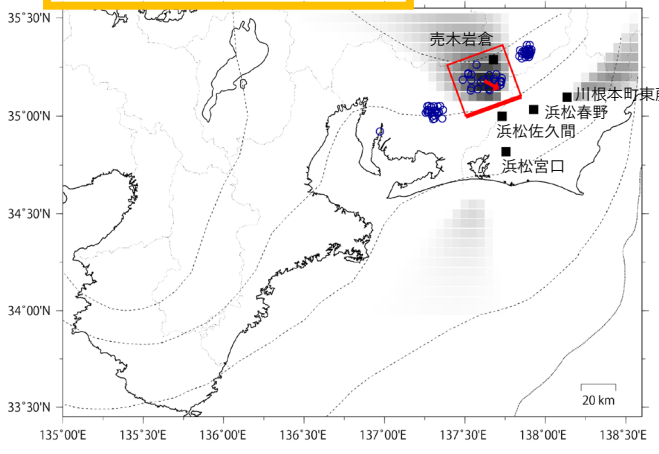
■ 解析使用観測点
□ 推定された断層モデル
○ 低周波地震の震央
(2026/10/09.00h-2026/10/10.24h)

Lat:35.01° Lon:136.88° Depth:35.46km Strike:256° Dip:8° Rake:132 °
Length:57.6km Width:25.0km Slip:16.00mm Mw:5.91 R^2_7:0.823

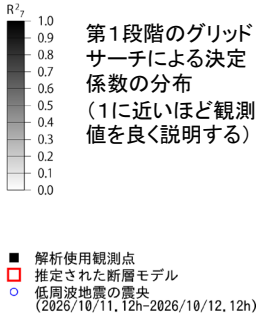


□ 解析使用観測点
□ 推定された断層モデル
○ 低周波地震の震央
(2026/10/09.00h-2026/10/10.24h)

2026年10月11日12時～12日12時　Mw5.2



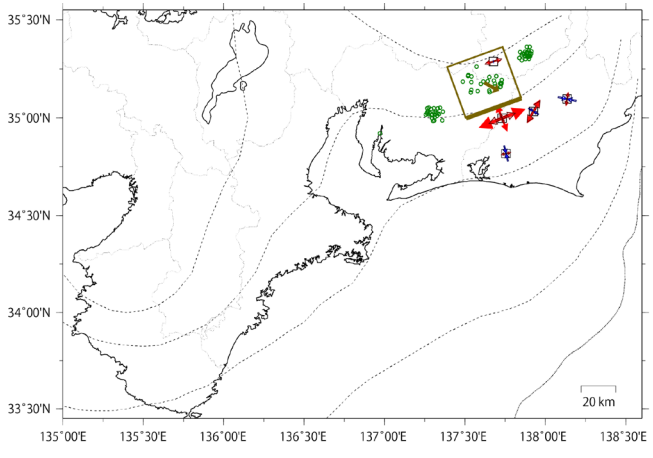
参考

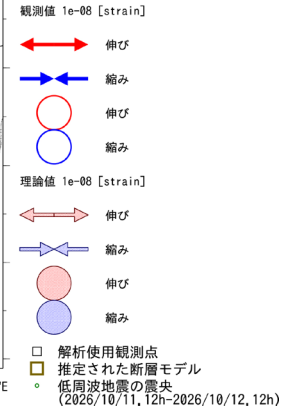


第１段階のグリッドサーチによる決定係数の分布（１に近いほど観測値を良く説明する）

■ 解析使用観測点
□ 推定された断層モデル
○ 低周波地震の震央
(2026/10/11.12h-2026/10/12.12h)

Lat:35.18° Lon:137.62° Depth:34.95km Strike:250° Dip:21° Rake:131 °
Length:33.3km Width:33.2km Slip:1.70mm Mw:5.19 R^2_7:0.931





□ 解析使用観測点
□ 推定された断層モデル
○ 低周波地震の震央
(2026/10/11.12h-2026/10/12.12h)

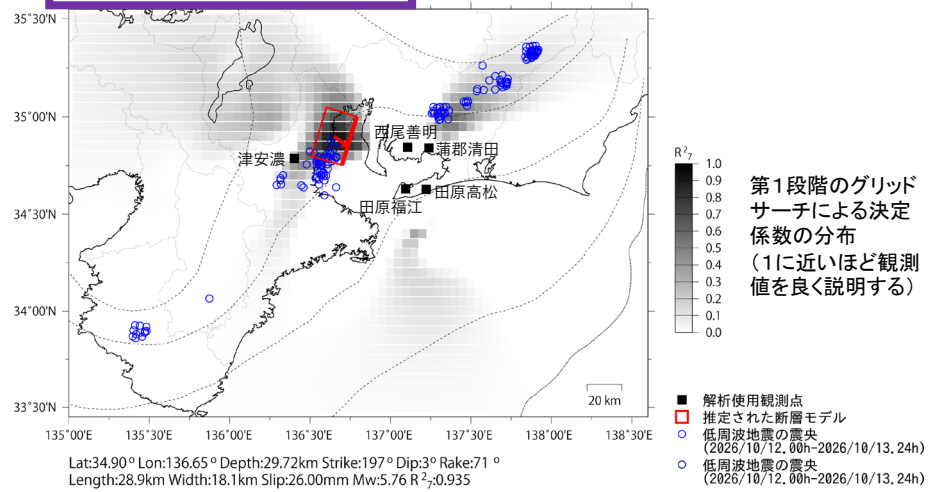
時系列図に示す観測点での変化量をもとにすべり推定を行ったところ、図の場所にゆっくりすべりを示す断層モデルが求まった。

断層モデルの推定は、産総研の解析方法（板場ほか，2012）を参考に以下の2段階で行う。
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

気象庁作成

東海から紀伊半島北部で観測した短期的ゆっくりすべり（10月3日～15日）

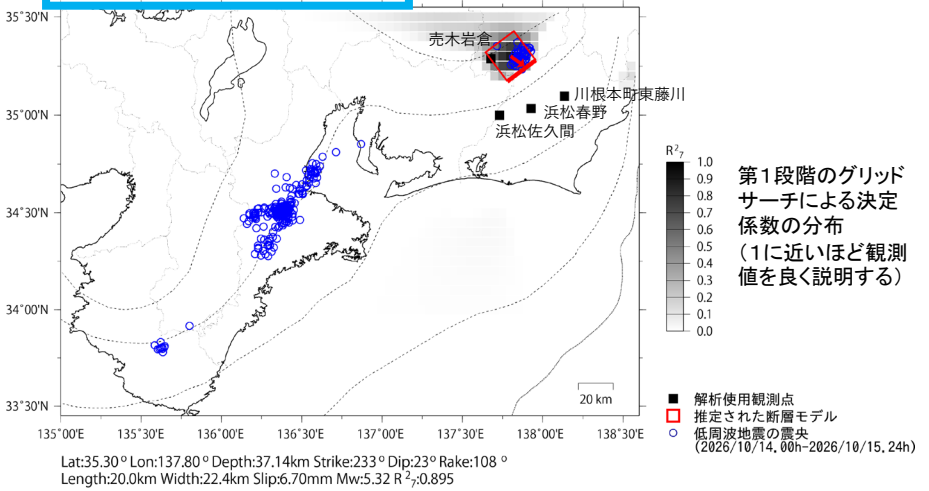
2026年10月12日0時～13日24時　Mw5.8



第1段階のグリッドサーチによる決定係数の分布（1に近いほど観測値を良く説明する）

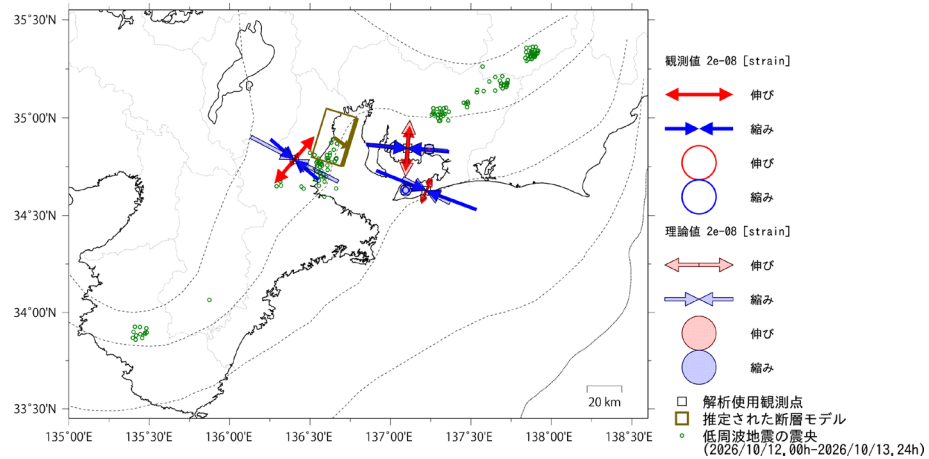
Lat:34.90° Lon:136.65° Depth:29.72km Strike:197° Dip:3° Rake:71 °
Length:28.9km Width:18.1km Slip:26.00mm Mw:5.76 R^2_7:0.935

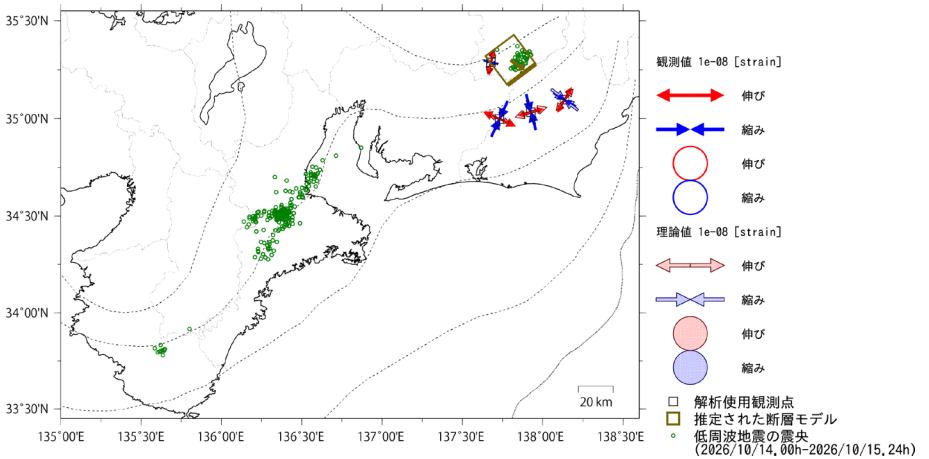
2026年10月14日0時～15日24時　Mw5.3



第1段階のグリッドサーチによる決定係数の分布（1に近いほど観測値を良く説明する）

Lat:35.30° Lon:137.80° Depth:37.14km Strike:233° Dip:23° Rake:108 °
Length:20.0km Width:22.4km Slip:6.70mm Mw:5.32 R^2_7:0.895



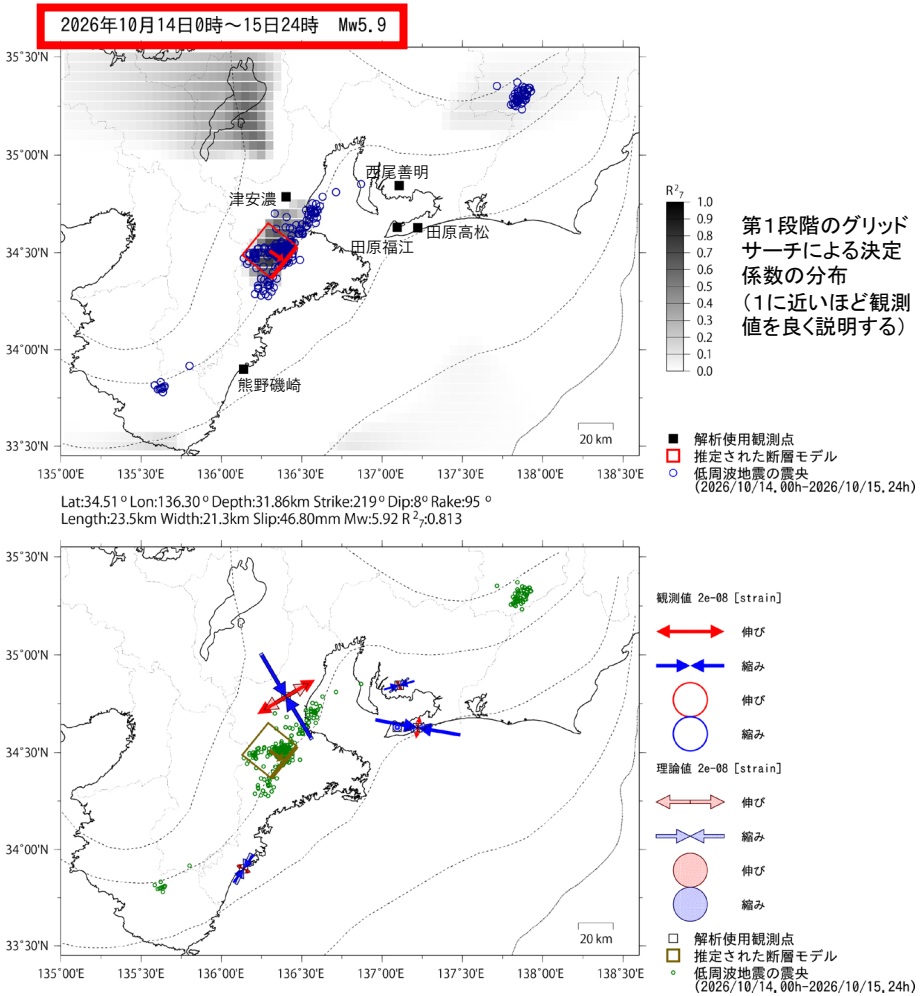


時系列図に示す観測点での変化量をもとにすべり推定を行ったところ、図の場所にゆっくりすべりを示す断層モデルが求まった。

断層モデルの推定は、産総研の解析方法（板場ほか，2012）を参考に以下の2段階で行う。
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

気象庁作成

東海から紀伊半島北部で観測した短期的ゆっくりすべり（10月3日～15日）



時系列図に示す観測点での変化量をもとにすべり推定を行ったところ、図の場所にゆっくりすべりを示す断層モデルが求まった。

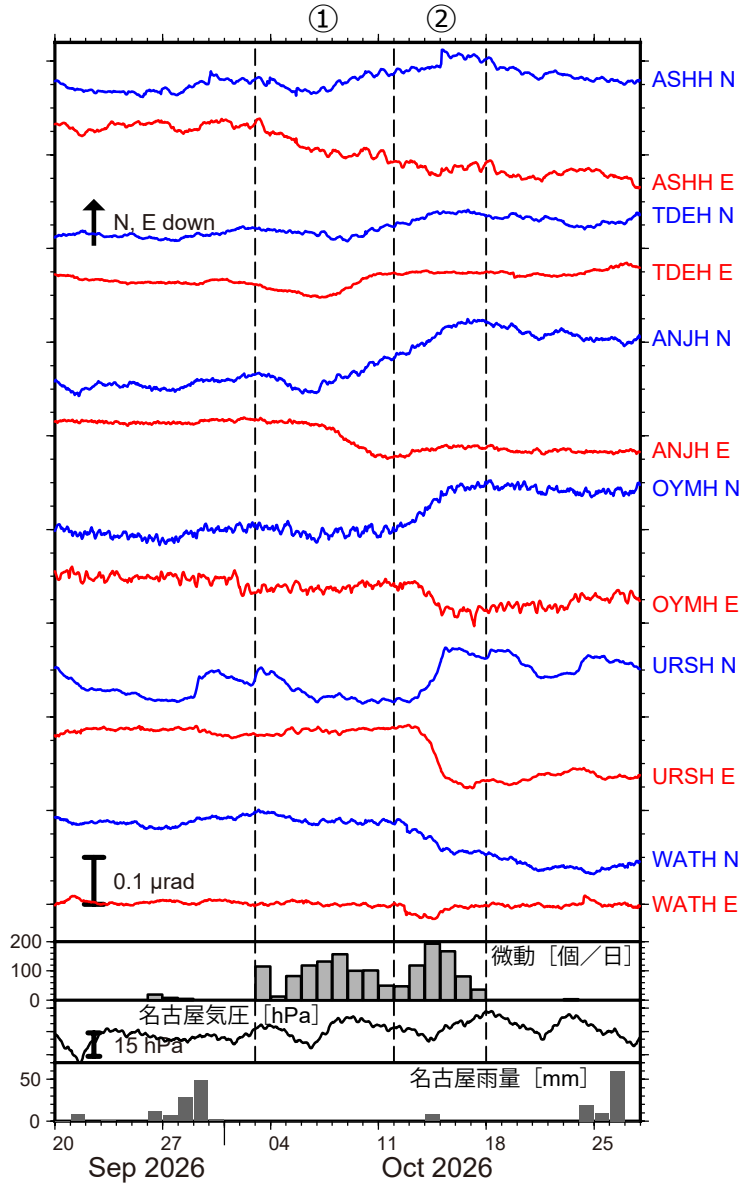
断層モデルの推定は、産総研の解析方法（板場ほか，2012）を参考に以下の2段階で行う。
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

気象庁作成

愛知県西部～紀伊半島北部の短期的スロースリップ活動状況（2026 年 10 月）

防災科研 NIED　MOWLAS

・愛知県西部～紀伊半島北部での短期的スロースリップイベント（M_W 6.2）
・愛知県西部：2026 年 3 月（M_W 5.9）以来，約 7 ヶ月ぶり
　紀伊半島北部：2026 年 2 月（M_W 6.1）以来，約 8 ヶ月ぶり



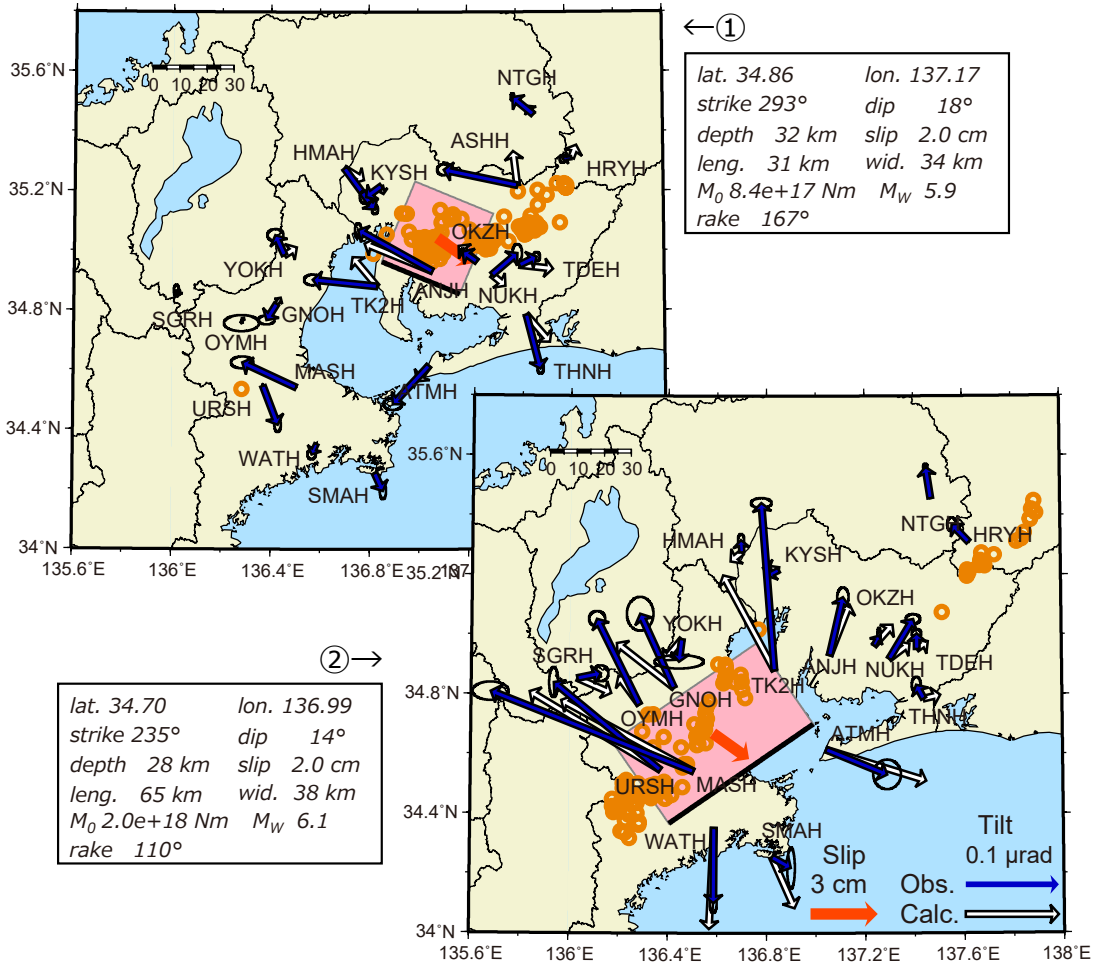


図 1：2026 年 9 月 20 日～10 月 27 日の傾斜時系列．上方向への変化が北・東下がりの傾斜変動を表し，BAYTAP-G により潮汐・気圧応答成分を除去した．破線で示した期間①および②の傾斜変化ベクトルを図 2 に示す．愛知県から紀伊半島北部周辺での微動活動度・気象庁名古屋観測点の気圧・雨量をあわせて示す．

図 2：図 1 に示した期間①および②で観測された傾斜変化ベクトル（青矢印），推定されたスロースリップイベントの断層モデル（赤矩形・矢印），モデルから計算される傾斜変化ベクトル（白抜き矢印）を示す．1 時間ごとの微動エネルギーの重心位置（橙丸）もあわせて示す．すべり角はプレート相対運動方向に固定している．

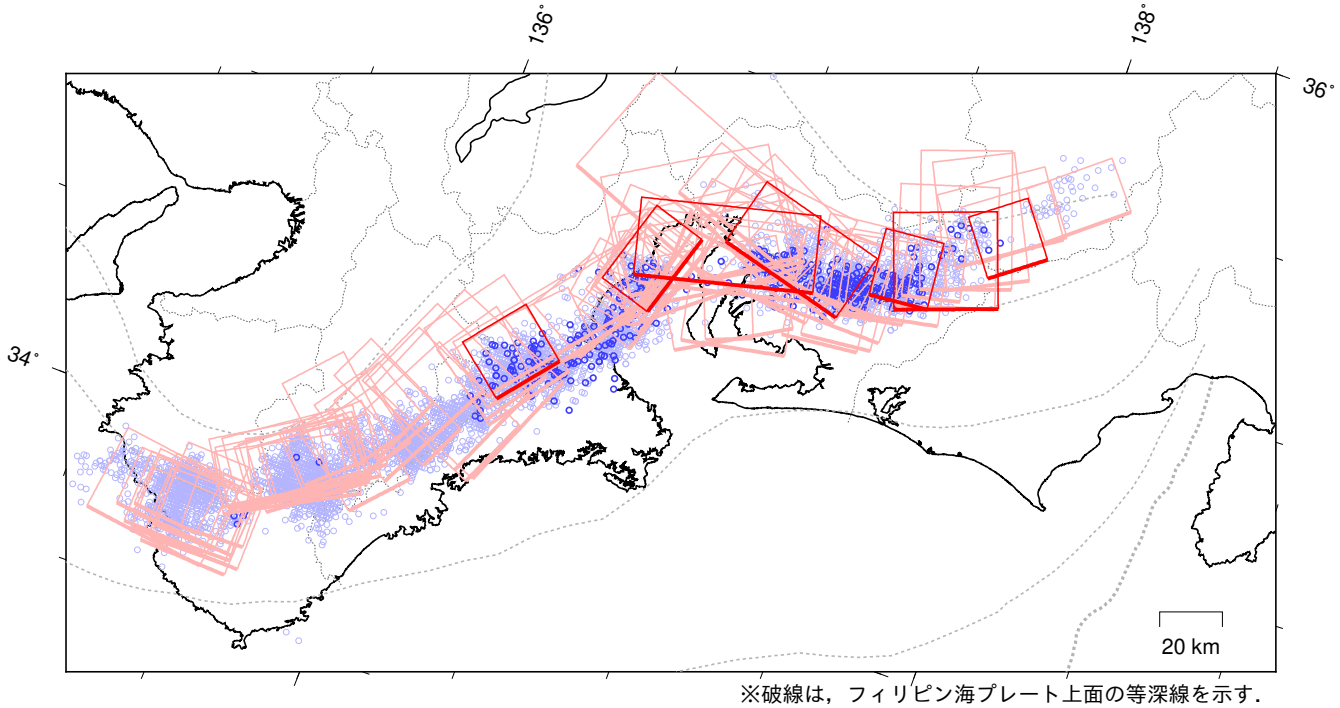
謝辞：気象庁の WEB ページで公開されている気象データを使用させて頂きました．記して感謝いたします．

防災科学技術研究所資料

東海～紀伊半島 短期的ゆっくりすべりの活動状況

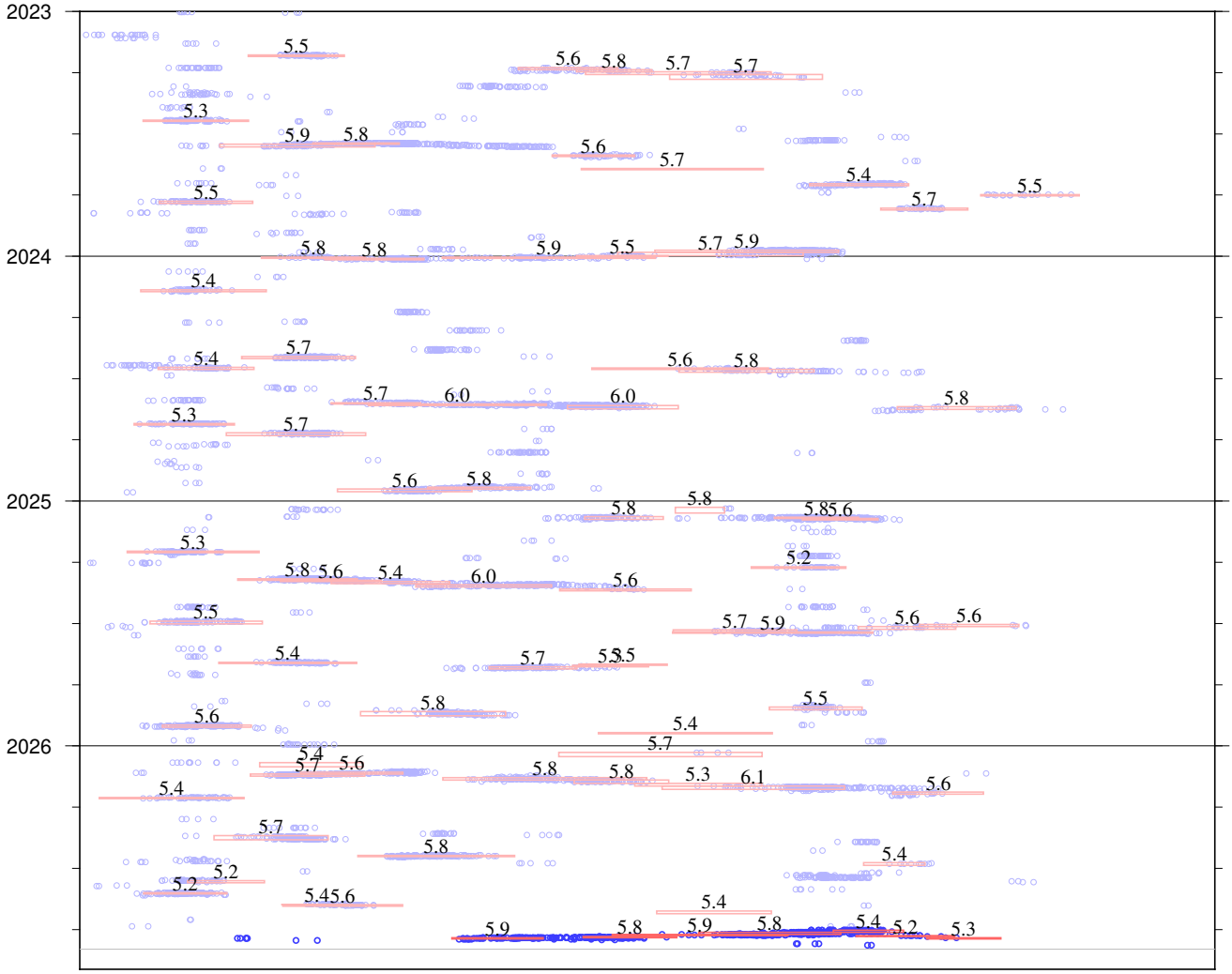
2023年1月1日～2026年10月31日

（2026年10月1日以降を濃く表示）



※破線は，フィリピン海プレート上面の等深線を示す．
※赤矩形は，気象庁による短期的ゆっくりすべりの断層モデル（参考解を含む）を示す．

上図の時空間分布図



※短期的ゆっくりすべりの解析には，気象庁，産業技術総合研究所及び静岡県のデータを用いている．
※赤矩形の上に表示されている数字は解析されたMwを示す．
※青丸はエンベロープ相関法（防災科学技術研究所，東京大学地震研究所との共同研究による成果）で得られた低周波微動の震央を示す．
※時空間分布図中の灰色線は最新データ日を示す．
※2024年12月以前の短期的ゆっくりすべりは再解析を行った結果を反映している．

気象庁作成

四国の深部低周波微動活動状況　（2026 年 10 月）

防災科研 NIED　MOWLAS

- 10 月 9 ～ 14 日頃に豊後水道において，やや活発な微動活動
- 10 月 21 ～ 26 日頃に豊後水道から四国西部において，やや活発な微動活動.

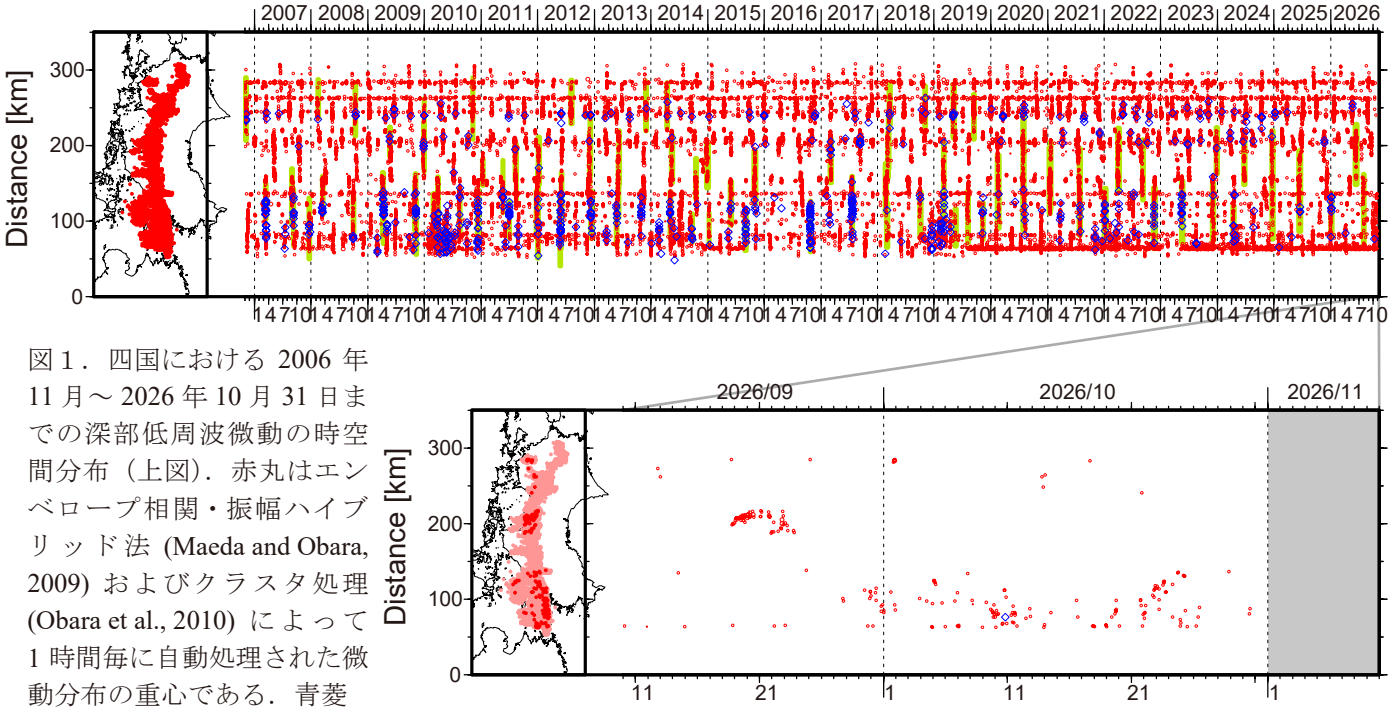


図 1．四国における 2006 年 11 月～ 2026 年 10 月 31 日までの深部低周波微動の時空間分布（上図）．赤丸はエンベロープ相関・振幅ハイブリッド法 (Maeda and Obara, 2009) およびクラスタ処理 (Obara et al., 2010) によって 1 時間毎に自動処理された微動分布の重心である．青菱型は周期 20 秒に卓越する超低周波地震 (Ito et al., 2007) である．黄緑色太線は，これまでに検出された短期的スロースリップイベント (SSE) を示す．下図は 2026 年 10 月を中心とした期間の拡大図である．10 月 9 ～ 14 日頃には，は豊後水道において，やや活発な微動活動がみられた．この活動は開始後，12 日頃からやや低調となり，14 日頃に終息した．10 月 21 ～ 26 日頃には，豊後水道から愛媛県西部においてやや活発な活動がみられた．この活動は豊後水道での開始後，東方向への活動域の拡大がみられた．9 月 29 日～ 10 月 1 日頃には愛媛県西部において，小規模な活動がみられた．10 月 1 日頃には香川県付近において，10 月 5 日頃には伊予灘付近において，10 月 19 日頃には豊後水道において，それぞれごく小規模な活動がみられた．

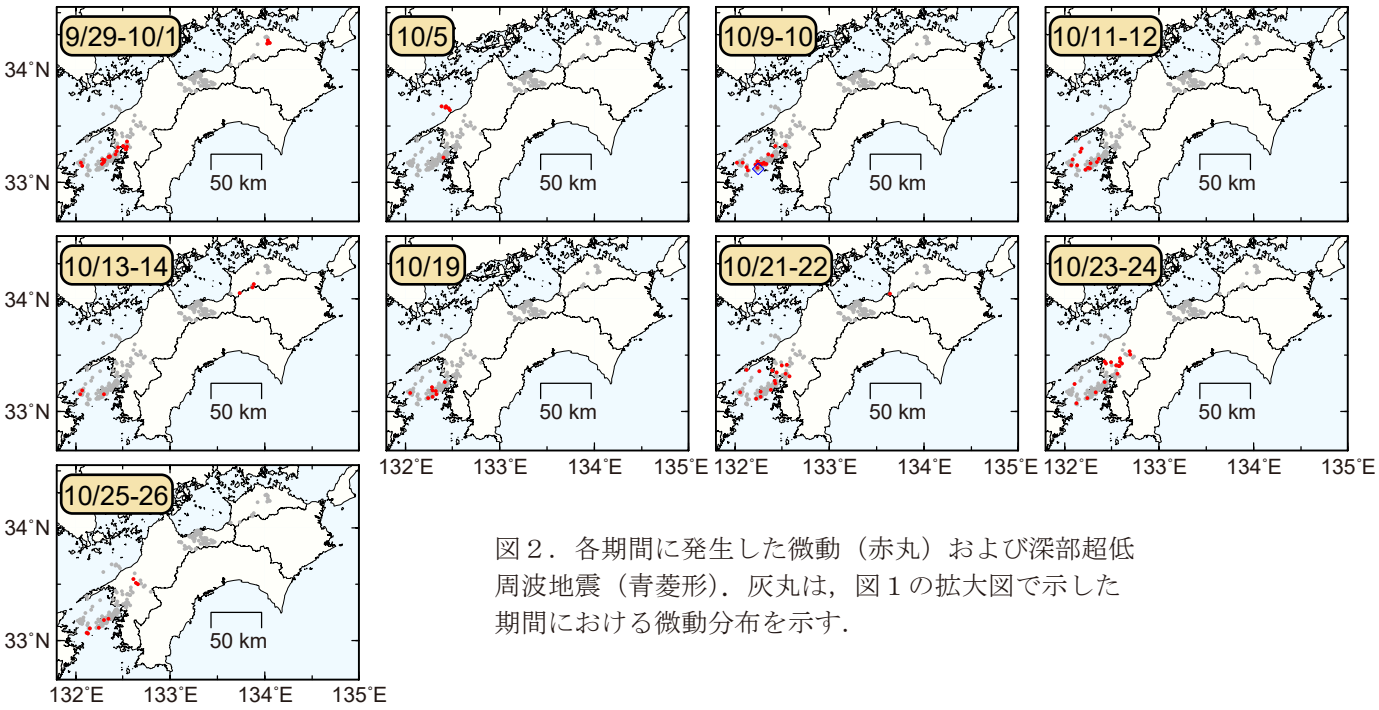


図 2．各期間に発生した微動（赤丸）および深部超低周波地震（青菱形）．灰丸は，図 1 の拡大図で示した期間における微動分布を示す.

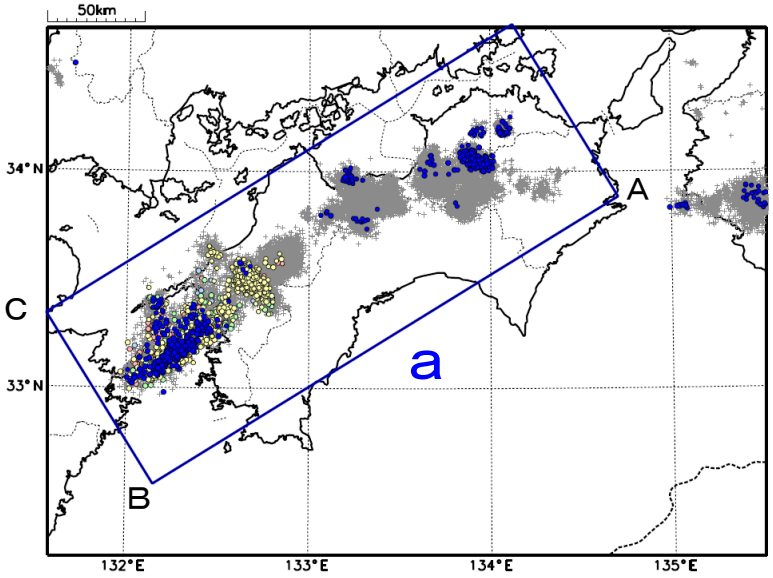
防災科学技術研究所資料

四国西部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり

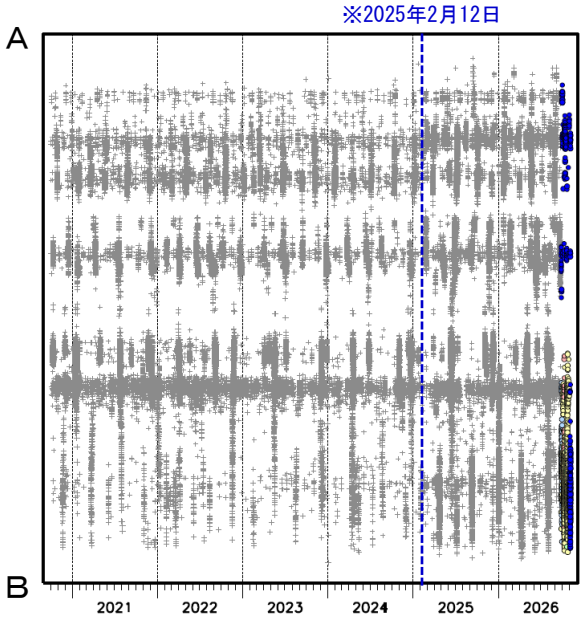
９月27日から10月12日にかけて、及び10月19日から11月１日にかけて、四国西部で深部低周波地震（微動）を観測した。
深部低周波地震（微動）活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。これは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

深部低周波地震（微動）活動

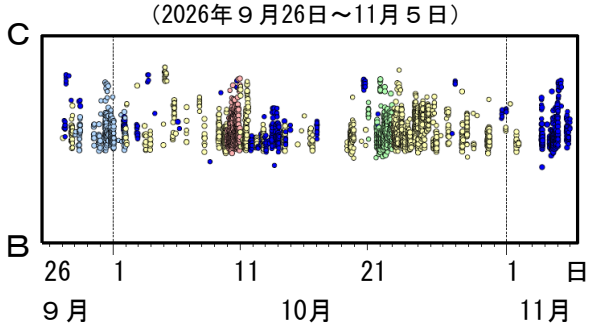
震央分布図
（2020年10月１日～2026年11月５日、
深さ０～60km、Mすべて）

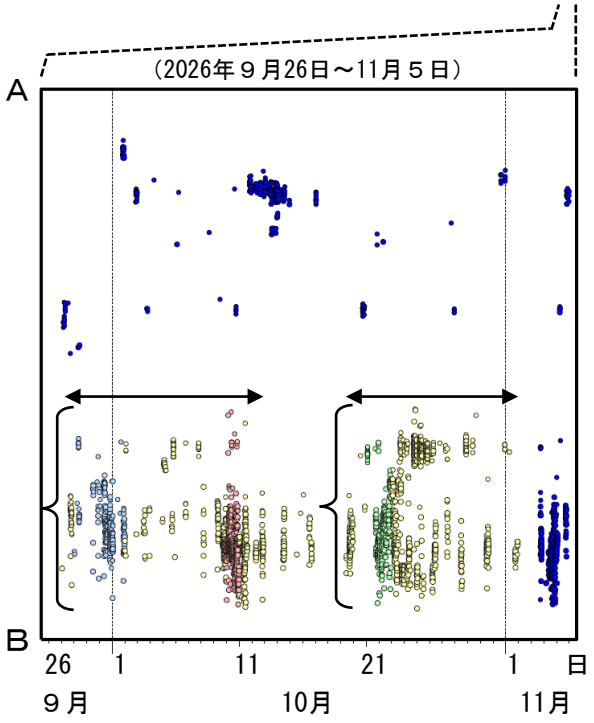


領域a内の時空間分布図
（Ａ－Ｂ投影）



領域a内の時空間分布図（Ｂ－Ｃ投影）
（2026年９月26日～11月５日）





凡例
＋：2020年９月１日～2026年９月26日
●：2026年９月27日～

ただし、ひずみ変化と同期して観測された深部低周波地震（微動）活動の色分けは以下のとおり。

四国西部
○：９月27日00時～27日24時
○：９月28日00時～10月１日24時
○：10月２日00時～９日24時
○：10月10日00時～10日24時
○：10月11日00時～20日24時
○：10月21日00時～22日24時
○：10月23日00時～11月１日24時

気象庁作成

※2025年2月12日から、深部低周波地震（微動）の検知手法の改善により、それ以前と比較して検知能力が変わっている。

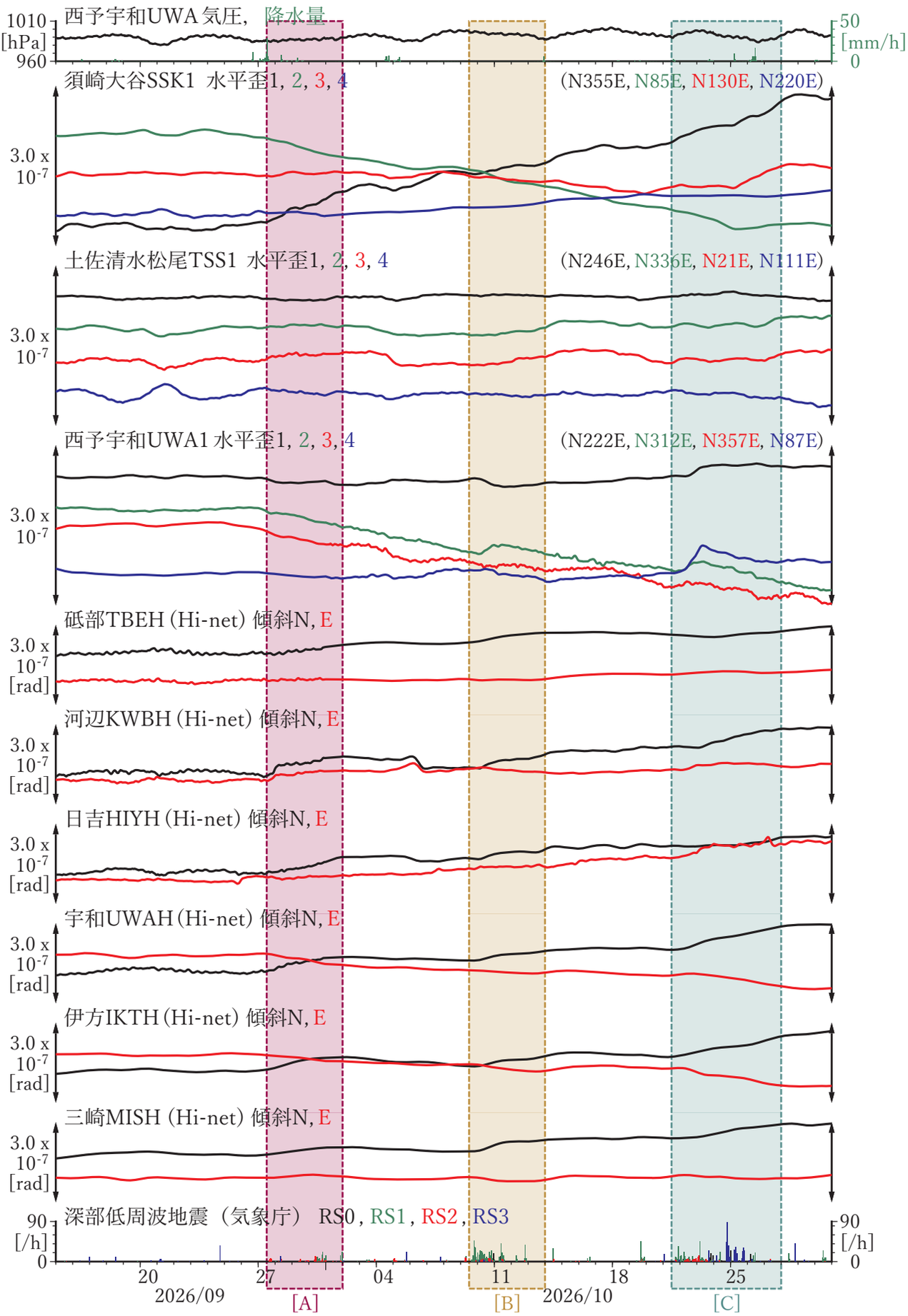
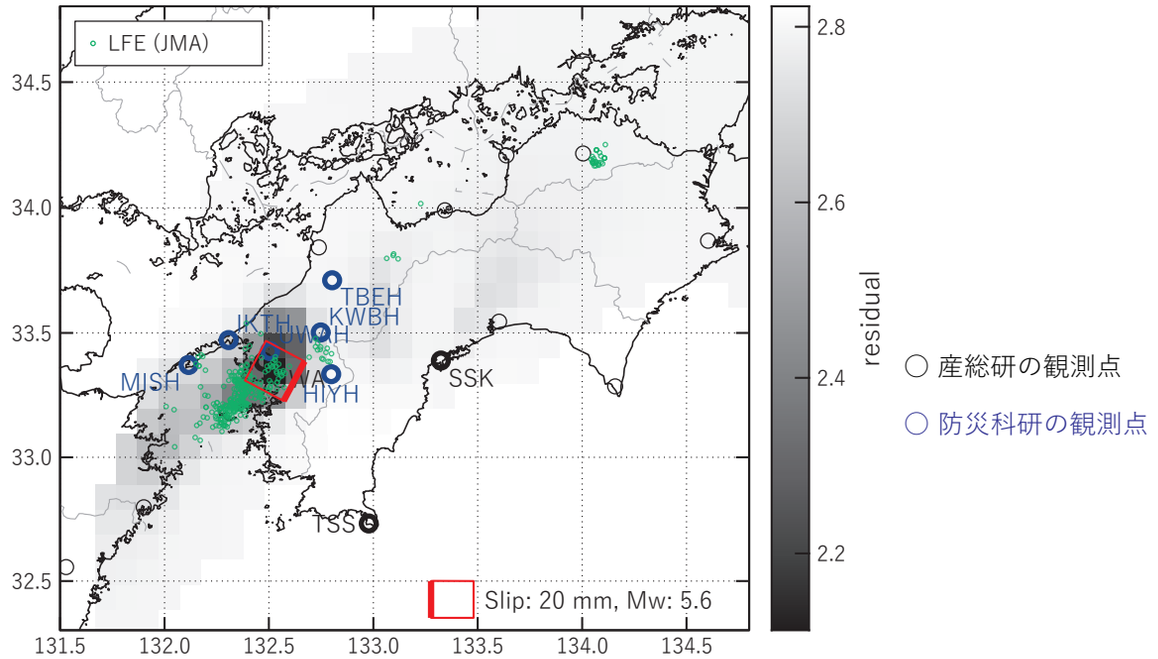
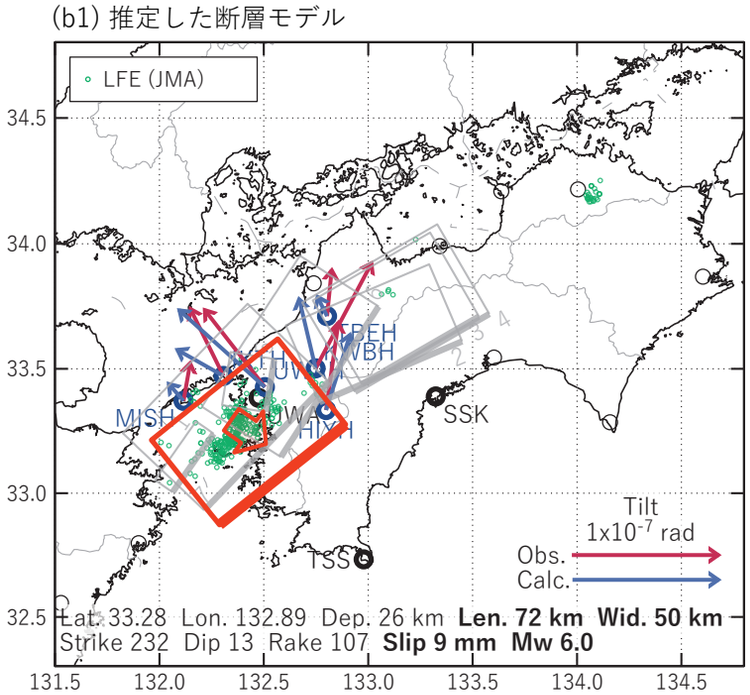


図2 四国地方における歪・傾斜観測結果（2026/09/15 00:00 - 2026/10/31 00:00 (JST)）

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

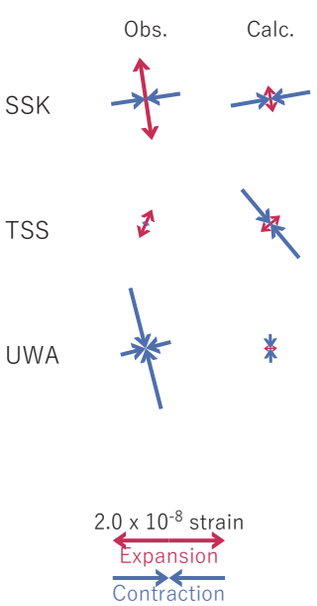


図3　2026/09/27PM-10/01の歪・傾斜変化（図2[A]）を説明する断層モデル。

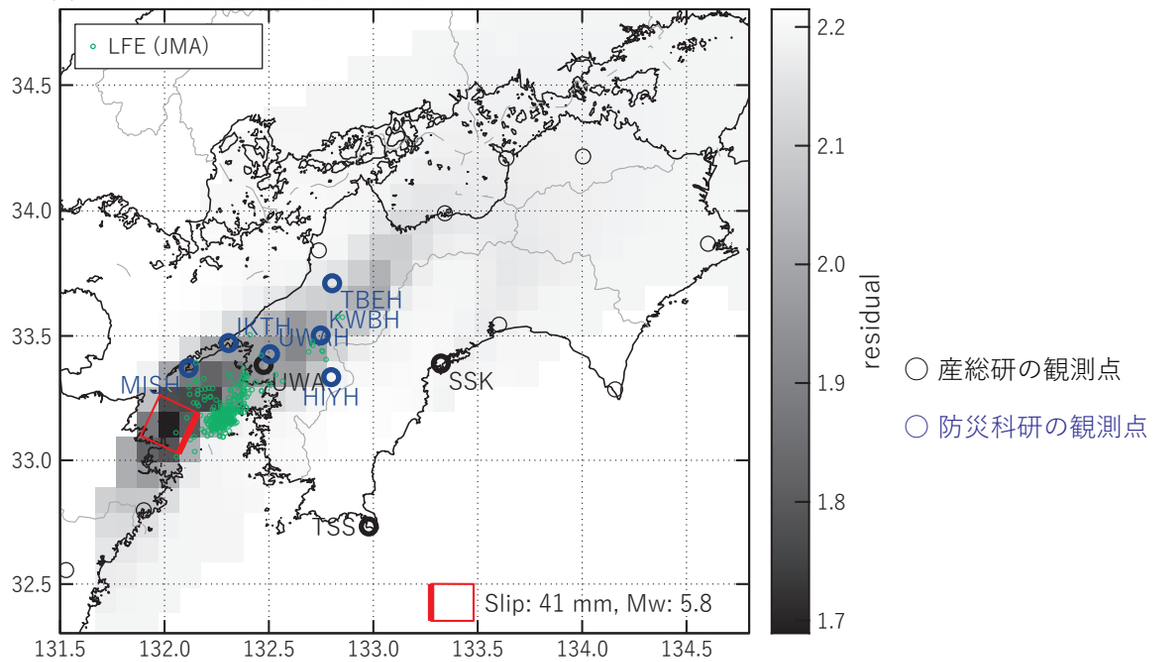
(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ，各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの，対応する残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の断層面付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面。

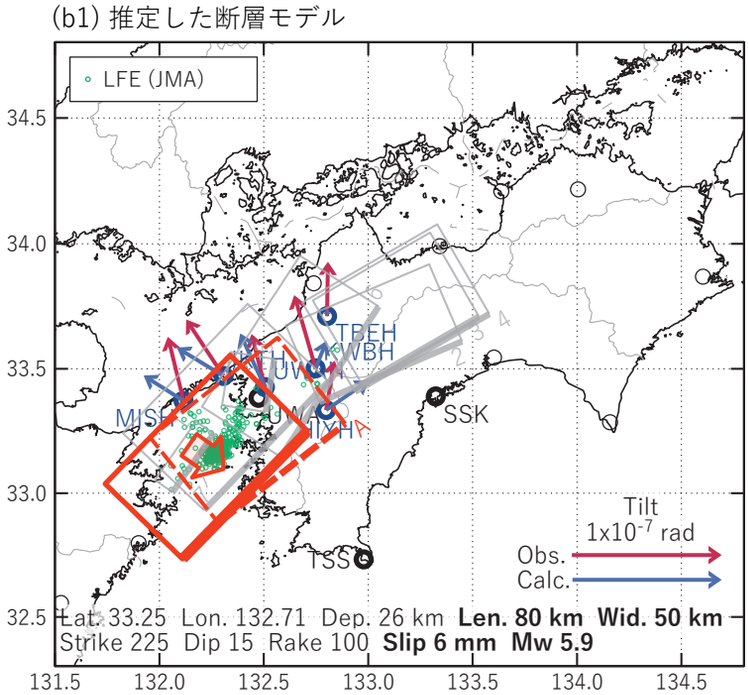
1: 2026/04/06-09 (Mw5.8), 2: 2026/05/01PM-08AM (Mw6.0), 3: 2026/06/10-14 (Mw6.0), 4: 2026/06/15-17 (Mw5.8), 5: 2026/07/29PM-08/01AM (Mw5.7), 6: 2026/08/01PM-02AM (Mw5.8), 7: 2026/08/02PM-04AM (Mw5.9)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

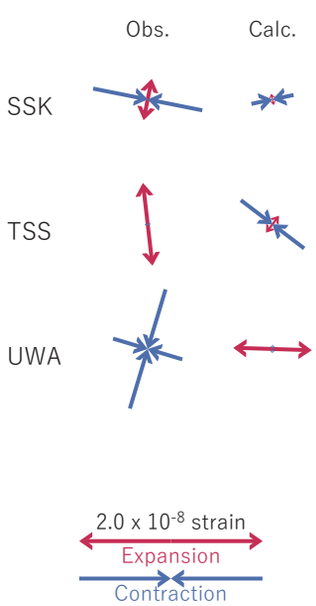


図4　2026/10/09PM-13の歪・傾斜変化（図2[B]）を説明する断層モデル。

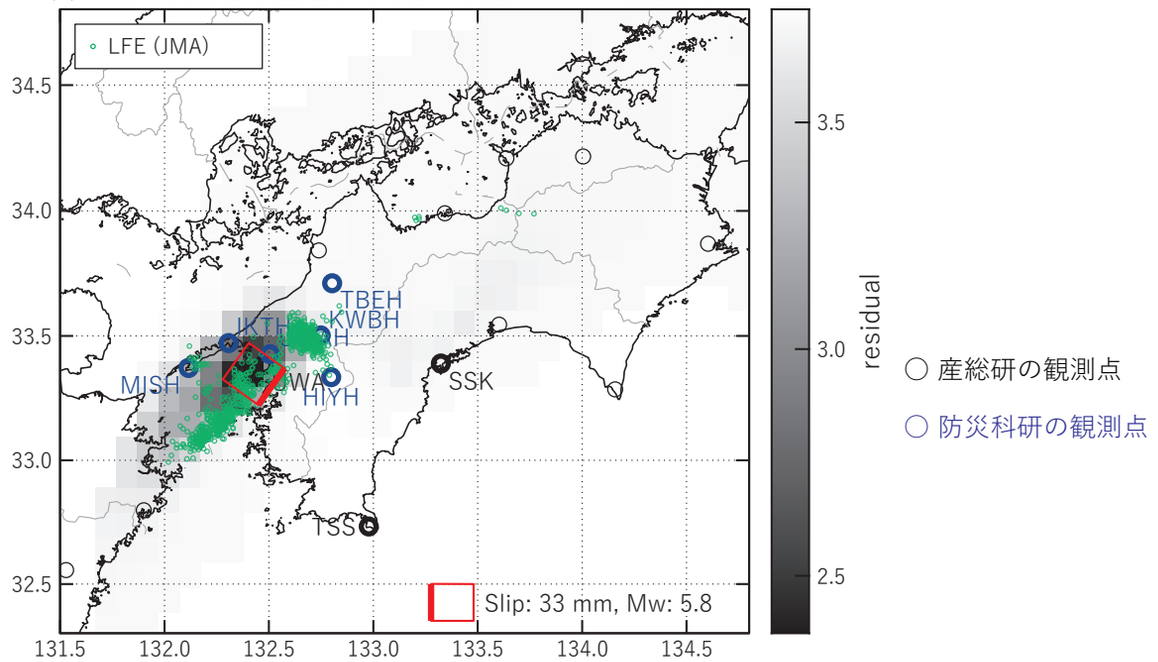
(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ，各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの，対応する残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の断層面付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面。

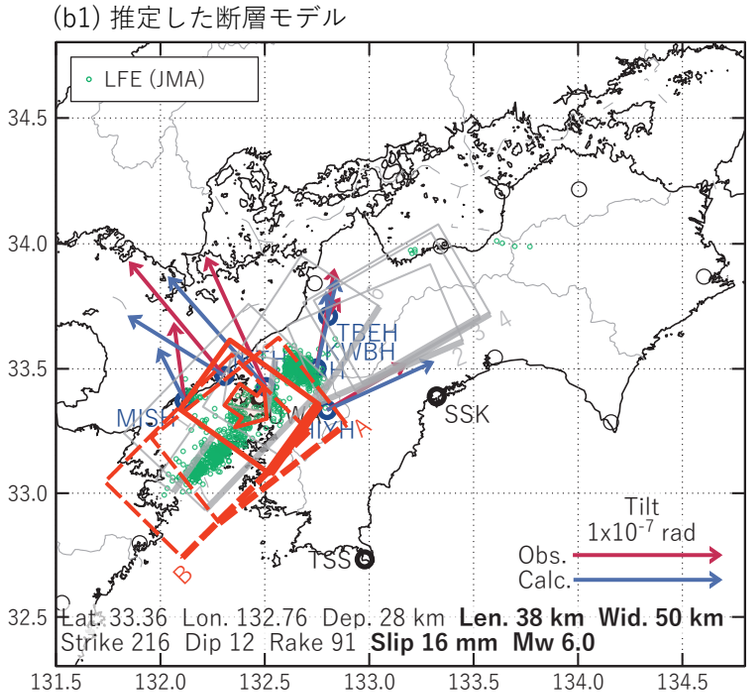
1: 2026/04/06-09 (Mw5.8), 2: 2026/05/01PM-08AM (Mw6.0), 3: 2026/06/10-14 (Mw6.0), 4: 2026/06/15-17 (Mw5.8), 5: 2026/07/29PM-08/01AM (Mw5.7), 6: 2026/08/01PM-02AM (Mw5.8), 7: 2026/08/02PM-04AM (Mw5.9), A: 2026/09/27PM-10/01 (Mw6.0)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

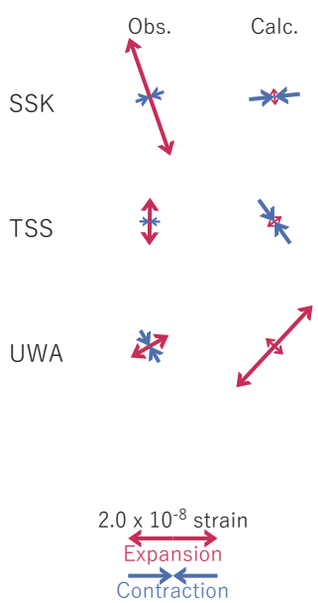


図5　2026/10/21PM-27の歪・傾斜変化（図2[C]）を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ，各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの，対応する残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の断層面付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面。

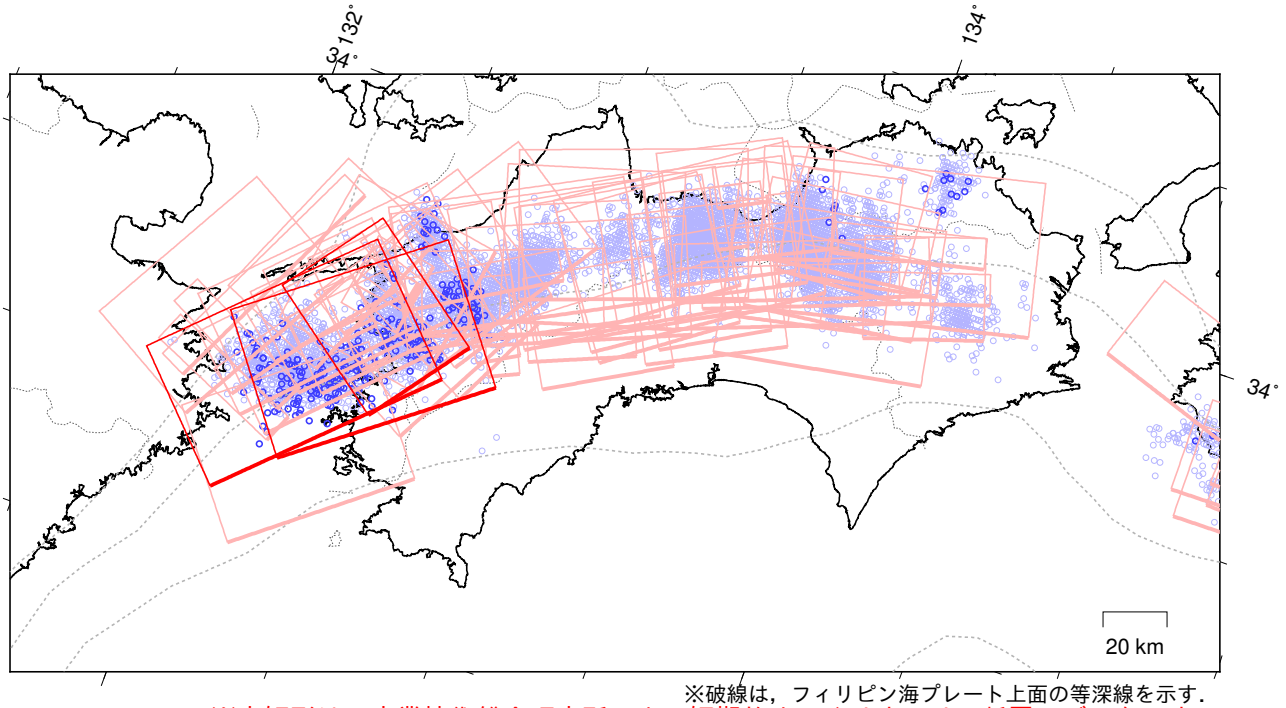
1: 2026/04/06-09 (Mw5.8), 2: 2026/05/01PM-08AM (Mw6.0), 3: 2026/06/10-14 (Mw6.0), 4: 2026/06/15-17 (Mw5.8), 5: 2026/07/29PM-08/01AM (Mw5.7), 6: 2026/08/01PM-02AM (Mw5.8), 7: 2026/08/02PM-04AM (Mw5.9), A: 2026/09/27PM-10/01 (Mw6.0), B: 2026/10/09PM-13 (Mw6.0)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

四国 短期的ゆっくりすべりの活動状況

2023年1月1日～2026年10月31日

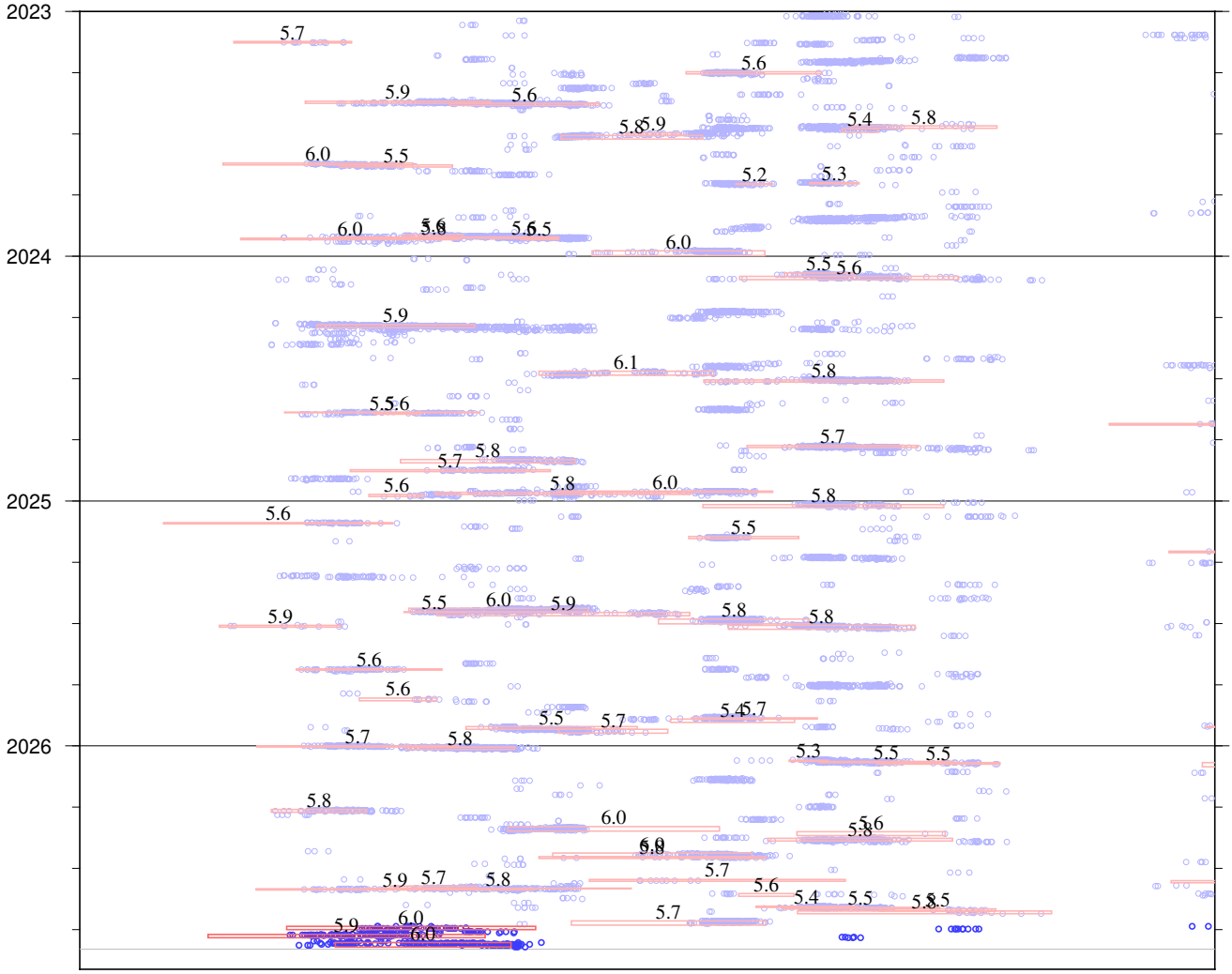
（2026年9月27日以降を濃く表示）



※破線は，フィリピン海プレート上面の等深線を示す．

※赤矩形は，産業技術総合研究所による短期的ゆっくりすべりの断層モデルを示す．

上図の時空間分布図

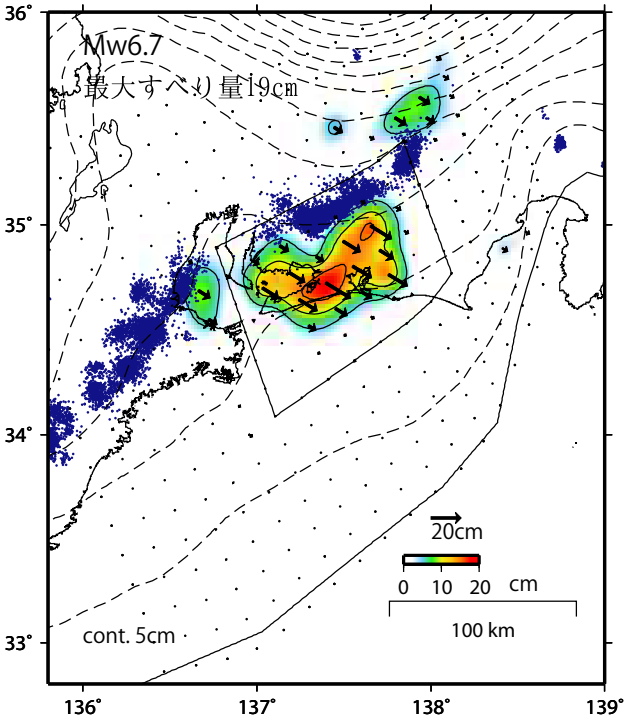


※短期的ゆっくりすべりの解析には，産業技術総合研究所及び防災科学技術研究所のデータを用いている．
※赤矩形の上に表示されている数字は解析されたMwを示す．
※青丸はエンベロープ相関法（防災科学技術研究所，東京大学地震研究所との共同研究による成果）で得られた低周波微動の震央を示す．
※時空間分布図中の灰色線は最新データ日を示す．

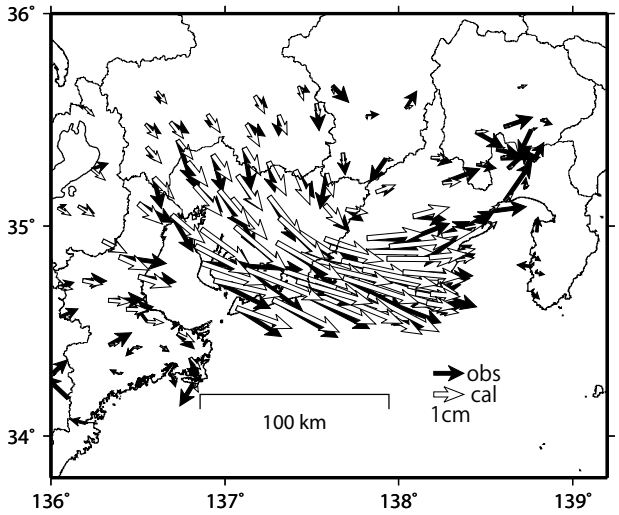
気象庁作成

GNSSデータから推定された東海地域の長期的ゆっくりすべり（暫定）

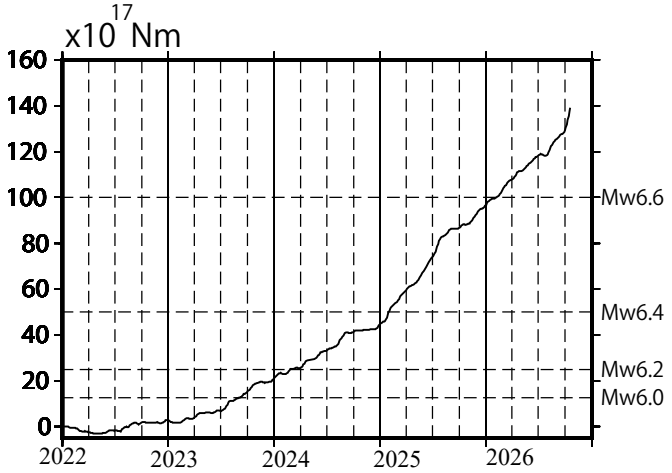
推定すべり分布
（2022-01-01/2026-10-19）



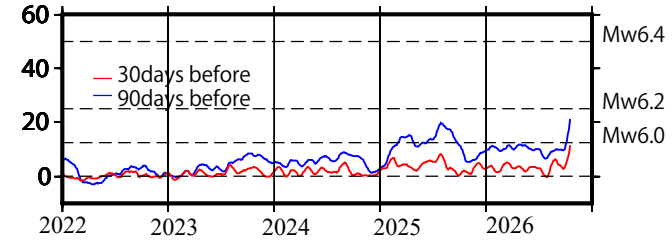
観測値（黒）と計算値（白）の比較
（2022-01-01/2026-10-19）



モーメント時系列（試算）



モーメント変化量の時間変化（30日間及び90日間）



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載している。
すべり量（カラー）及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示している。
推定したすべり量が標準偏差（σ）の３倍以上のグリッドを黒色で示している。

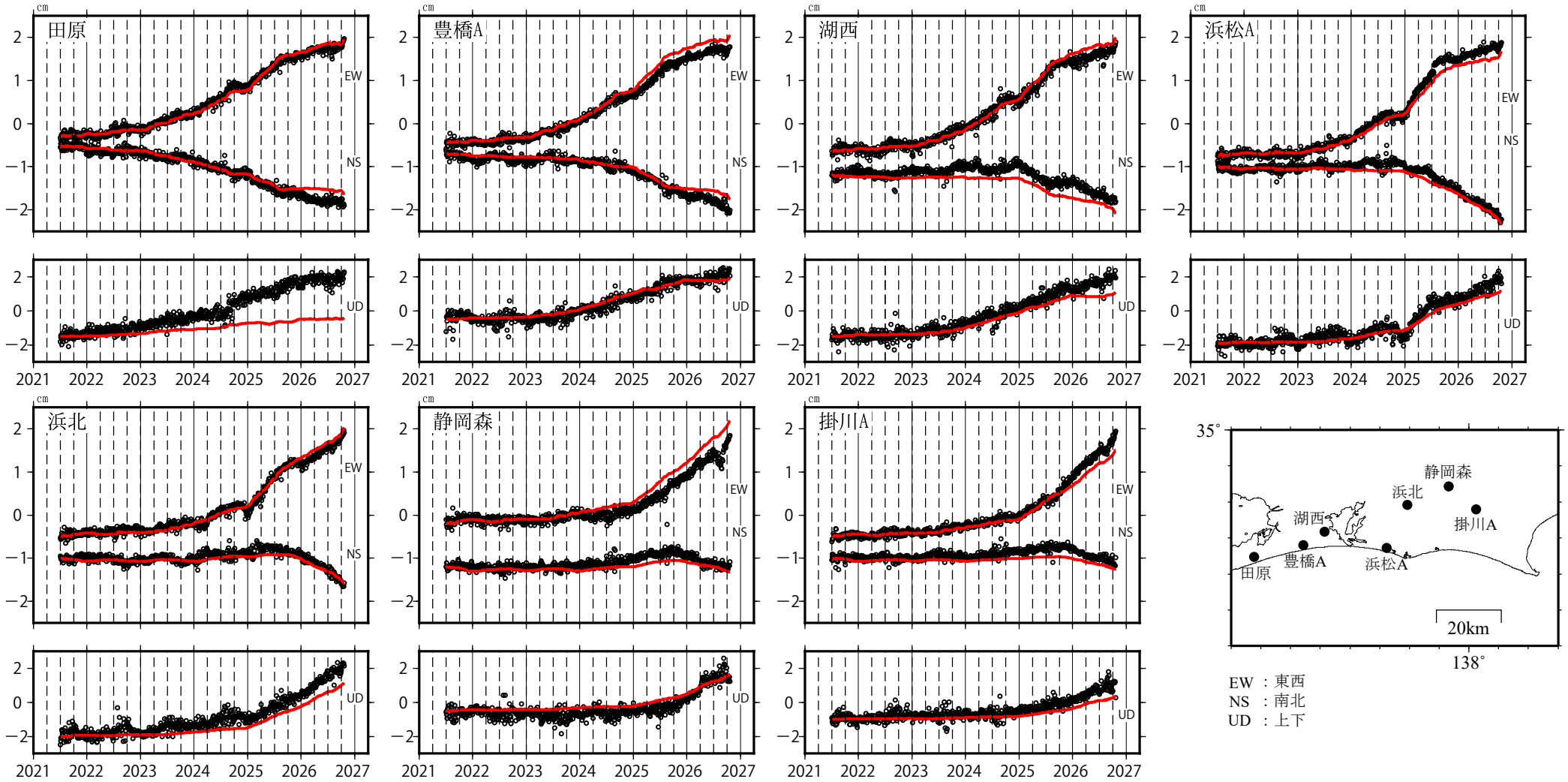
使用データ:GEONETによる日々の座標値(F5.1解、R5.1解)
　　F5.1解(2021-07-01/ 2026-10-03)+R5.1解 (2026-10-04/2026-10-19)
トレンド期間:2020-01-01/2022-01-01（年周・半年周成分は補正していない）
モーメント計算範囲:左図の黒枠内側
観測値:３日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値
黒破線:フィリピン海プレート上面の等深線(Hirose et al.,2008)
すべり方向:プレートの沈み込み方向に拘束
青丸:低周波地震（気象庁一元化震源）（期間:2022-01-01/2026-10-19）
モーメント:断層運動のエネルギーの目安となる量。

固定局:三隅

解析での補正内容
＊電子基準点の保守等による変動
＊共通誤差成分を推定
＊平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の粘弾性変形(Suito 2017)
＊令和６年能登半島地震に伴う地殻変動
＊令和６年能登半島地震の粘弾性変形(Suito 2025)
＊短期的ゆっくりすべりに伴う地殻変動（2017-01/ 2026-10-04:気象庁カタログによる）

国土地理院

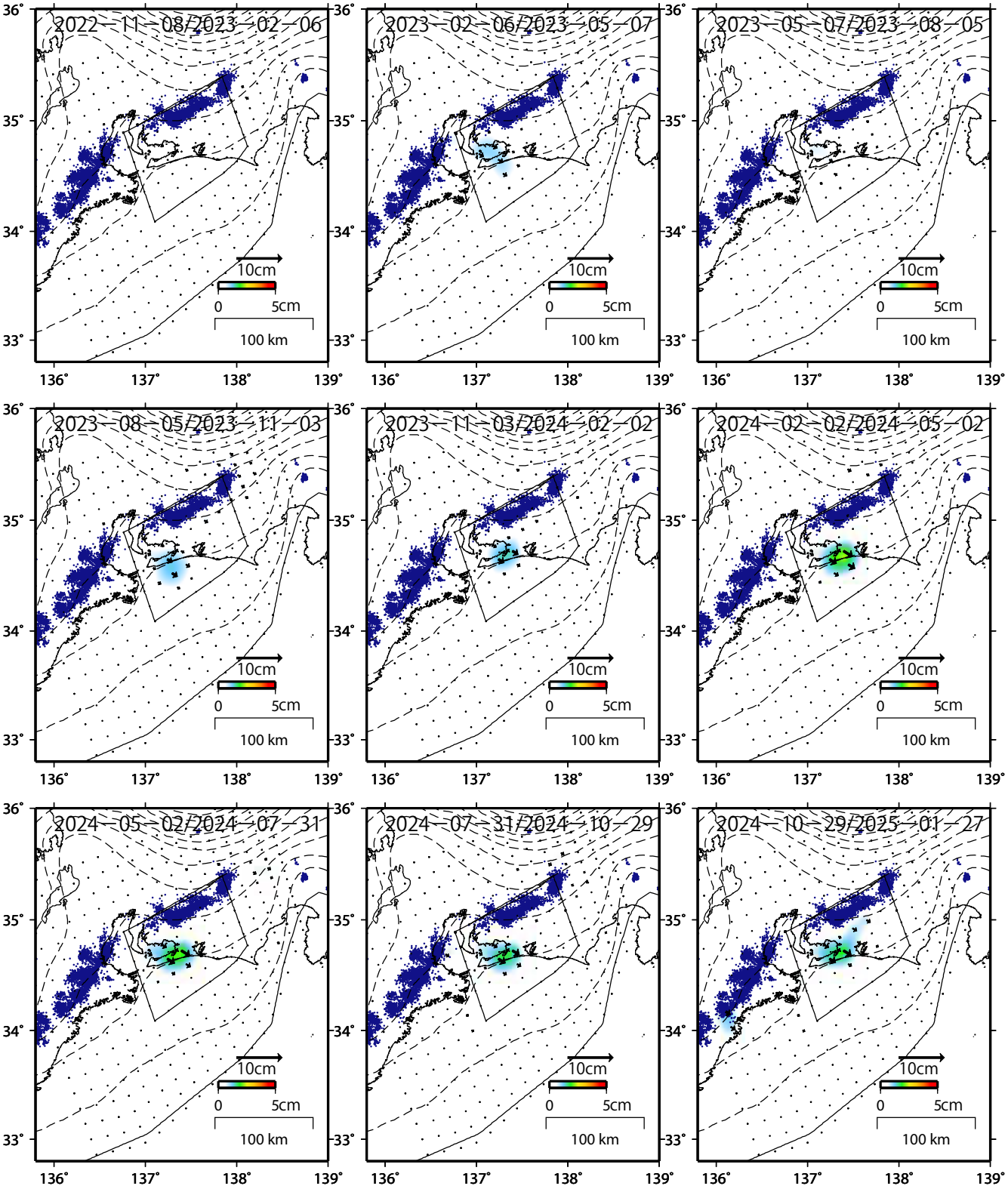
東海地域の観測点の座標時系列(黒丸)と計算値(赤線)
時間依存のインバージョン



EW ：東西
NS ：南北
UD ：上下

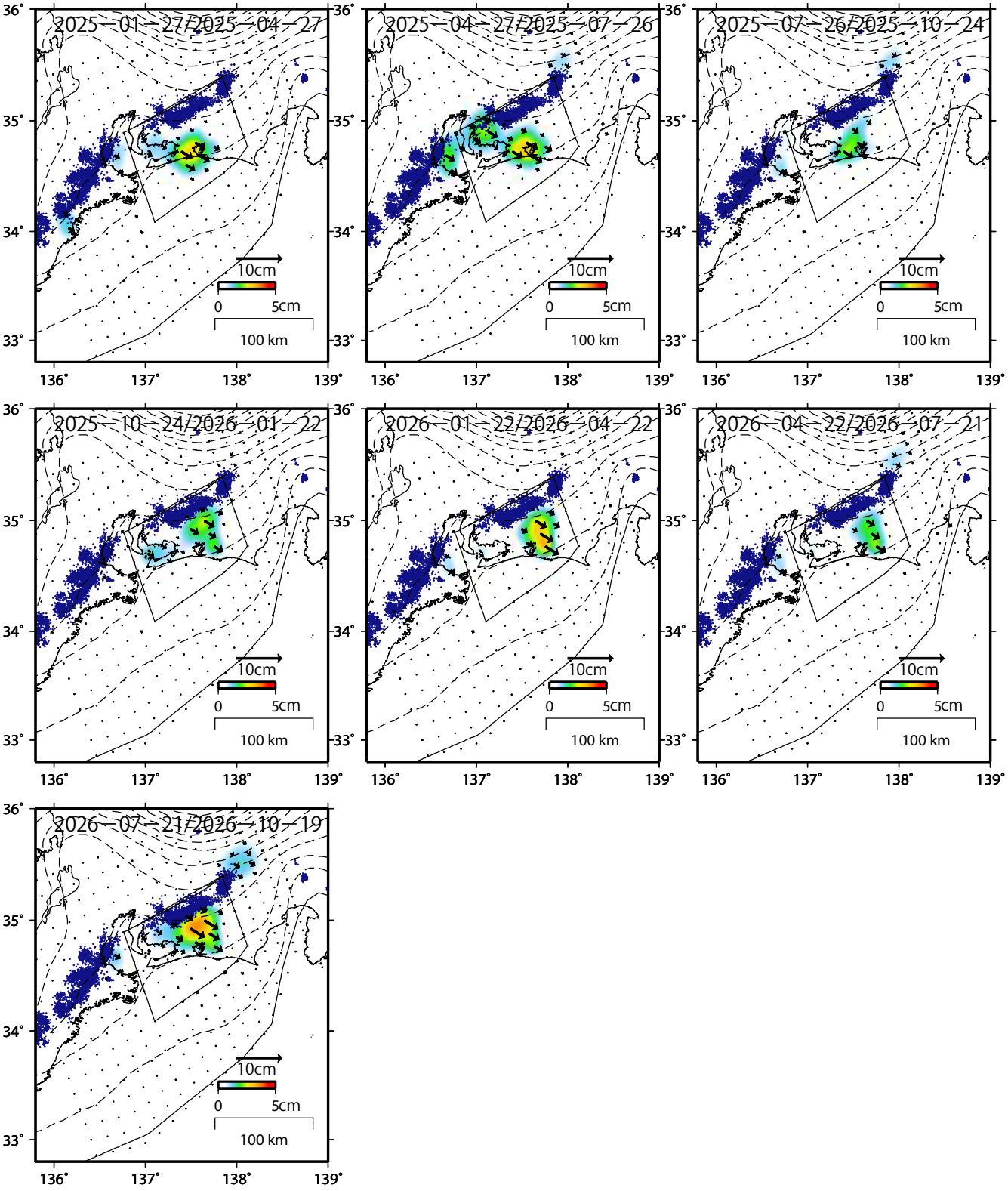
国土地理院

GNSSデータから推定された東海地域の長期的ゆっくりすべり（暫定）
推定すべり分布の時間変化（３か月ごと）



国土地理院

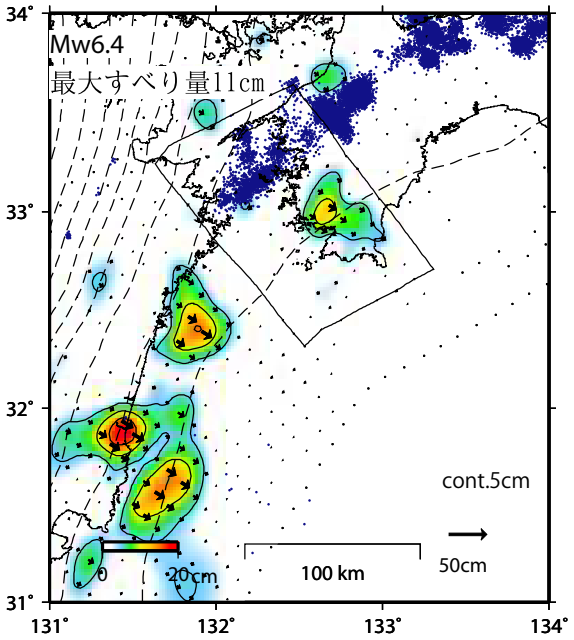
GNSSデータから推定された東海地域の長期的ゆっくりすべり（暫定）
推定すべり分布の時間変化（３か月ごと）



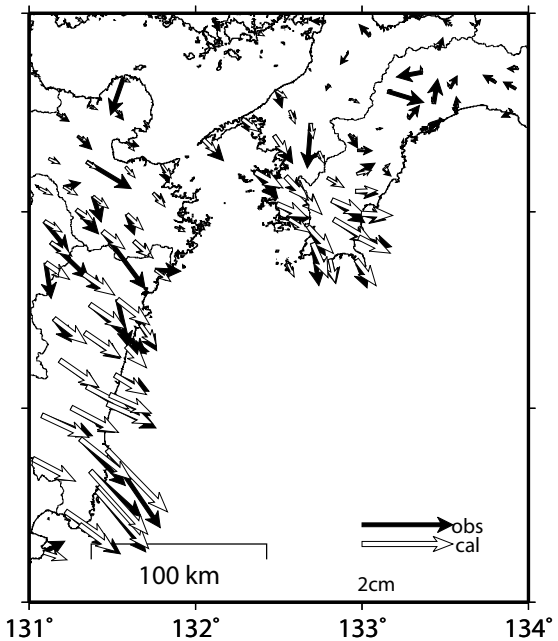
国土地理院

GNSSデータから推定された四国西部の長期的ゆっくりすべり(暫定)

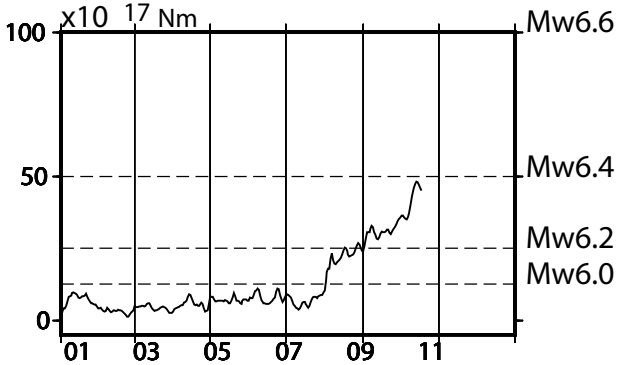
推定すべり分布
(2026-01-01/2026-10-18)



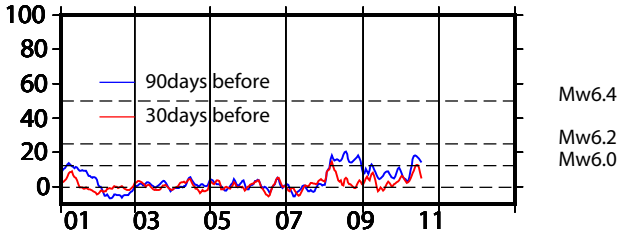
観測値（黒）と計算値（白）の比較
(2026-01-01/2026-10-18)



モーメント*時系列（試算）



モーメント変化量の時間変化(30日間及び90日間)



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載。
すべり量（カラー）及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示す。
推定したすべり量が標準偏差(σ)の３倍以上のグリッドを黒色で表示している。

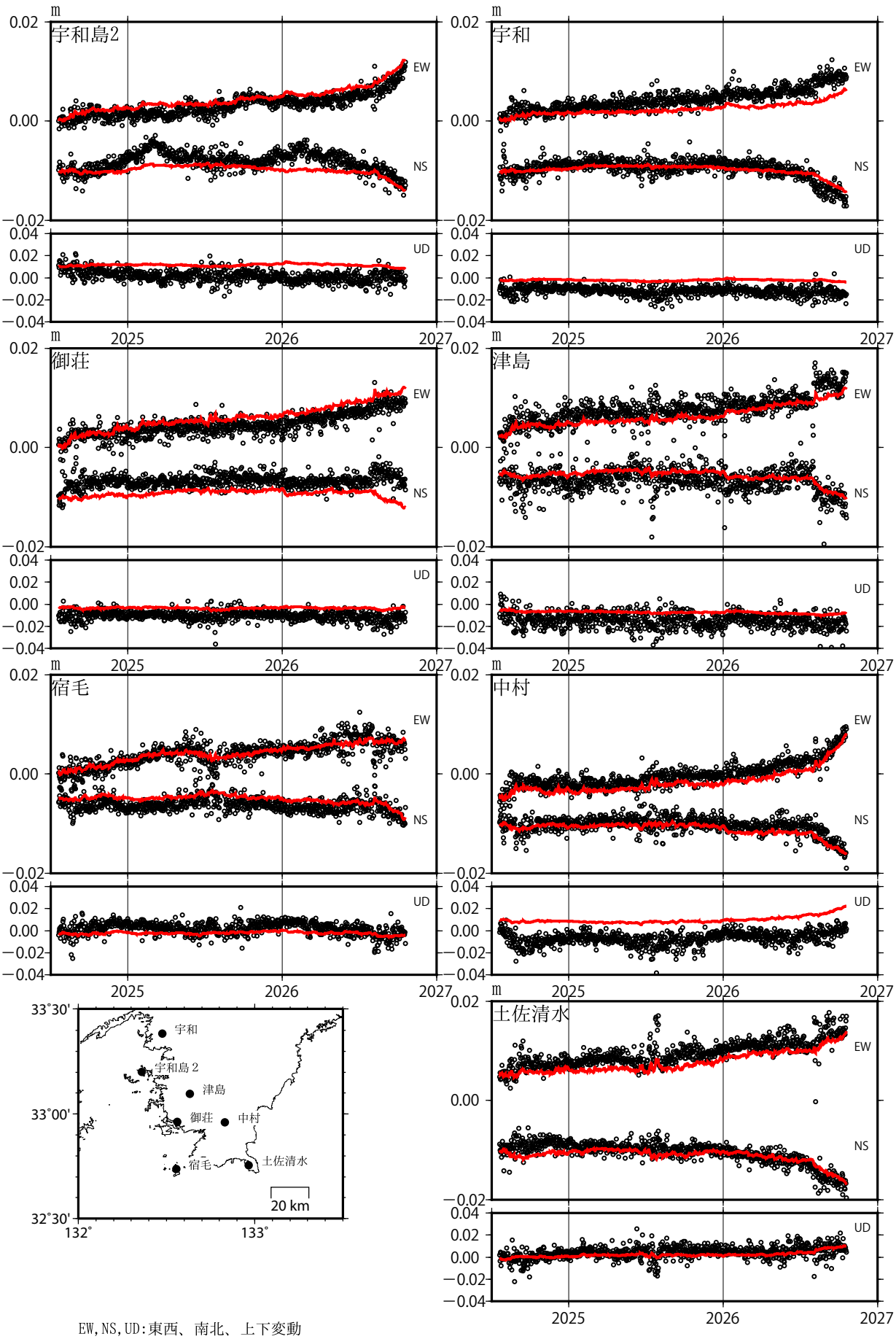
使用データ:GEONETによる日々の座標値(F5.1解、R5.1解)
　　F5.1解(2024-07-20/　2026-10-03)+R5.1解　(2026-10-04/2026-10-18)
トレンド期間:2006-01-01/2009-01-01（年周・半年周成分は補正なし）
日向灘附近:2007-10-01/2009-03-01
モーメント計算範囲:左図の黒枠内側
観測値:カルマンフィルターで平滑化した値
黒破線:フィリピン海プレート上面の等深線(Hirose et al.,2008)
すべり方向:プレートの沈み込み方向に拘束
青丸:低周波地震（気象庁一元化震源）（期間:2024-08-06/2026-10-18）
固定局:三隅

＊電子基準点の保守等による変動は補正済み
＊豊後水道の地震(2024-04-17,M6.6)の地殻変動を除去している。
＊日向灘の地震(2024-08-08,M7.1)の地震時変動を除去している。
＊日向灘の地震(2025-01-13,M6.6)の地震時変動を除去している。
＊令和８年熊本地震の地殻変動を除去している。
＊平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震及び平成28年(2016年)熊本地震の粘弾性変形は補正している(Suito,2017;水藤,2017)。
＊共通誤差成分を推定している。
＊モーメント:断層運動のエネルギーの目安となる量。

国土地理院

四国西部の観測点の座標時系列（黒丸）と計算値（赤線）

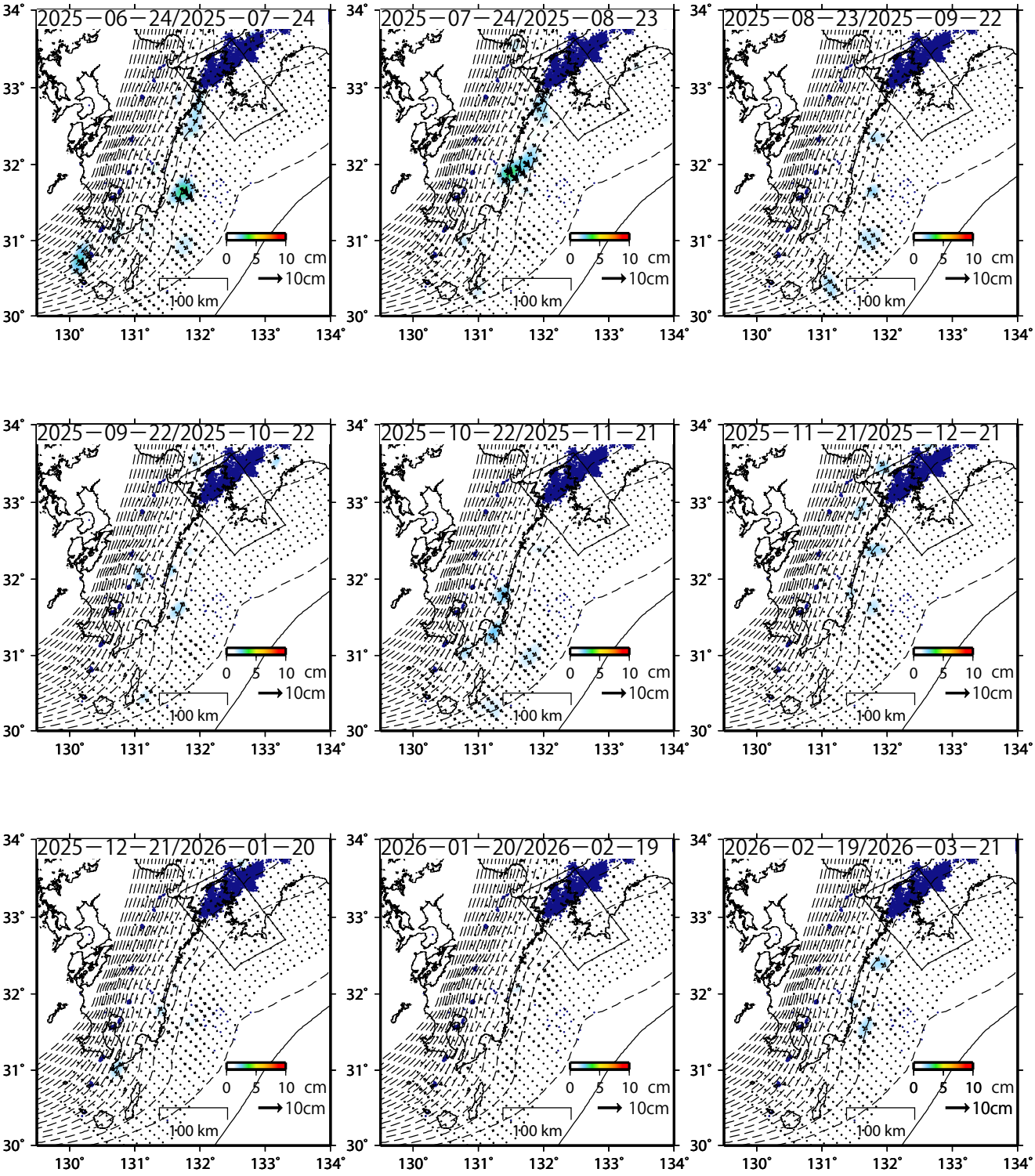
時間依存のインバージョン



EW,NS,UD:東西、南北、上下変動

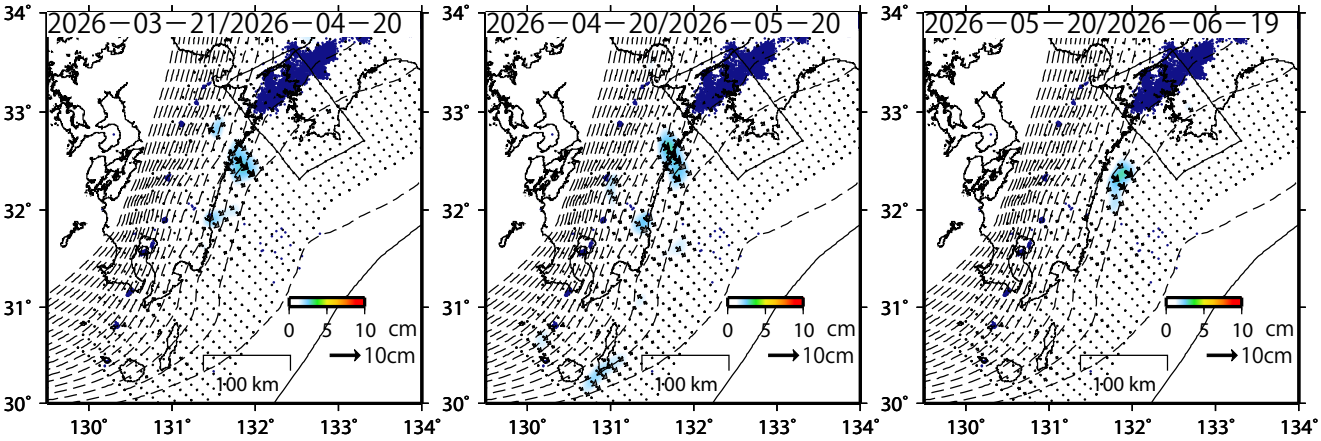
国土地理院

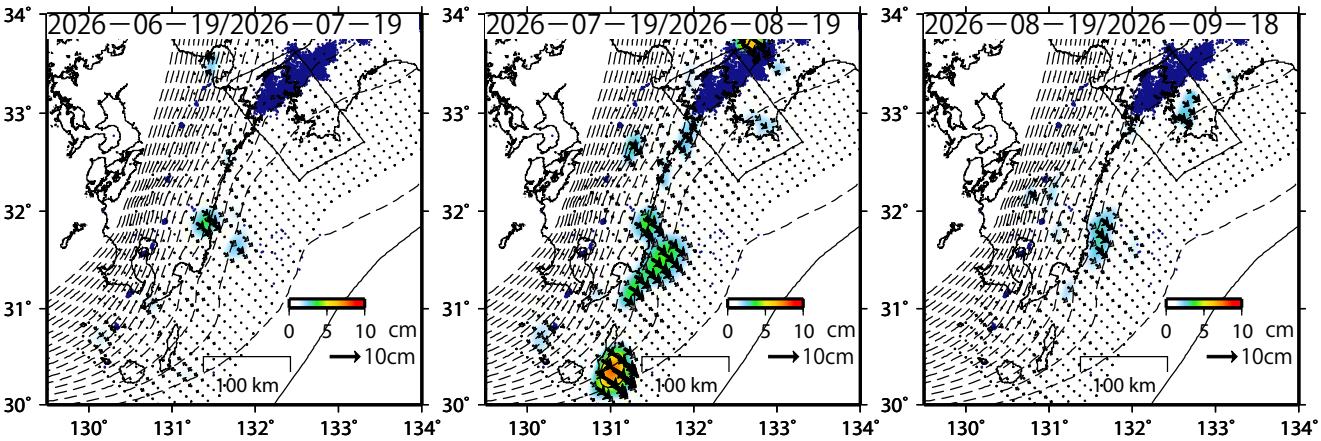
GNSSデータから推定された四国西部の長期的ゆっくりすべり（暫定）
推定すべり分布の時間変化（１か月ごと）

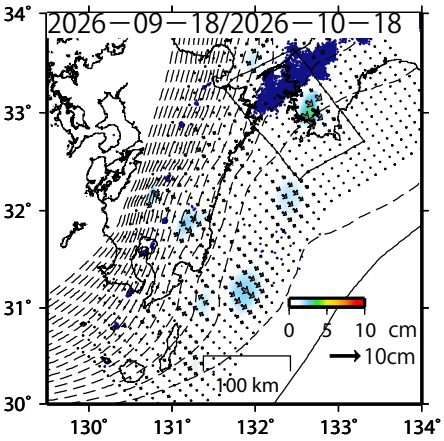


国土地理院

GNSSデータから推定された四国西部の長期的ゆっくりすべり（暫定）
推定すべり分布の時間変化（１か月ごと）

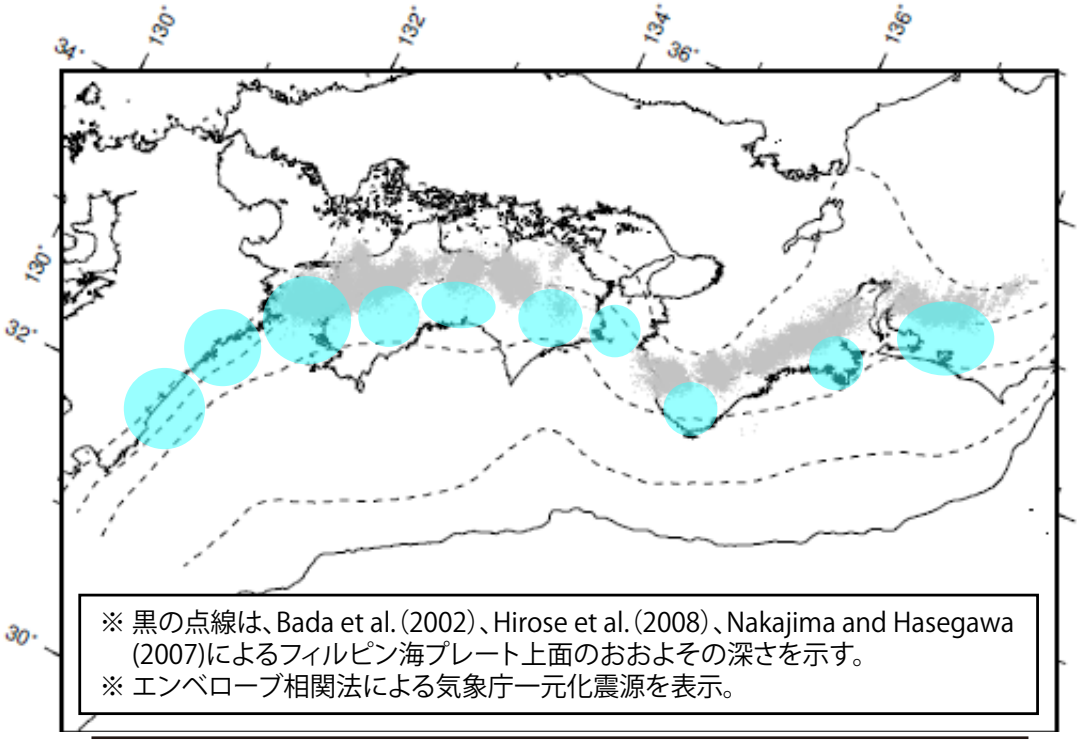




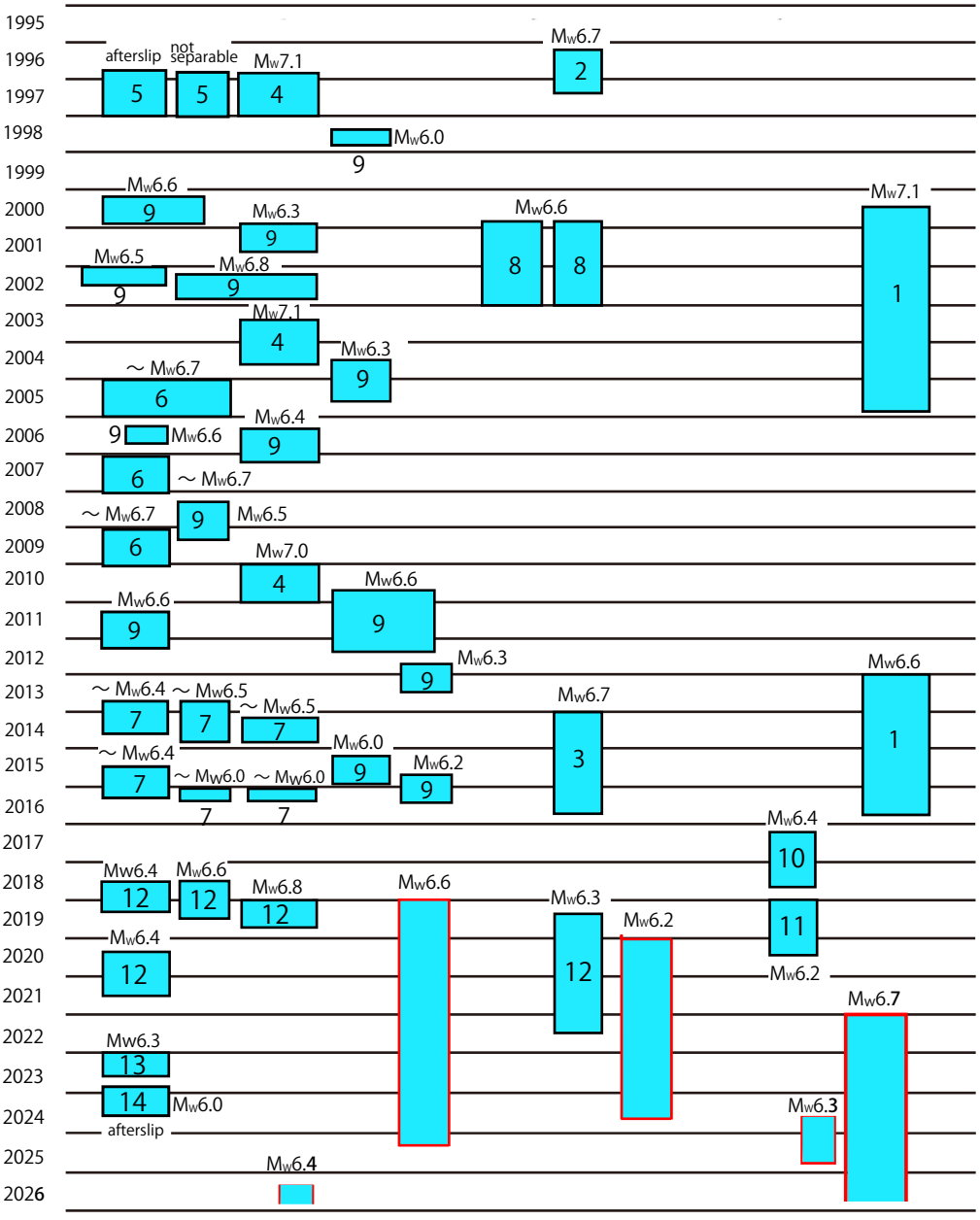


国土地理院

長期的ゆっくりすべりの全体概要



※ 黒の点線は、Bada et al.（2002）、Hirose et al.（2008）、Nakajima and Hasegawa (2007)によるフィルピン海プレート上面のおおよその深さを示す。
※ エンベロープ相関法による気象庁一元化震源を表示。



1. Ozawa et al. (2016)
2. Kobayashi (2014)
3. GSI (2016)
4. Ozawa et al. (2013)
5. Ozawa et al. (2001)
6. Yarai & Ozawa (2013)
7. Ozawa (2017)
8. Kobayashi (2017)
9. Takagi et al. (2019)
10. Kobayashi & Tsuyuki (2019)
11. GSI (2021)
12. Ozawa et al. (2024)
13. GSI (2023)
14. Ozawa et al. (2025)

評価検討会資料

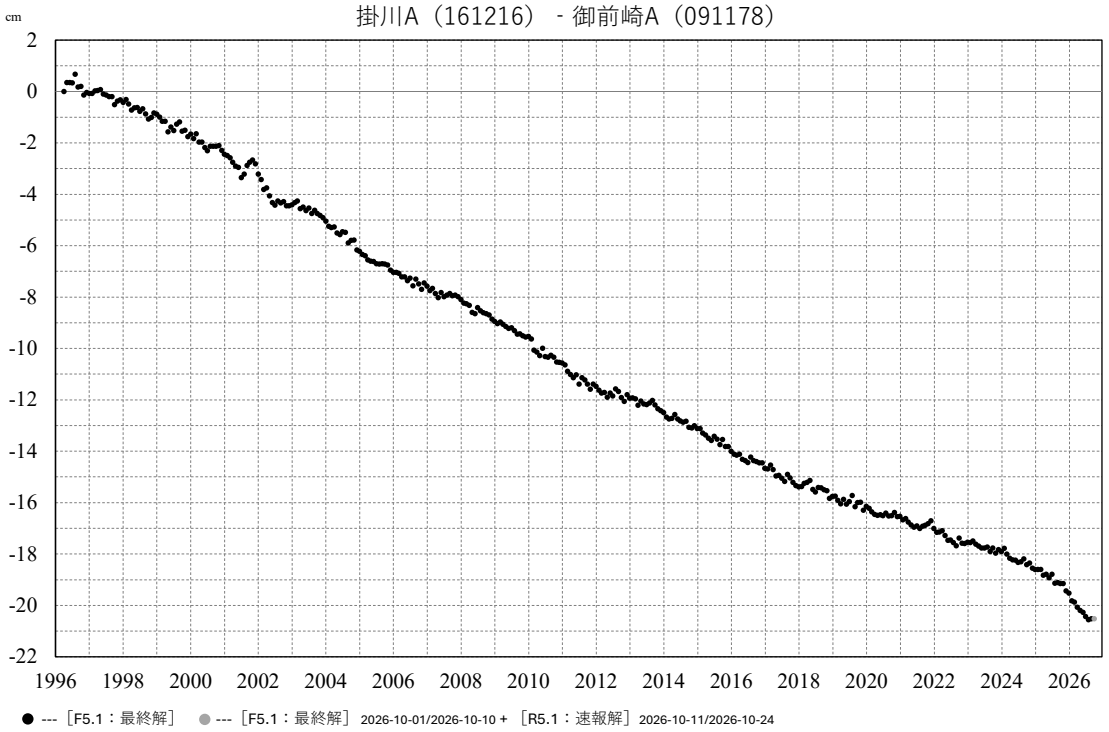
※ 本資料は、評価検討会における評価結果やOzawa et al.(2024)等をもとに、長期的ゆっくりすべりの発生場所と時期を模式的に示した図である。
それぞれのゆっくりすべりの詳細については、各文献等を参照願います。

気象庁
国土地理院

御前崎　電子基準点の上下変動

水準測量とGNSS連続観測

掛川に対して、御前崎が沈降する長期的な傾向が続いている。



- GNSS 連続観測のプロット点は、GEONET による日々の座標値（F5.1:最終解 及び R5.1:速報解）から計算した値の月平均値.

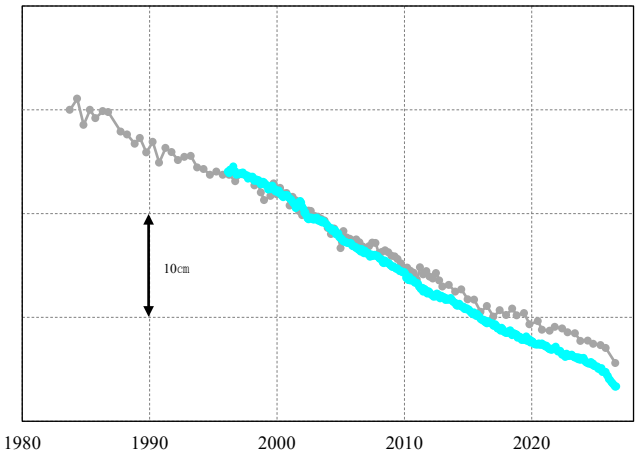
※ 2009 年8 月11 日の駿河湾の地震に伴う電子基準点「御前崎」の局所的な変動について、地震前後の水準測量で得られた「御前崎」周辺の水準点との比高の差を用いて補正を行った。

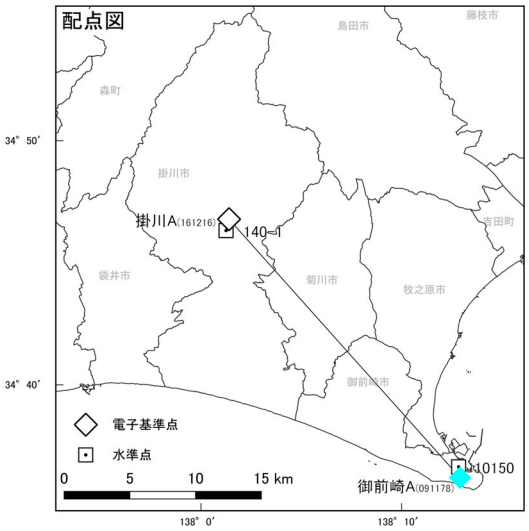
※ 電子基準点「御前崎Ａ」については、2010 年3 月23 日まで電子基準点「御前崎」のデータを使用.

※ 電子基準点「掛川Ａ」については、2017 年1 月29 日まで電子基準点「掛川」のデータを使用.

※ 2026年初頭頃から見られる沈降速度の増加は、東海地方の長期的ゆっくりすべりのすべりの中心が浜名湖の東側へ移動していることに伴う電子基準点「掛川A」等での変動の影響によるものである.

【長期間の上下変動】「固定局：掛川A（161216）」





- 水色のプロットは上記のGEONET による日々の座標値の月平均値.
- 灰色のプロットは電子基準点の最寄りの水準点「10150」の水準測量結果を示している（固定：140-1）.

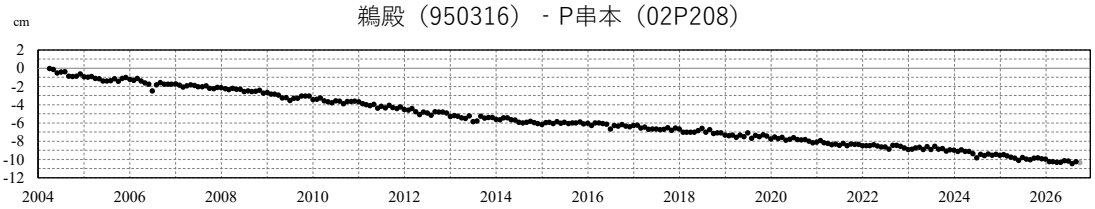
国土地理院

紀伊半島及び室戸岬周辺　電子基準点の上下変動

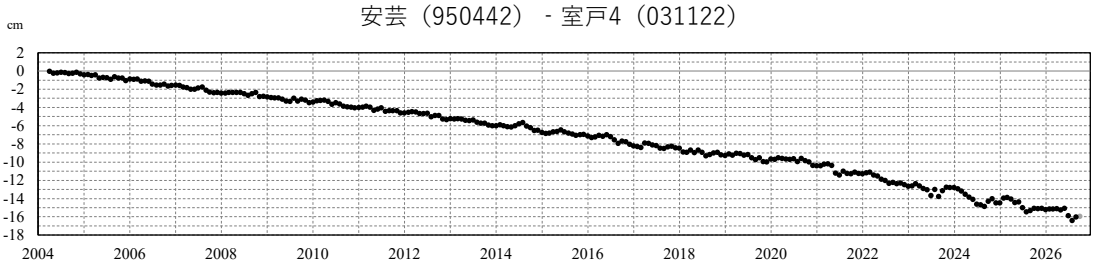
水準測量とGNSS連続観測

潮岬周辺及び室戸岬周辺の長期的な沈降傾向が続いている。

鵜殿（950316） - P串本（02P208）

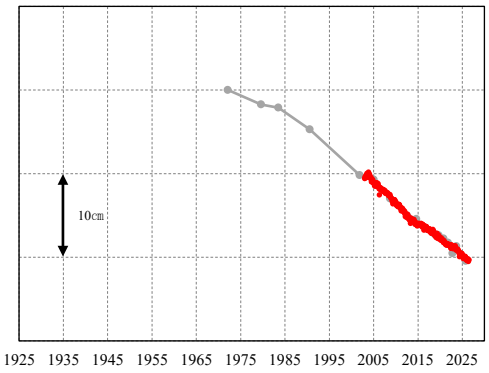


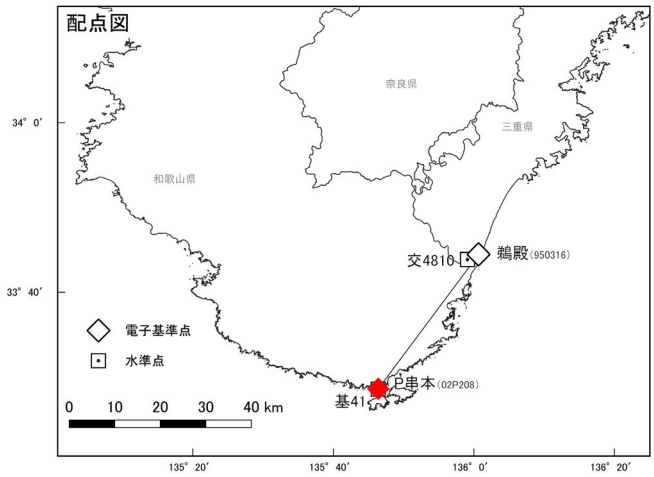
安芸（950442） - 室戸4（031122）

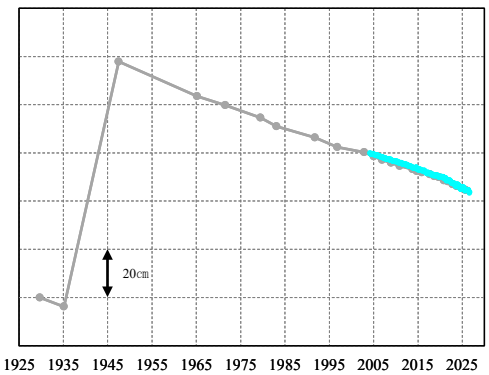


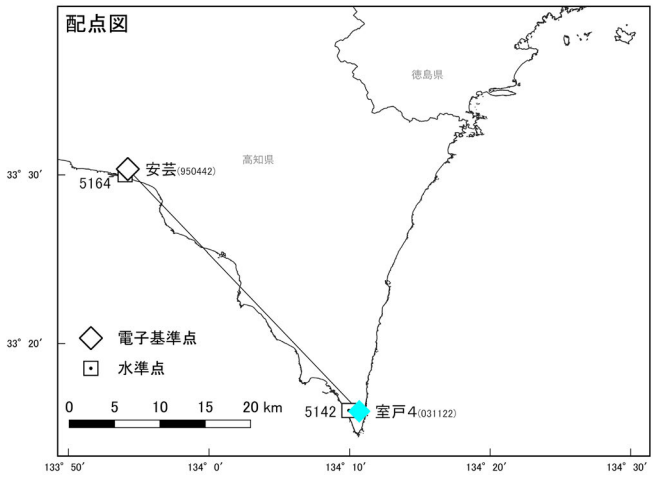
● ---［F5.1：最終解］ ● ---［F5.1：最終解］2026-10-01/2026-10-10 + ［R5.1：速報解］2026-10-11/2026-10-24

【長期間の上下変動】









- GNSS 連続観測のプロット点は，GEONET による日々の座標値（F5.1：最終解及びR5.1:速報解）から計算した値の月平均値.
- 灰色のプロットは電子基準点の最寄りの水準点の水準測量結果を示している（固定：交4810，5164）.

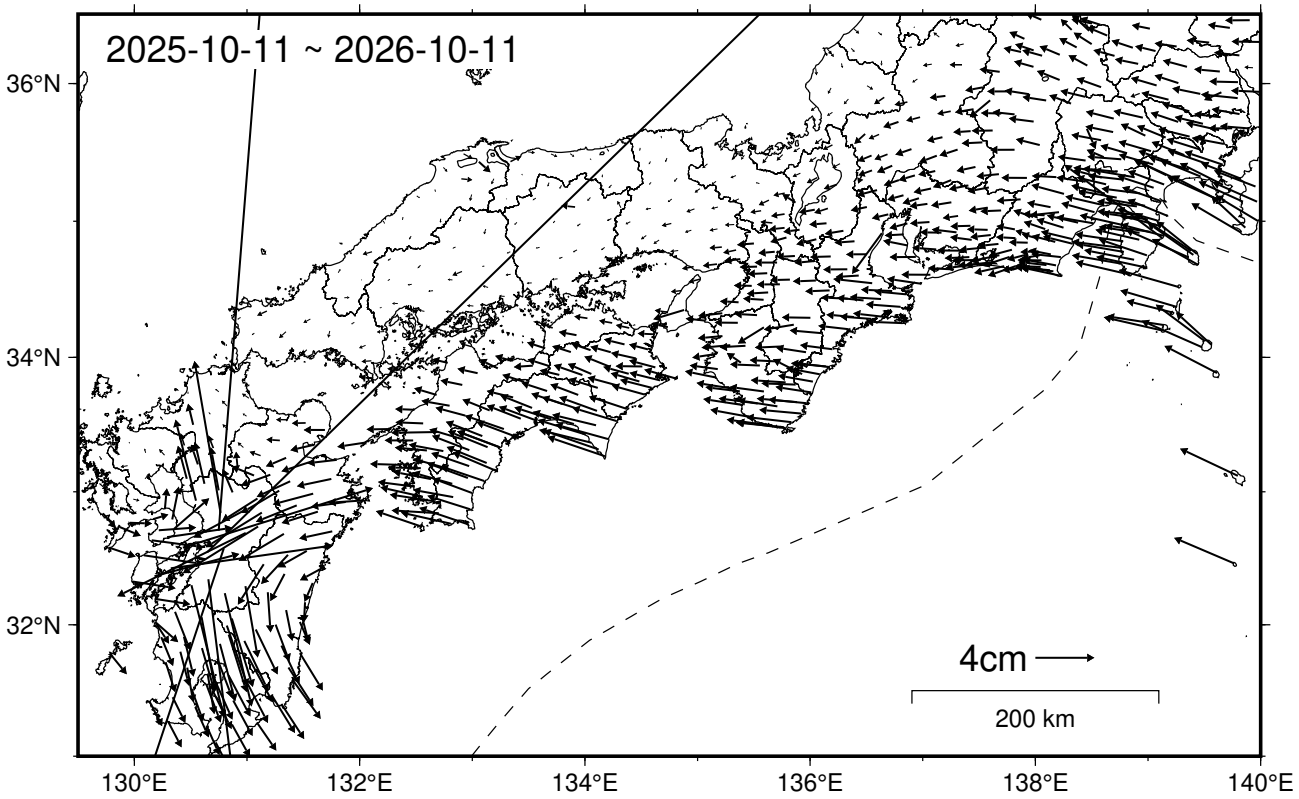
※　2021 年2 月2 日に電子基準点「安芸」のアンテナ更新及びレドーム交換を実施した.

※　2024 年11 月25 日に電子基準点「鵜殿」のアンテナ更新を実施した.

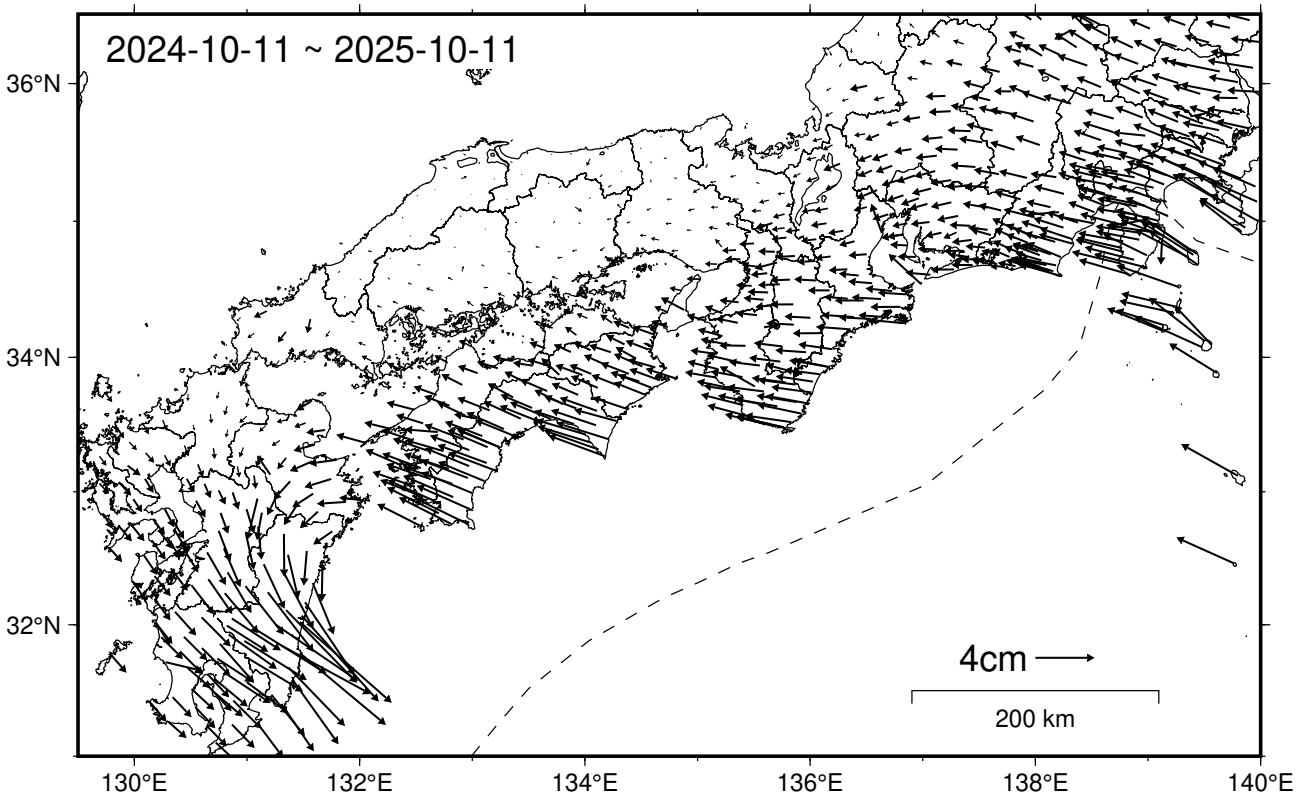
国土地理院

南海トラフ沿いの水平地殻変動【固定局：三隅】

【最近１年間】



【１年前の１年間】



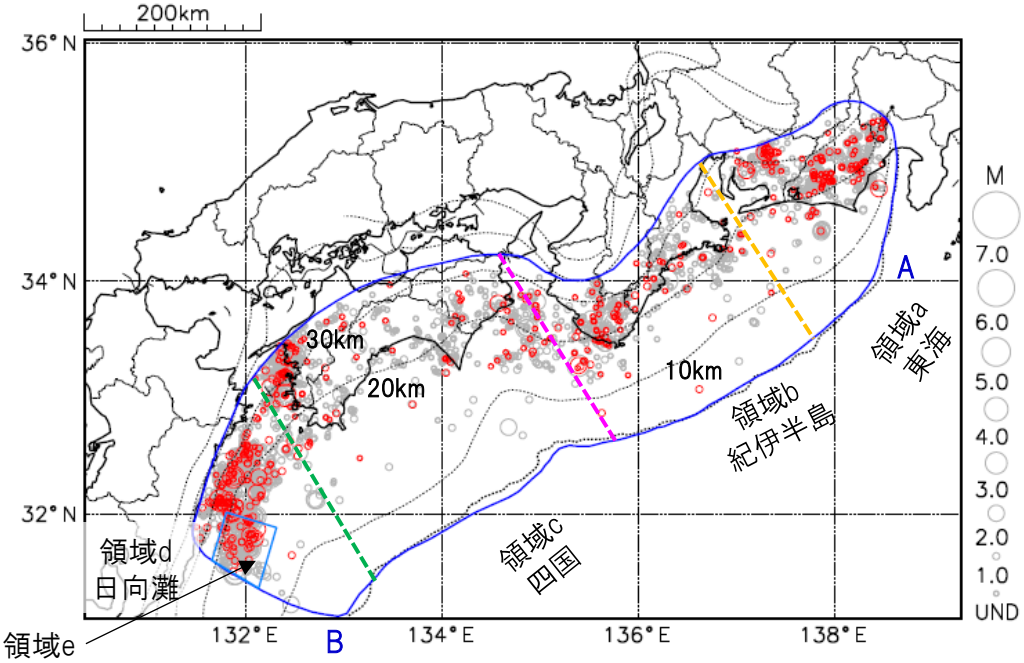
・各日付 ± ６日の計 13 日間の変動量の中央値をとり、その差から１年間の変動量を表示している。

国土地理院

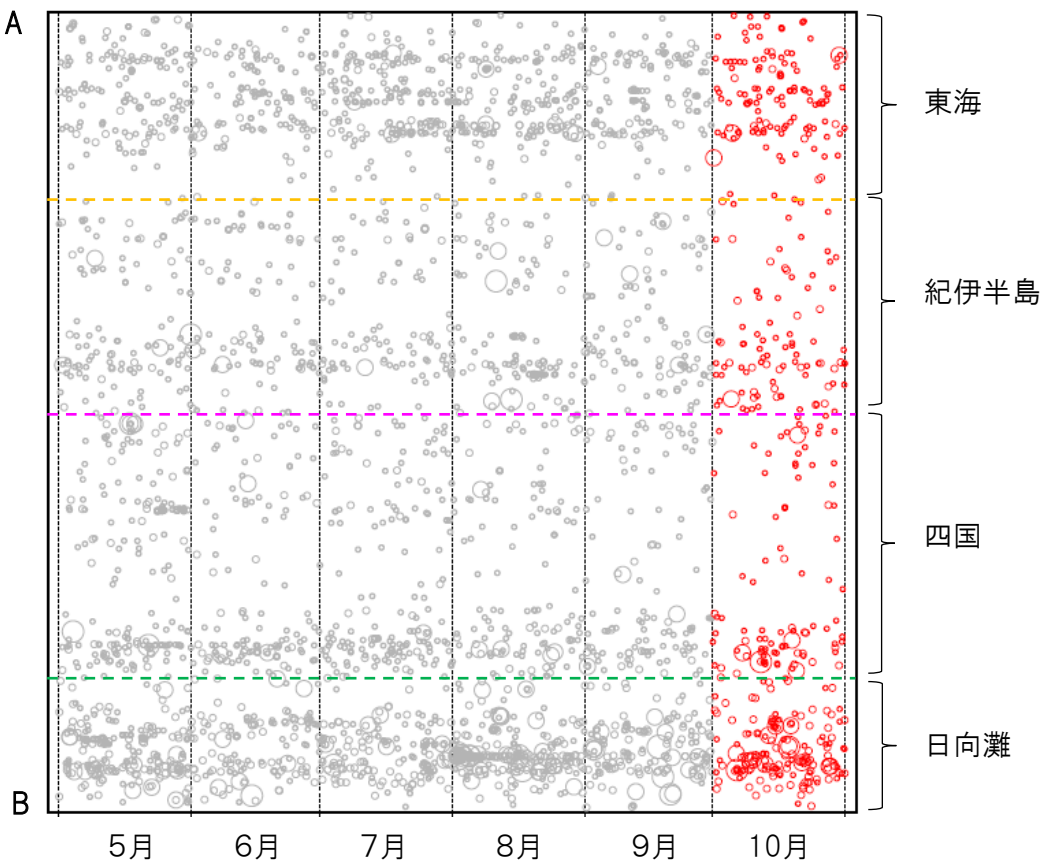
プレート境界とその周辺の地震活動

フィリピン海プレート上面の深さから±8km未満の地震を表示している。
日向灘の領域e内のみ、深さ20km～35kmの地震を追加している。

震央分布図
（2026年5月1日～2026年10月31日、M全て、2026年10月の地震を赤く表示）



南海トラフ巨大地震の想定震源域内の時空間分布図（A-B投影）



・フィリピン海プレート上面の深さは、Baba et al.(2002)、Hirose et al.(2008)、Nakajima and Hasegawa(2007)による。震央分布図中の点線は10kmごとの等深線を示す。
・今期間の地震のうち、M3.2以上の地震で想定南海トラフ地震の発震機構解と類似の型の地震に吹き出しを付している。吹き出しの右下の数値は、フィリピン海プレート上面の深さからの差（+は浅い、-は深い）を示す。
・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。

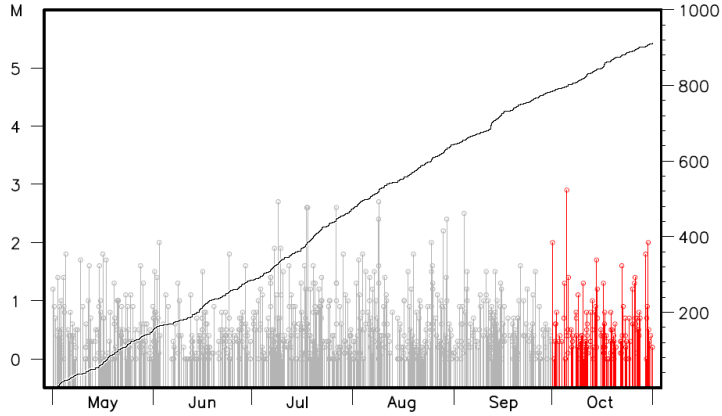
気象庁作成

プレート境界とその周辺の地震活動

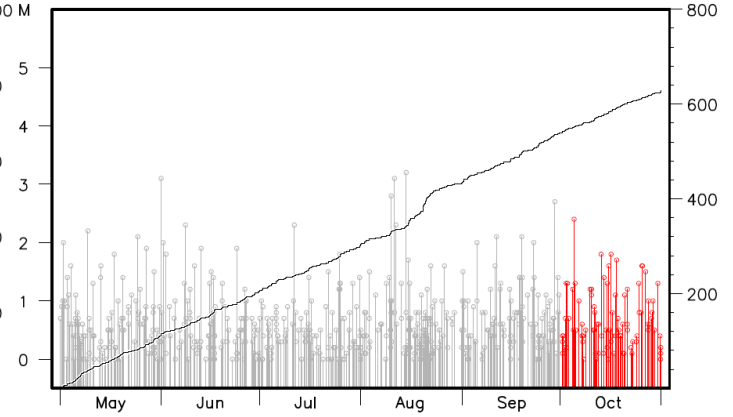
フィリピン海プレート上面の深さから±8km未満の地震を表示している。

震央分布図の各領域内のMT図･回数積算図
（2026年5月1日～2026年10月31日、M全て、2026年10月の地震を赤く表示）

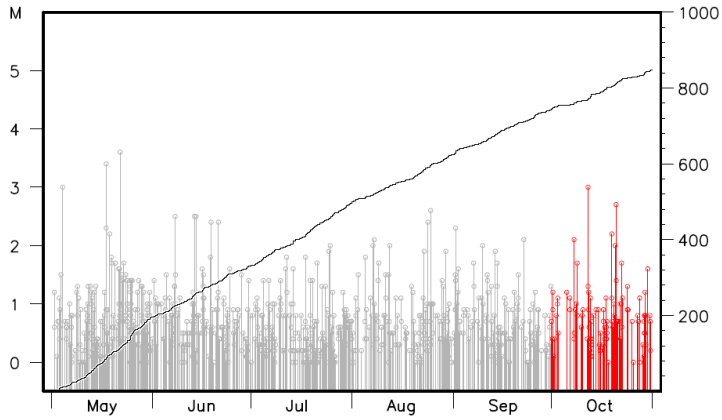
領域a内（東海）



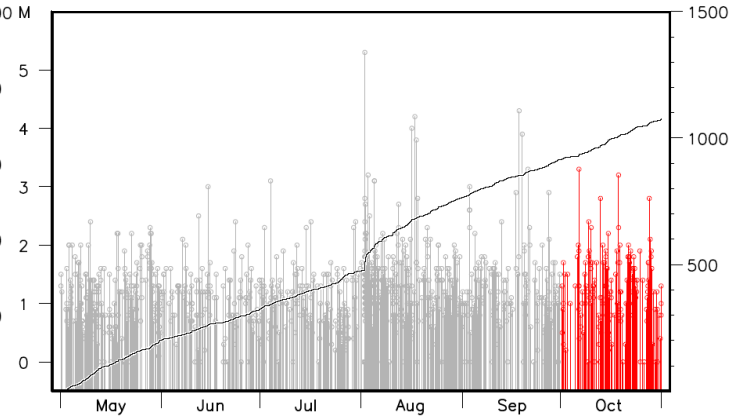
領域b内（紀伊半島）



領域c内（四国）



領域d内（日向灘）

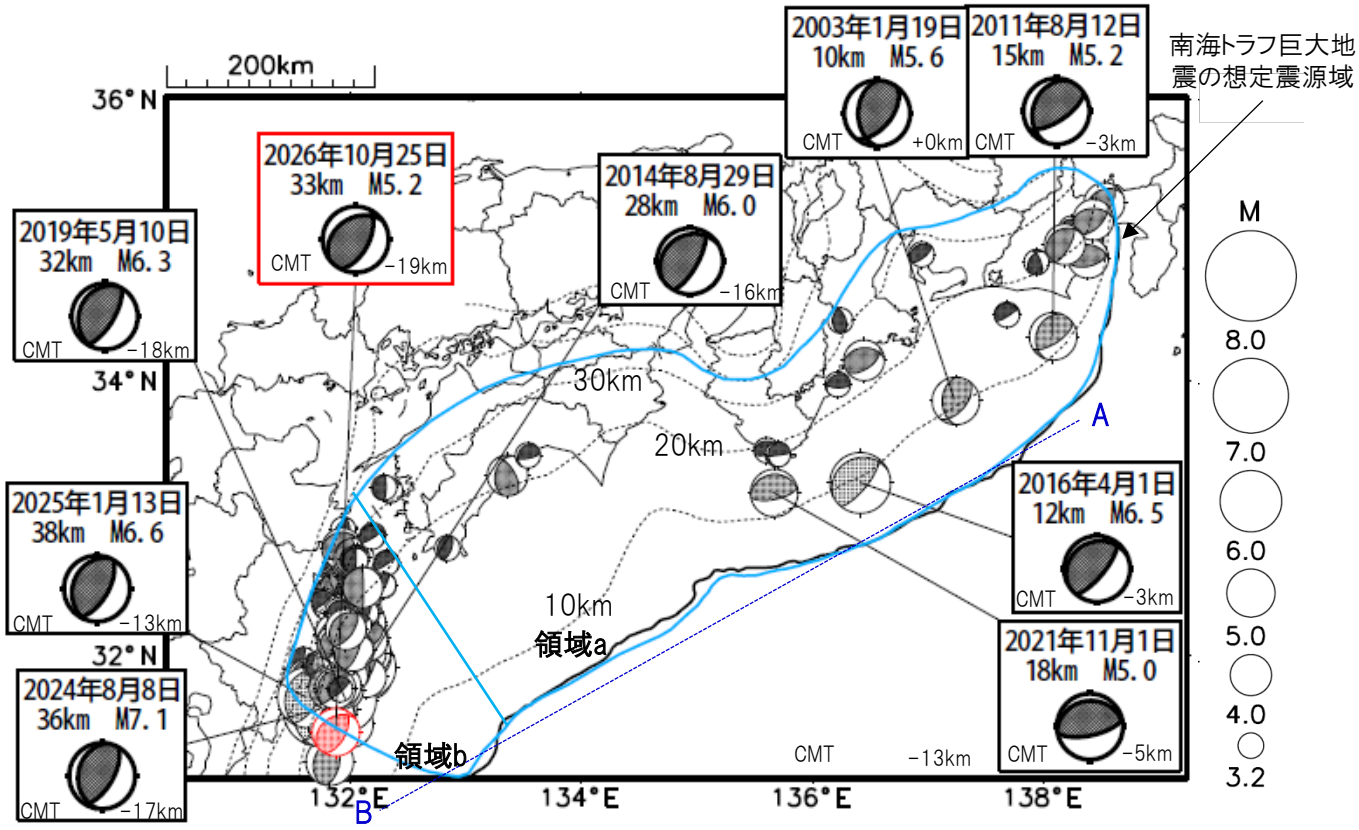


※M全ての地震を表示していることから、検知能力未満の地震も表示しているため、回数積算図は参考として表記している。

気象庁作成

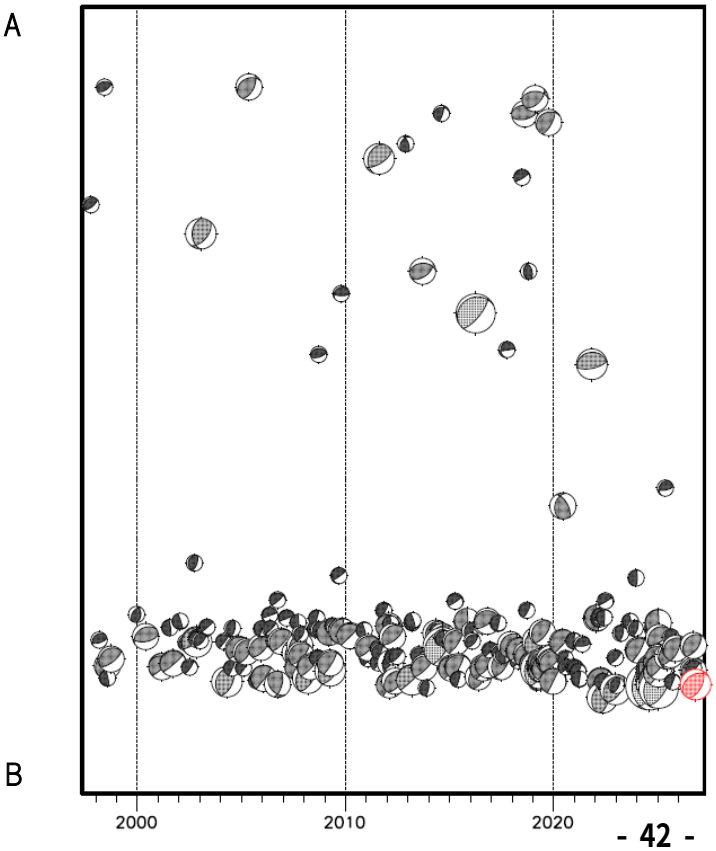
想定南海トラフ地震の発震機構解と類似の型の地震

震央分布図（1987年9月1日～2026年10月31日、M≧3.2、2026年10月の地震を赤く表示）



・フィリピン海プレート上面の深さは、Baba et al.(2002)、Hirose et al.(2008)、Nakajima and Hasegawa(2007)による。震央分布図中の点線は10kmごとの等深線を示す。
・今期間に発生した地震（赤）、日向灘のM6.0以上、その他の地域のM5.0以上の地震に吹き出しを付けている。
・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。
・吹き出しの右下の数値は、フィリピン海プレート上面の深さからの差を示す。+は浅い、−は深いことを示す。
・吹き出しに「CMT」と表記した地震は、発震機構解と深さはCMT解による。Mは気象庁マグニチュードを表記している。
・発震機構解の解析基準は、解析当時の観測網等に応じて変遷しているため一定ではない。

震央分布図内の時空間分布図



プレート境界型の地震と類似の型の発震機構解を持つ地震は以下の条件で抽出した。

【抽出条件】
・M3.2以上の地震
・領域a内（南海トラフの想定最大規模の想定震源域内）で発生した地震
・発震機構解が以下の条件を全て満たしたものを抽出した。
　P軸の傾斜角が45度以下
　P軸の方位角が65度以上180度以下（※）
　T軸の傾斜角が45度以上
　N軸の傾斜角が30度以下
　※以外の条件は、東海地震と類似の型を抽出する条件と同様
・発震機構解は、CMT解と初動解の両方で検索をした。
・同一の地震で、CMT解と初動解の両方がある場合はCMT解を選択している。
・東海地方から四国地方（領域a）は、フィリピン海プレート上面の深さから±10km未満の地震のみ抽出した。日向灘（領域b）は、+10km～−20km未満の震源を抽出した。CMT解はセントロイドの深さを使用した。

気象庁作成

南海トラフ巨大地震の想定震源域とその周辺の地震活動指数

2026年10月31日

領域		①静岡県中西部		②愛知県		③浜名湖周辺	④駿河湾	⑤東海	⑥東南海	⑦南海
		地	プ	地	プ	プ	全	全	全	全
地震活動指数		2	0	7	4	4	6	2	4	4
平均回数		16.3	17.9	27.0	13.8	13.1	13.2	17.8	19.7	21.6
Mしきい値		1.1		1.1		1.1	1.4	1.5	2.0	2.0
クラスタ除去	距離	3km		3km		3km	10km	10km	10km	10km
	日数	7日		7日		7日	10日	10日	10日	10日
対象期間		60日	90日	60日	30日	360日	180日	90日	360日	90日
深さ		0～30km	0～60km	0～30km	0～60km	0～60km	0～60km	0～60km	0～100km	0～100km

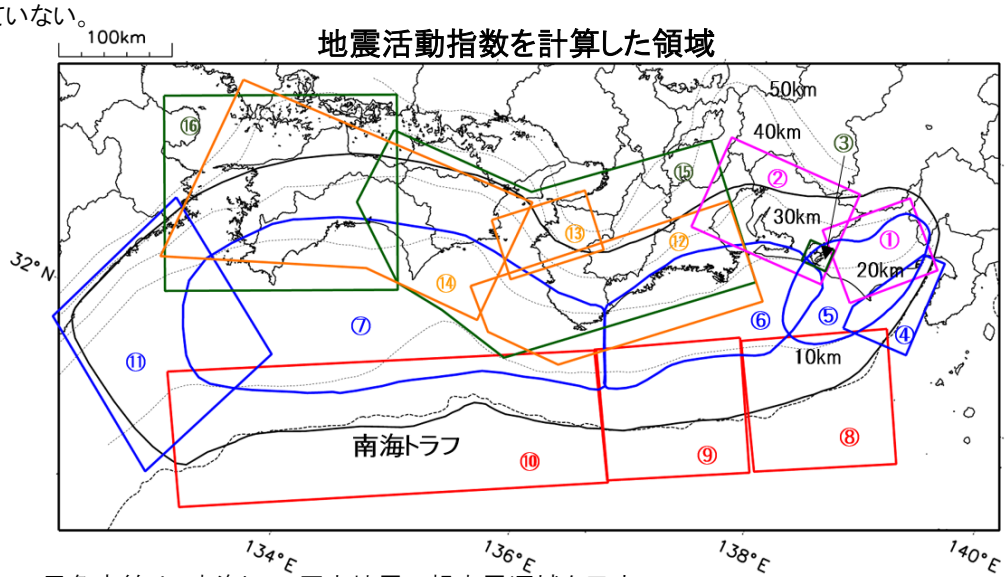
領域		南海トラフ沿い ⑧東側	南海トラフ沿い ⑩西側	⑪日向灘	⑫紀伊半島	⑬和歌山	⑭四国	⑮紀伊半島	⑯四国
		全	全	全	地	地	地	プ	プ
地震活動指数		5	5	7	1	4	2	4	6
平均回数		13.2	14.5	21.6	22.4	40.9	31.3	27.8	28.6
Mしきい値		2.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
クラスタ除去	距離	10km	10km	10km	3km	3km	3km	3km	3km
	日数	10日	10日	10日	7日	7日	7日	7日	7日
対象期間		720日	360日	60日	120日	60日	90日	30日	30日
深さ		0～100km	0～100km	0～100km	0～20km	0～20km	0～20km	20～100km	20～100km

＊基準期間は、全領域1997年10月1日～2026年10月31日

＊領域欄の「地」は地殻内、「プ」はフィリピン海プレート内で発生した地震であることを示す。ただし、震源の深さから便宜的に分類しただけであり、厳密に分離できていない場合もある。「全」は浅い地震から深い地震まで全ての深さの地震を含む。

＊⑨の領域（三重県南東沖）は、2004年9月5日以降の地震活動の影響で、地震活動指数を正確に計算できないため、掲載していない。

地震活動指数を計算した領域



地震活動指数と地震数

地震回数の指数化

指数	確率(%)	地震数
8	1	多い
7	4	やや多い
6	10	
5	15	ほぼ平常
4	40	
3	15	
2	10	やや少ない
1	4	
0	1	少ない

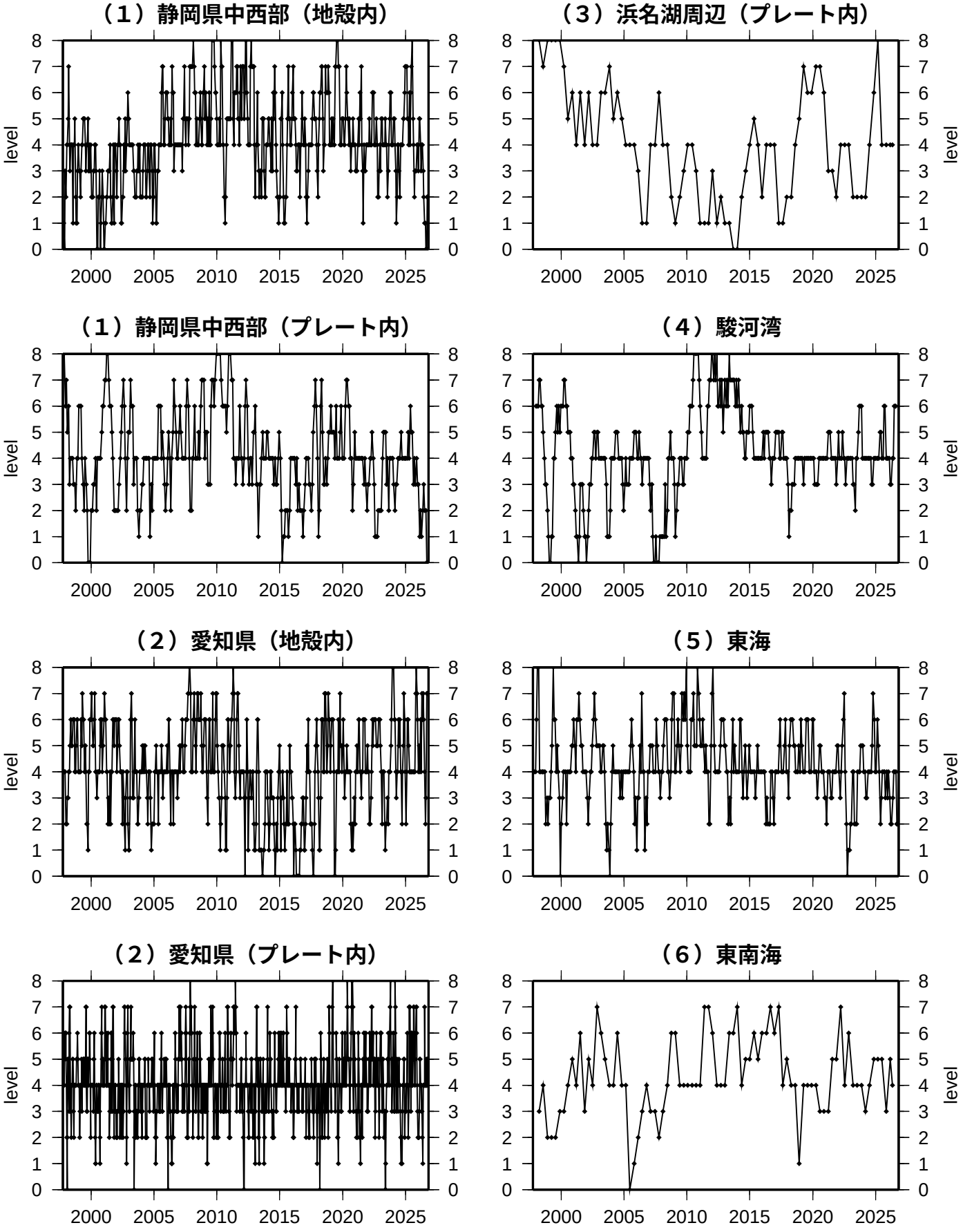
＊黒色実線は、南海トラフ巨大地震の想定震源域を示す。

＊Baba et al.(2002)、Hirose et al.(2008)、Nakajima and Hasegawa(2007)によるプレート境界の等深線を破線で示す。

気象庁作成

地震活動指数一覧

2026年10月31日

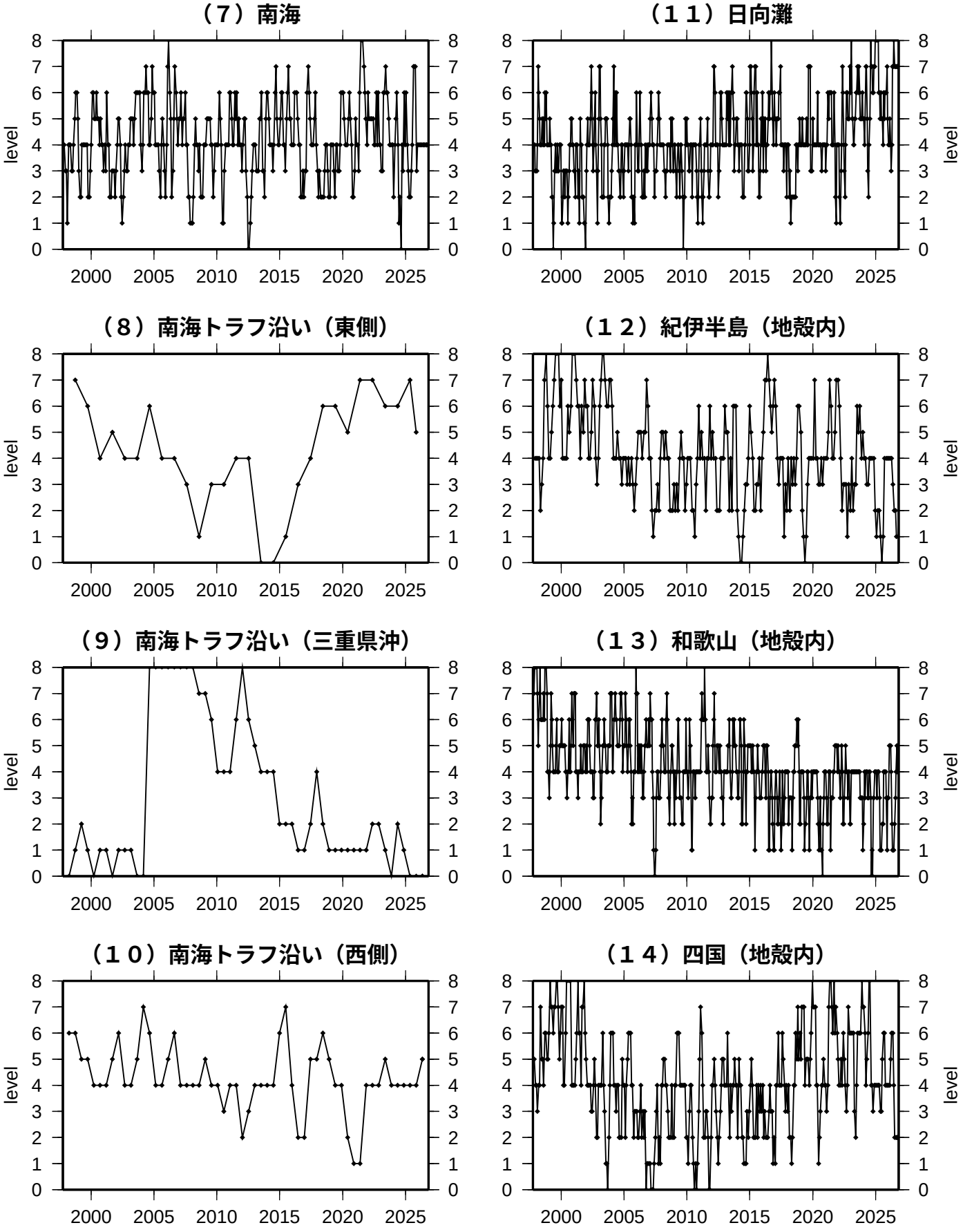


活動指数	0	1	2	3	4	5	6	7	8
確率（%）	1	4	10	15	40	15	10	4	1
地震数	少 ←				平常			→ 多	

気象庁作成

地震活動指数一覧

2026年10月31日

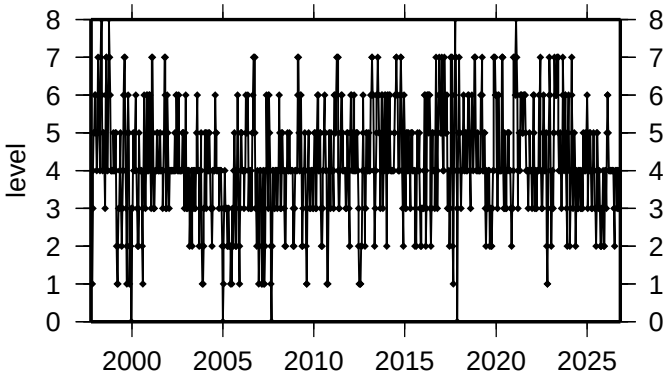


気象庁作成

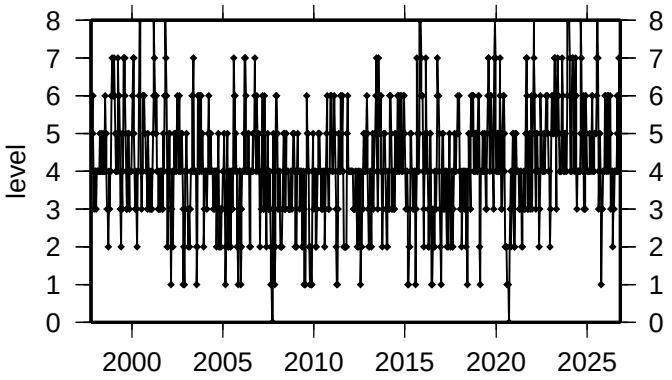
地震活動指数一覧

2026年10月31日

（１５）紀伊半島（プレート内）



（１６）四国（プレート内）



活動指数	0	1	2	3	4	5	6	7	8
確率（%）	1	4	10	15	40	15	10	4	1
地震数	少 ←				平常			→ 多	

気象庁作成

南海トラフ周辺の各種観測等について（リンク集）

○ GNSS観測 （国土地理院：日本列島の地殻変動）
https://www.gsi.go.jp/kanshi/index.html

○GNSS−Aによる海底地殻変動観測 （海上保安庁：海底の動きを測る ～海底地殻変動観測～）
https://www1.kaiho.mlit.go.jp/chikaku/kaitei/sgs/index.html

○高感度地震観測網 （防災科研：高感度地震観測網）
https://www.hinet.bosai.go.jp/

○孔内・海底ケーブルによる海底地殻変動観測 （海洋研究開発機構：地震火山研究部門）
https://www.jamstec.go.jp/rimg/j/

○ひずみ観測 （産業技術総合研究所：地震に関連する地下水観測データベース）
https://gbank.gsj.jp/wellweb/GSJ/index.shtml

○南海トラフ地震全般 （気象庁：南海トラフ地震について）
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/jishin/nteq/index.html

（気象庁）